

加古川市人権に関する 市民意識調査報告書

令和4年（2022年）3月

加古川市

はじめに

本市では、平成30年（2018年）3月に、「相手を思う想像力」「多様性を容認する心」「共生の心」の3つの力を育むことを基本方針とした「加古川市人権教育及び人権啓発に関する基本計画」を策定しました。市民の皆さまや地域、職場等の協力を得ながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権課題の解消をめざし、人権教育や啓発に取り組んでいるところです。

また、令和2年（2020年）12月に策定した加古川市総合計画では、一人ひとりの人間としての尊厳と基本的人権が尊重される社会を確立し、心豊かに暮らせるまちをめざすことを基本目標のひとつとしています。多様性を社会全体で理解し認め合うインクルーシブな社会の実現に向け、取り組みを進めています。

しかし一方で、近年インターネット上での誹謗中傷や個人情報漏えいなどの人権侵害、性的マイノリティの方々への差別的な取り扱いなどが大きな問題となっています。また、新型コロナウイルス感染症に関連した医療従事者等に対する差別問題など、私たちを取り巻く社会環境の変化にともなって、新たな人権課題も発生しています。

そこで、本市では、さまざまな人権課題について、市民の人権意識の実情や変化等を把握するとともに、基本計画の見直しに必要な基礎資料を得るため、「加古川市人権に関する市民意識調査」を実施いたしました。

この度、調査の結果を報告書としてまとめました。その内容については、新たな基本計画に反映してまいります。また同時に、この報告書を行政関係者や市内の人権教育・啓発に携わっておられる方々にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施及び分析にご尽力いただきました関係者の皆さまをはじめ、調査にご協力をいただきました市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和4年3月

加古川市長 岡田康裕

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	2
6	報告書の見方	2
7	全国および前回調査との比較	3
II	回答者属性	4
1	性別	4
2	年齢	4
III	調査結果	5
1	人権問題の身近さに対する意識について [問1]	5
2	人権侵害の認識状況について [問2]	8
3	子どもの人権に関する意見に対する考えについて [問3]	22
4	人権侵害の経験について	30
	(1) ここ5年間ぐらいに人権を侵害されたと思った経験の有無 [問4]	30
	(2) 受けた人権侵害 [問4-1]	32
	(3) 人権侵害を受けたときの対応 [問4-2]	35
5	家族に関わるいろいろな見方や考え方について [問5]	38
6	国民の権利として決められていると思うものについて [問6]	46
7	人権教育を受けた経験について	49
	(1) 学校で差別や人権に関し教育を受けた経験 [問7]	49
	(2) 学校で受けた人権教育の内容 [問7-1]	51
8	同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応について [問8]	53
9	同和問題に関する発言を聞いた経験について	56
	(1) 過去5年間で聞いた同和問題に関する発言の内容 [問9]	56
	(2) 同和問題に関する発言をした相手 [問9-1]	58
	(3) 同和地区の人を差別する発言に対し抱いた意識やとった態度 [問9-2]	60
10	同和問題に関するインターネット上での人権侵害事例について	62
	(1) 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た経験 [問10]	62

(2) 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た内容 [問10-1]	64
1 1 人権の観点から問題のある行為の認識状況について [問11]	66
1 2 さまざまな人権に関する意見に対する考えについて [問12]	71
1 3 住宅を選ぶ際の考え方 [問13]	75
1 4 インターネット上の書き込みや行為についての考えについて [問14]	83
1 5 人権問題に関する講演会や研修会への参加について	90
(1) 人権問題に関する講演会や研修会などへの参加経験 [問15]	90
(2) 参加経験のある講演会や研修会などの種類	92
1 6 「加古川市人権文化センターだより」について [問16]	94
1 7 加古川市及び各団体が実施している取り組みについて [問17]	96
1 8 自由記述意見について [問20]	100
加古川市人権に関する市民意識調査結果に関する考察	105
資料編	114

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる人権文化の確立に向けて、平成30年に「加古川市人権教育及び人権啓発に関する基本計画」を策定し、人権に関するさまざまな施策を推進してまいりました。

この度、新しい計画の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

加古川市在住の18歳以上を無作為抽出

※これまでの意識調査では、若年層の回収率が低く、年齢別に比較を行った場合、30歳未満からの有効回収数が少ないため、統計的に信頼できる比較分析が難しくなることがありました。そこで、今回の調査では30歳未満からの有効回収数を増やすために、加古川市の性別・年齢別構成を反映して抽出した標本数2,500人（標本サンプル）に加えて、18～19歳300人、20～29歳200人を追加サンプルとして抽出し、合計3,000人を調査対象としました。

3 調査期間

令和3年11月4日から令和3年11月22日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000 通	809 通	27.0%


【参考】年齢別の発送・回収状況

		発送	回収	回収率
標準 サンプル	18～19 歳	61	9	14.8%
	20～29 歳	296	37	12.5%
	30～39 歳	320	70	21.9%
	40～49 歳	429	107	24.9%
	50～59 歳	400	109	27.3%
	60～69 歳	348	147	42.2%
	70～79 歳	407	158	38.8%
	80 歳以上	239	63	26.4%
	無回答		9	
小計		2,500	709	28.4%
追加 サンプル	18～19 歳	300	51	17.0%
	20～29 歳	200	47	23.5%
	無回答		2	
	小計	500	100	20.0%
合計		3,000	809	27.0%

集計にあたっては、総数と性別に関しては標準サンプルの有効回答数である 709 件を対象とし、年齢別に関しては追加サンプルを加えた有効回答数である 809 件を対象としています。

また、設問間のクロス集計に関しては、追加サンプルを含めていません。

6 報告書の見方

- ・回答は各設問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

- ・性別を問う設問については、自身の性別を「男」でも「女」でもないと考える市民がいることに配慮し、選択肢に「いずれでもない」を設けました。今回の調査では1人の回答がありましたが、回答者数が少ないため、性別のクロス集計につきましては「男性」「女性」の2区分で示しています。
- ・表中の「－」は、回答者がいないことを表しています。
ただし、図の場合は「0.0」としています。
- ・コメントに設問の回答を引用する際は、一重かぎ括弧「」を用いています。また、2つの回答をあわせてコメントで記載する際は、二重かぎ括弧『』を用いています。例えば、問2では「よくあてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて『あてはまる』のように記載しています。
- ・コメントに設問の選択肢の文言を引用する場合は、“”を用いています。例えば、“ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること”のように記載しています。

7 全国および前回調査との比較

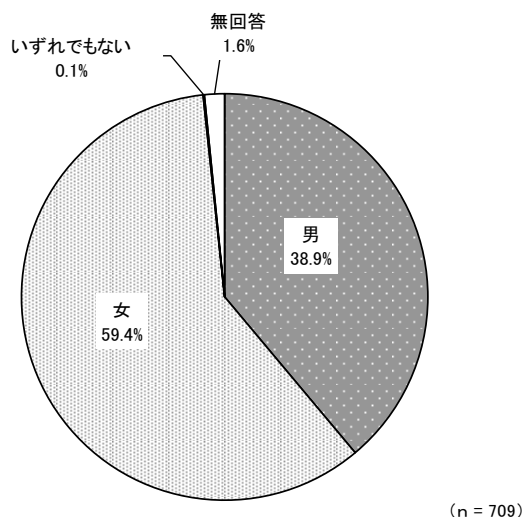
- ・図表および文章中において、下記名称で引用している調査データの概要は次のとおりです。

名 称	実施主体	調査実施概要
加古川市人権に関する 市民意識調査 (前回調査)	加古川市	調査対象：20歳以上の市民3,000人 調査方法：郵送調査票 調査年度：平成28年度 回収数（率）：1,406（46.9%）
「日本人の意識」調査	NHK放送文化 研究所	調査対象：全国の16歳以上の国民5,400人 調査方法：個人面接法 調査年度：平成30年度 回収数（率）：2,751（50.9%）
部落差別の実態に係る 調査	法務省人権擁護局	調査対象：全国の満18歳以上の日本国籍を 有する者 10,000人 調査方法：訪問留置・訪問回収法 調査年度：平成29年度 回収数（率）：6,216（62.2%）

II 回答者属性

1 性別

あなたの性別は。(○は1つ)



「女」の割合が59.4%と「男」よりも20.5ポイント高くなっています。

2 年齢

あなたの年齢は。(○は1つ)

単位：%

区分	回答者数 (件)	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上	無 回 答
全体	809	7.4(60)	10.4(84)	8.7(70)	13.2(107)	13.5(109)	18.2(147)	19.5(158)	7.8(63)	1.4(11)
男性	318	9.7(31)	9.7(31)	8.8(28)	11.6(37)	12.9(41)	17.6(56)	20.8(66)	8.8(28)	—
女性	477	5.9(28)	10.9(52)	8.8(42)	14.7(70)	13.8(66)	19.1(91)	19.1(91)	7.3(35)	0.4(2)
いずれでも ない	1	—	—	—	—	100.0(1)	—	—	—	—
無回答	13	7.7(1)	7.7(1)	—	—	7.7(1)	—	7.7(1)	—	69.2(9)

※ () 内は件数

「70～79歳」の割合が19.5%と最も高く、次いで「60～69歳」の割合が18.2%、「50～59歳」の割合が13.5%となっています。

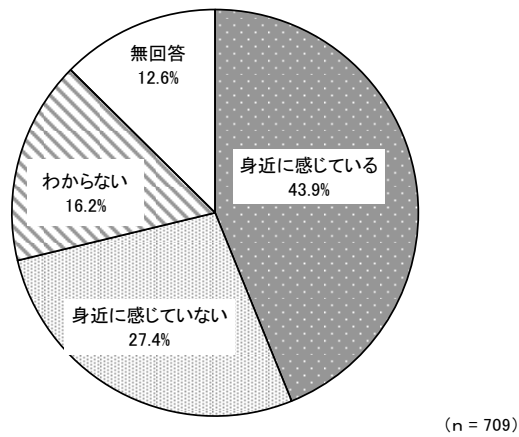
性別で見ると、大きな差異はみられませんでした。

Ⅲ 調査結果

1 人権問題の身近さに対する意識について [問 1]

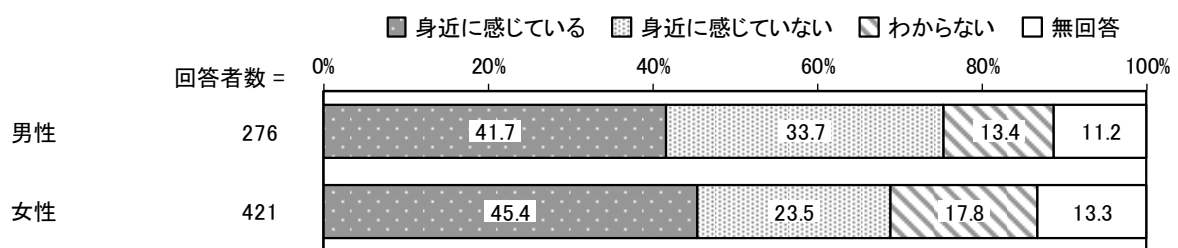
問 1 あなたは「人権」を身近な問題として感じていますか。(○は1つ)

【図 1 - 1 人権問題の身近さに対する意識 (全体)】



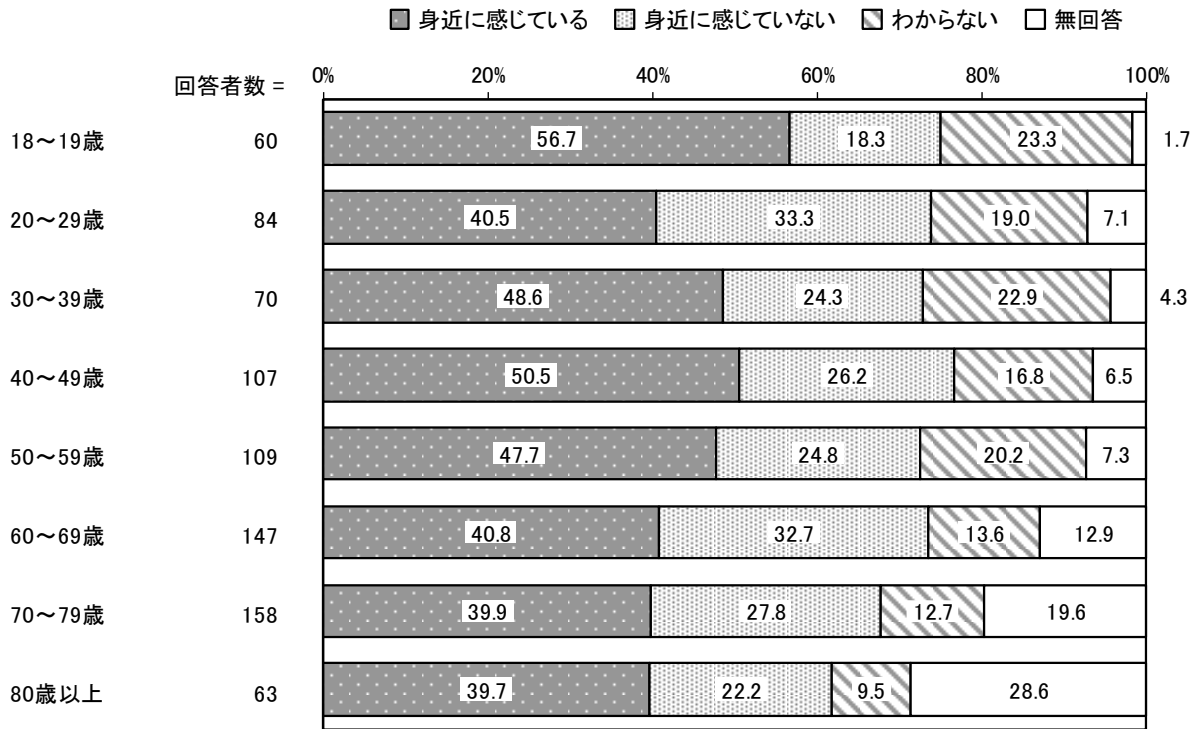
「身近に感じている」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「身近に感じていない」の割合が 27.4%、「わからない」の割合が 16.2%となっています。

【図 1 - 2 人権問題の身近さに対する意識 (性別)】



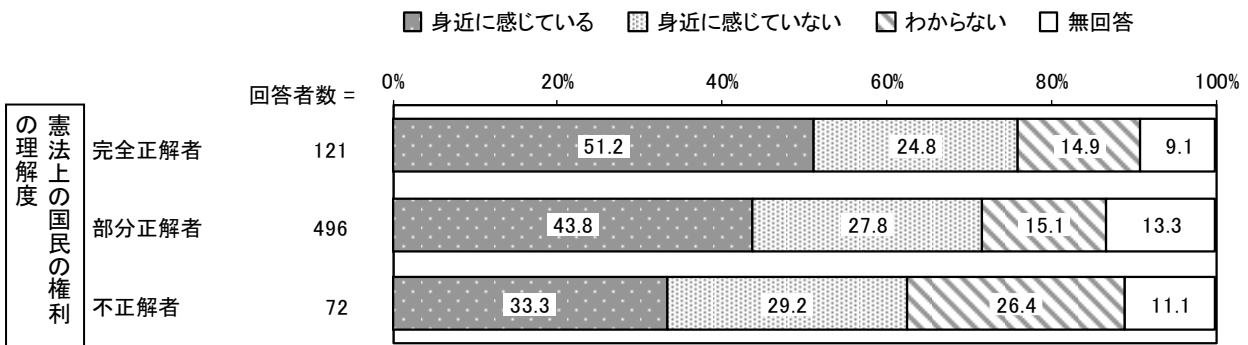
性別で見ると、「身近に感じていない」の割合は、女性よりも男性が 10.2 ポイント高くなっています。

【図 1 - 3 人権問題の身近さに対する意識（年齢別）】



年齢別でみると、「身近に感じている」の割合は、18～19歳で高く、6割近くとなっています。一方、「身近に感じていない」の割合は、20～29歳、60～69歳で高く、それぞれ3割を超えています。

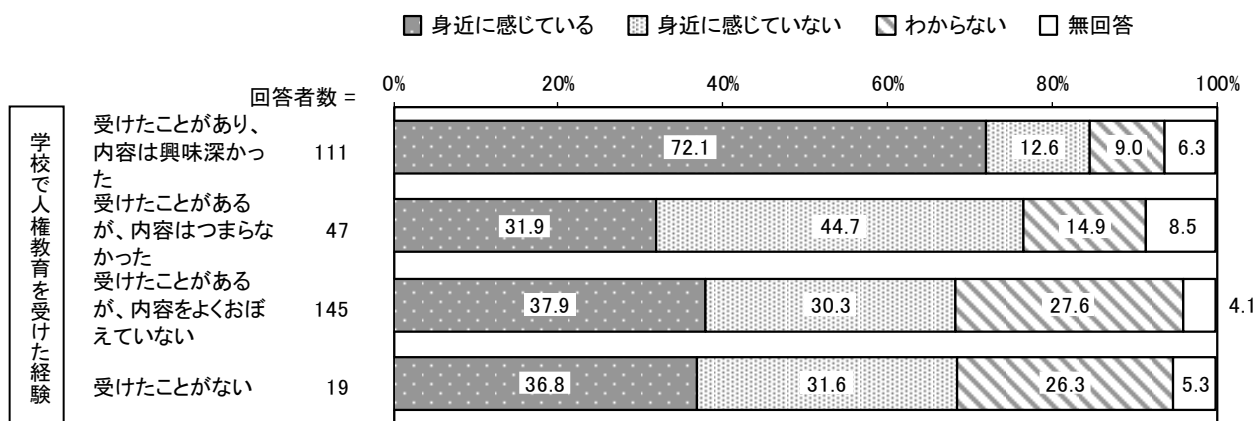
【図 1 - 4 憲法上の国民の権利の理解度別人権問題の身近さに対する意識】



憲法上の国民の権利の理解度別でみると、理解度が高い人ほど「身近に感じている」の割合が高くなっています。

※『問 6 国民の権利として決められていると思うもの』の設問において、正答である「思っていることを世間に発表する」「人間らしい暮らしをする」「労働組合をつくる」の3つだけを選択した回答者を「完全正解者」、正答である3つのうちの一部だけを選択するか、これら3つの全部または一部を選択したうえで、他の項目も選択した回答者を「部分正解者」、正答である3つ以外の項目だけを選択した回答者を「不正解者」として分類集計し、一部設問とクロス集計を行いました。（以下同様）

【図 1-5 学校で人権教育を受けた経験別人権問題の身近さに対する意識】

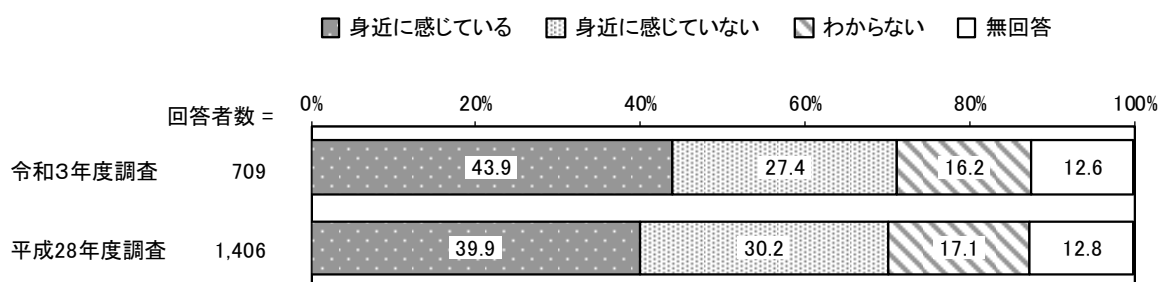


※60歳未満の方を対象としています。

学校で人権教育を受けた経験別でみると、「受けたことがあり、内容は興味深かった」で「身近に感じている」の割合が最も高く、7割を超えています。

※差別や人権に関する教育(以下、人権教育)を受けたことがないという回答を年齢別にみると(50ページ)、60歳未満の各年齢層ではいずれも10%未満ですが、60~69歳22.4%、70~79歳48.1%、80歳以上50.8%と、60歳以上で「受けたことがない」の割合が高くなっています。そのため、年齢制限を設けずに、人権教育を受けた経験の有無別にクロス集計を行うと、人権教育を受けた経験の有無別の比較が人権教育を受けた人が多い60歳未満と、受けていない人が多い60歳以上との比較とあまり変わらなくなり、そのクロス集計から読み取れる傾向が人権教育を受けた経験の有無によるものであるのかどうかの判断が難しくなります。そこで、人権教育の効果を判定するために、人権教育を受けた経験の割合に大きな差がみられない60歳未満に限定することにしましたが、60歳未満の「受けたことがない」は19件しかなく、何らかの傾向を読み取るには十分とは言えない数字となりました。そのため、人権教育の効果については、「受けたことがあり、内容は興味深かった」と、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」を比較することによって考察することにしました。

【図 1-6 前回調査との比較】

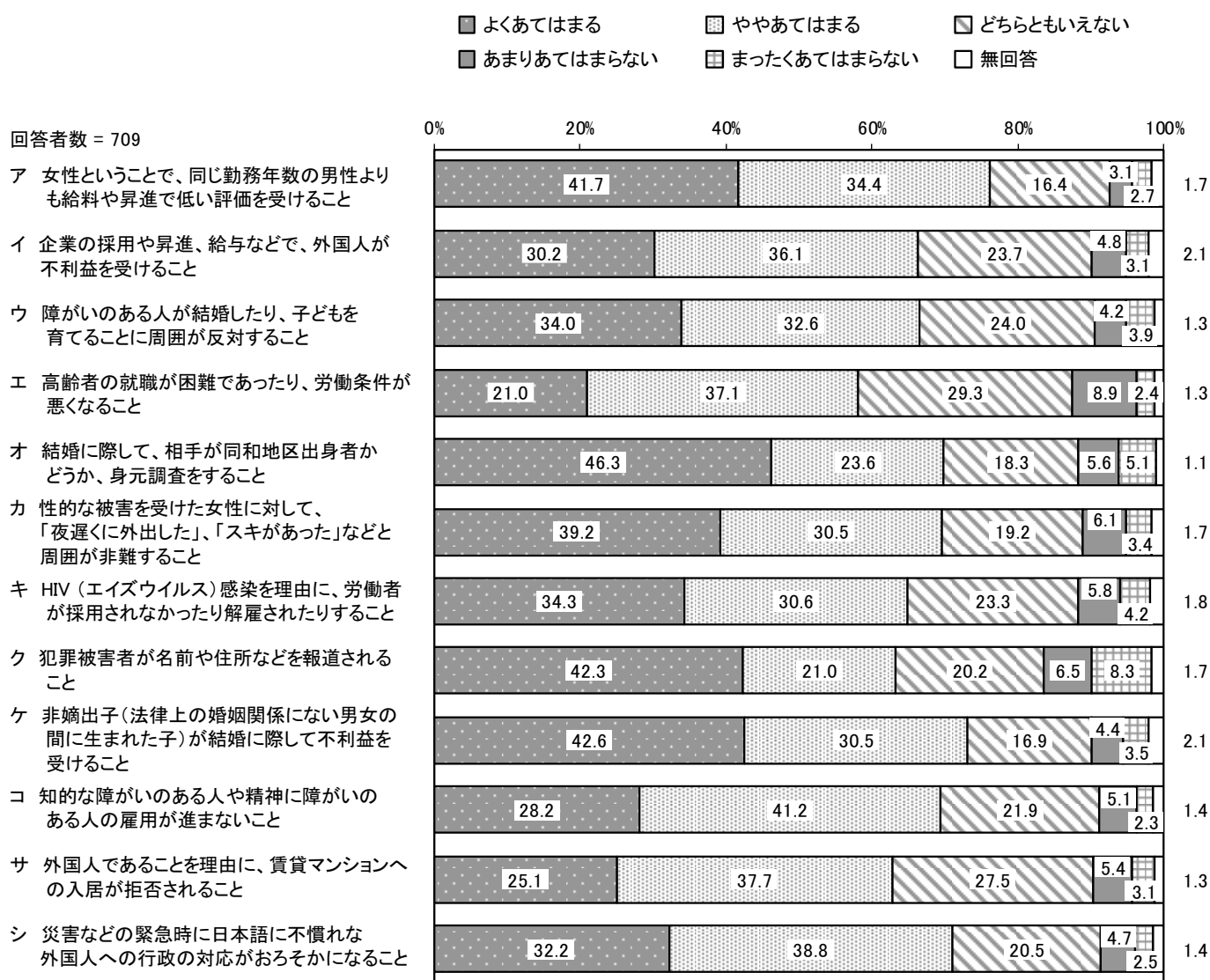


前回調査と比較すると、「身近に感じている」の割合が4.0ポイント増加しています。

2 人権侵害の認識状況について [問 2]

問2 あなたは、次のようなことは人権侵害にあてはまると思いませんか。
ア～シのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図2-1 人権侵害の認識状況(全体)】



“ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること” “ケ 非嫡出子(法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子)が結婚に際して不利益を受けること” “シ 災害などの緊急時に日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること” の3項目で「よくあてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた『あてはまる』の割合が7割以上となっています。

【表2-1 人権侵害の認識状況（性別・年齢別）】

ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること

イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること

単位：％

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	39.5	32.6	17.0	4.3	4.3	2.2
	女性	421	43.5	35.4	16.2	2.1	1.4	1.4
年齢別	18～19歳	60	65.0	20.0	8.3	1.7	5.0	—
	20～29歳	84	46.4	33.3	11.9	3.6	4.8	—
	30～39歳	70	57.1	24.3	12.9	2.9	2.9	—
	40～49歳	107	49.5	37.4	12.1	—	0.9	—
	50～59歳	109	45.9	31.2	17.4	2.8	2.8	—
	60～69歳	147	40.8	34.0	17.7	3.4	2.7	1.4
	70～79歳	158	27.2	39.9	22.8	4.4	2.5	3.2
	80歳以上	63	36.5	38.1	14.3	3.2	—	7.9

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
		276	29.7	32.6	26.8	5.8	3.3	1.8
		421	30.4	38.7	21.4	4.3	2.9	2.4
		60	46.7	33.3	11.7	5.0	3.3	—
		84	32.1	38.1	21.4	4.8	3.6	—
		70	41.4	28.6	22.9	4.3	2.9	—
		107	38.3	31.8	21.5	4.7	2.8	0.9
		109	30.3	38.5	22.9	4.6	3.7	—
		147	27.2	41.5	23.8	2.7	3.4	1.4
		158	25.9	38.6	26.6	5.1	1.9	1.9
		63	17.5	36.5	23.8	6.3	1.6	14.3

ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること

エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること

単位：％

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	37.0	29.3	23.6	4.0	4.7	1.4
	女性	421	32.1	34.7	24.5	4.0	3.6	1.2
年齢別	18～19歳	60	53.3	28.3	8.3	6.7	3.3	—
	20～29歳	84	41.7	31.0	22.6	2.4	2.4	—
	30～39歳	70	44.3	24.3	21.4	8.6	1.4	—
	40～49歳	107	37.4	31.8	28.0	0.9	1.9	—
	50～59歳	109	30.3	35.8	27.5	2.8	3.7	—
	60～69歳	147	28.6	41.5	22.4	4.1	3.4	—
	70～79歳	158	32.9	28.5	25.3	4.4	6.3	2.5
	80歳以上	63	25.4	31.7	22.2	6.3	6.3	7.9

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
		276	18.8	37.0	29.0	10.9	3.3	1.1
		421	21.9	37.5	29.9	7.6	1.7	1.4
		60	20.0	46.7	23.3	5.0	5.0	—
		84	15.5	38.1	28.6	10.7	6.0	1.2
		70	18.6	38.6	27.1	14.3	1.4	—
		107	20.6	29.9	38.3	6.5	4.7	—
		109	23.9	31.2	35.8	8.3	0.9	—
		147	19.7	40.8	29.3	8.2	0.7	1.4
		158	20.3	36.7	26.6	10.1	4.4	1.9
		63	20.0	46.7	23.3	5.0	5.0	—

【表2-1 人権侵害の認識状況（性別・年齢別）】

オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること

カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅くに外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること

単位：％

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	43.1	23.6	17.8	6.9	7.2	1.4
	女性	421	48.9	23.3	18.3	4.8	3.8	1.0
年齢別	18～19歳	60	65.0	23.3	6.7	1.7	3.3	—
	20～29歳	84	44.0	26.2	19.0	3.6	7.1	—
	30～39歳	70	62.9	14.3	14.3	4.3	4.3	—
	40～49歳	107	57.0	21.5	15.0	4.7	1.9	—
	50～59歳	109	47.7	26.6	15.6	4.6	5.5	—
	60～69歳	147	49.7	21.1	19.7	5.4	4.1	—
	70～79歳	158	33.5	28.5	20.9	8.2	6.3	2.5
	80歳以上	63	34.9	23.8	19.0	7.9	7.9	6.3

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
		276	32.2	30.1	23.2	5.8	6.9	1.8
		421	44.4	30.4	16.6	5.9	1.0	1.7
		60	60.0	25.0	10.0	3.3	1.7	—
		84	44.0	26.2	20.2	6.0	3.6	—
		70	55.7	24.3	10.0	4.3	4.3	1.4
		107	48.6	31.8	13.1	4.7	1.9	—
		109	45.9	29.4	20.2	2.8	1.8	—
		147	39.5	28.6	22.4	4.8	3.4	1.4
		158	25.3	34.8	22.2	8.9	5.7	3.2
		63	22.2	36.5	25.4	7.9	1.6	6.3

キ HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり解雇されたりすること

ク 犯罪被害者が名前や住所などを報道されること

単位：％

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	30.8	30.8	25.0	6.2	5.4	1.8
	女性	421	36.8	30.2	22.3	5.5	3.3	1.9
年齢別	18～19歳	60	63.3	20.0	13.3	1.7	1.7	—
	20～29歳	84	46.4	28.6	20.2	1.2	3.6	—
	30～39歳	70	48.6	24.3	20.0	2.9	4.3	—
	40～49歳	107	46.7	24.3	21.5	6.5	0.9	—
	50～59歳	109	37.6	37.6	18.3	1.8	4.6	—
	60～69歳	147	27.9	34.7	24.5	7.5	2.7	2.7
	70～79歳	158	25.3	31.6	24.7	8.9	6.3	3.2
	80歳以上	63	22.2	28.6	30.2	6.3	6.3	6.3

区分		回答者数(件)	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
		276	36.2	23.9	20.7	6.2	11.6	1.4
		421	46.3	19.0	20.2	6.9	5.7	1.9
		60	53.3	26.7	15.0	1.7	3.3	—
		84	44.0	19.0	16.7	4.8	15.5	—
		70	54.3	14.3	14.3	8.6	8.6	—
		107	48.6	25.2	16.8	2.8	6.5	—
		109	47.7	17.4	19.3	7.3	8.3	—
		147	45.6	21.1	21.1	2.0	8.8	1.4
		158	27.8	23.4	23.4	12.7	9.5	3.2
		63	31.7	22.2	30.2	6.3	1.6	7.9

【表2-1 人権侵害の認識状況（性別・年齢別）】

ケ 非嫡出子（法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子）が結婚に際して不利益を受けること

コ 知的な障がいのある人や精神に障がいのある人の雇用が進まないこと

単位：％

区分		回答者数（件）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	40.9	30.4	18.1	4.3	4.3	1.8
	女性	421	43.7	30.4	16.2	4.5	2.9	2.4
年齢別	18～19歳	60	58.3	23.3	11.7	3.3	3.3	—
	20～29歳	84	48.8	27.4	17.9	1.2	4.8	—
	30～39歳	70	58.6	22.9	14.3	2.9	1.4	—
	40～49歳	107	50.5	30.8	15.9	2.8	—	—
	50～59歳	109	48.6	31.2	16.5	0.9	2.8	—
	60～69歳	147	38.8	39.5	14.3	3.4	3.4	0.7
	70～79歳	158	30.4	29.7	20.9	7.0	7.0	5.1
	80歳以上	63	34.9	23.8	15.9	12.7	3.2	9.5

区分		回答者数（件）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	27.9	38.0	22.5	7.6	2.5	1.4
	女性	421	28.5	43.5	21.1	3.6	1.9	1.4
年齢別	18～19歳	60	35.0	43.3	15.0	5.0	1.7	—
	20～29歳	84	34.5	40.5	14.3	6.0	4.8	—
	30～39歳	70	35.7	40.0	18.6	4.3	1.4	—
	40～49歳	107	27.1	36.4	29.0	4.7	2.8	—
	50～59歳	109	33.0	35.8	24.8	5.5	0.9	—
	60～69歳	147	23.1	50.3	17.7	5.4	3.4	—
	70～79歳	158	22.8	43.0	23.4	6.3	1.3	3.2
	80歳以上	63	28.6	39.7	19.0	3.2	1.6	7.9

サ 外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること

シ 災害などの緊急時に日本語に不慣れた外国人への行政の対応がおろそかになること

単位：％

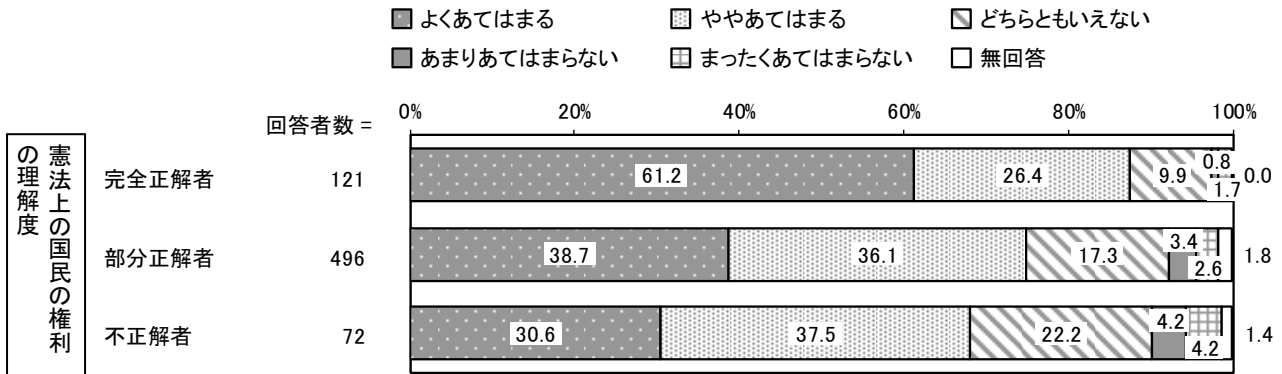
区分		回答者数（件）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	24.3	36.2	26.4	6.9	4.7	1.4
	女性	421	25.7	39.0	28.3	4.0	1.9	1.2
年齢別	18～19歳	60	55.0	21.7	15.0	3.3	5.0	—
	20～29歳	84	39.3	22.6	27.4	4.8	6.0	—
	30～39歳	70	37.1	34.3	17.1	10.0	1.4	—
	40～49歳	107	26.2	36.4	31.8	4.7	0.9	—
	50～59歳	109	22.0	42.2	27.5	4.6	3.7	—
	60～69歳	147	22.4	44.2	26.5	2.0	4.1	0.7
	70～79歳	158	21.5	36.1	31.6	5.1	3.2	2.5
	80歳以上	63	14.3	42.9	23.8	11.1	1.6	6.3

区分		回答者数（件）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
性別	男性	276	26.8	39.9	22.1	5.8	4.0	1.4
	女性	421	35.6	38.5	19.2	3.8	1.4	1.4
年齢別	18～19歳	60	38.3	30.0	21.7	5.0	5.0	—
	20～29歳	84	35.7	33.3	23.8	1.2	6.0	—
	30～39歳	70	40.0	31.4	20.0	8.6	—	—
	40～49歳	107	31.8	37.4	27.1	3.7	—	—
	50～59歳	109	33.9	37.6	21.1	4.6	2.8	—
	60～69歳	147	36.1	39.5	17.0	2.7	3.4	1.4
	70～79歳	158	27.8	42.4	18.4	7.0	1.9	2.5
	80歳以上	63	23.8	41.3	20.6	3.2	4.8	6.3

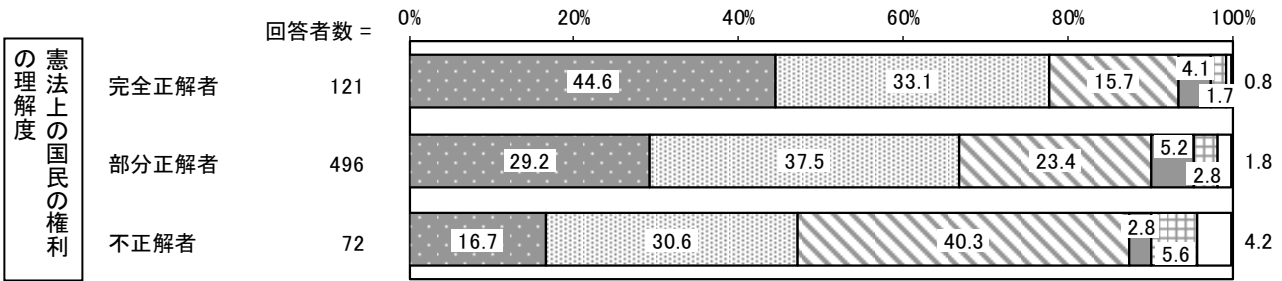
性別・年齢別でみると、“ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること”“オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること”“カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅くに外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること”の項目において『あてはまる』の割合が18～19歳で高くなっています。また、“ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること”では『あてはまる』の割合が40～49歳も高くなっています。

【図2-2 憲法上の国民の権利の理解度別人権侵害の認識状況】

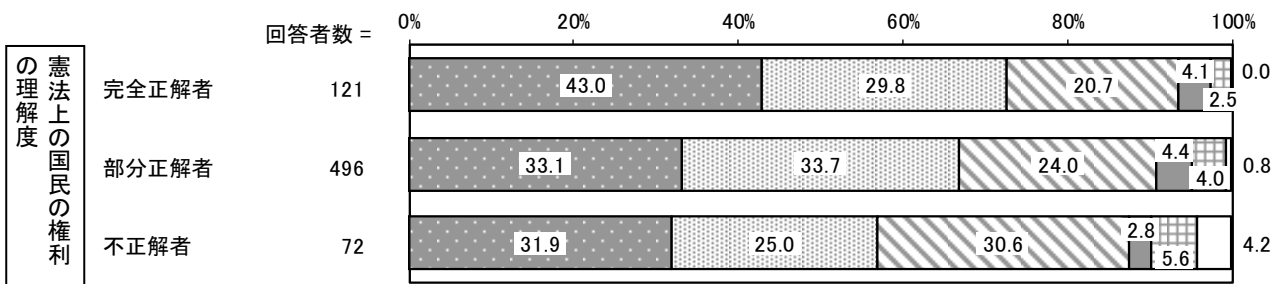
ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること



イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること

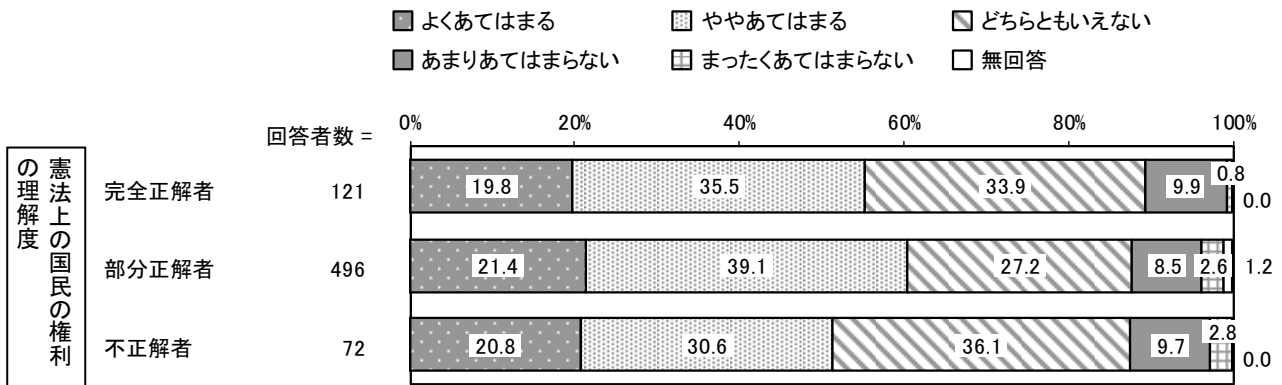


ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること

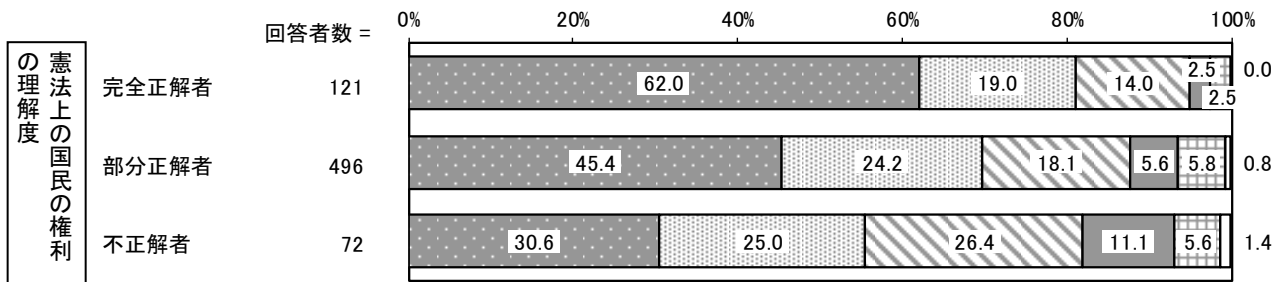


【図2-2 憲法上の国民の権利の理解度別人権侵害の認識状況】

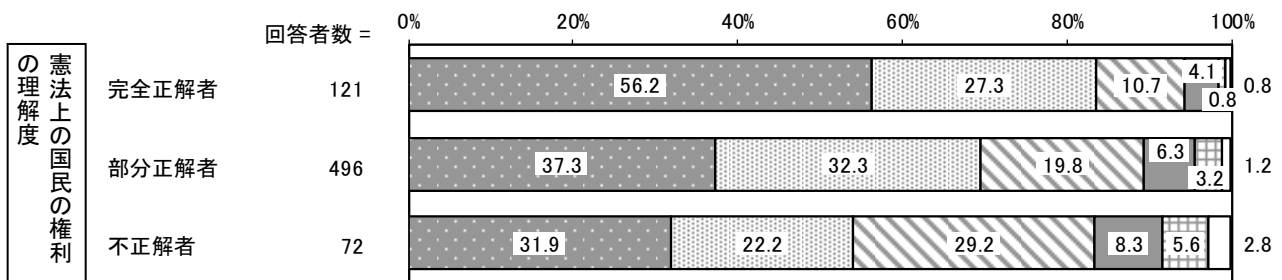
エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること



オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること

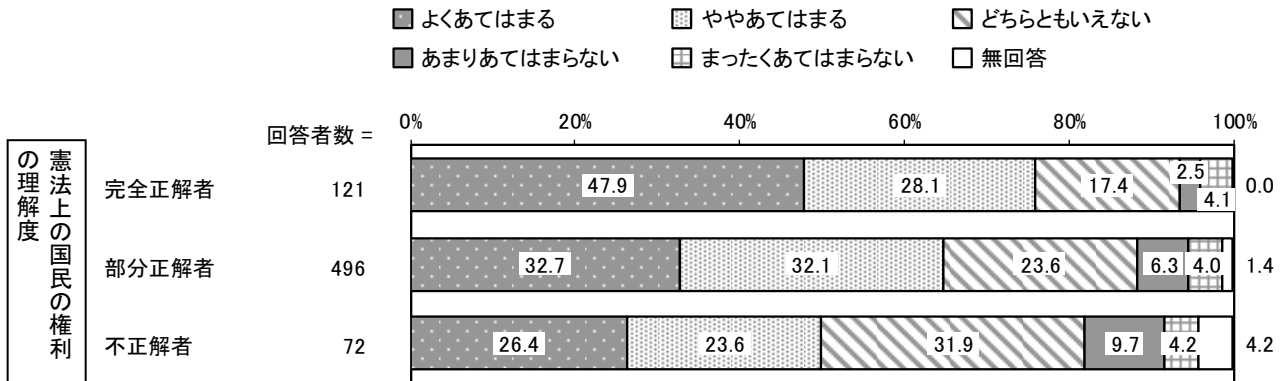


カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅くに外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること

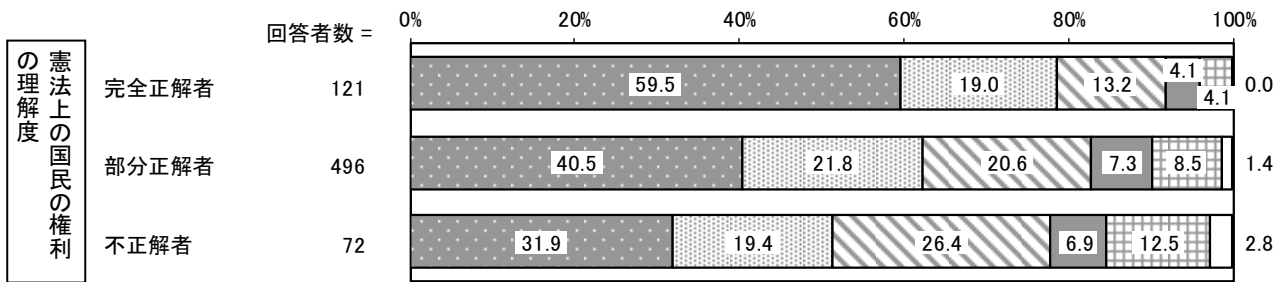


【図2-2 憲法上の国民の権利の理解度別人権侵害の認識状況】

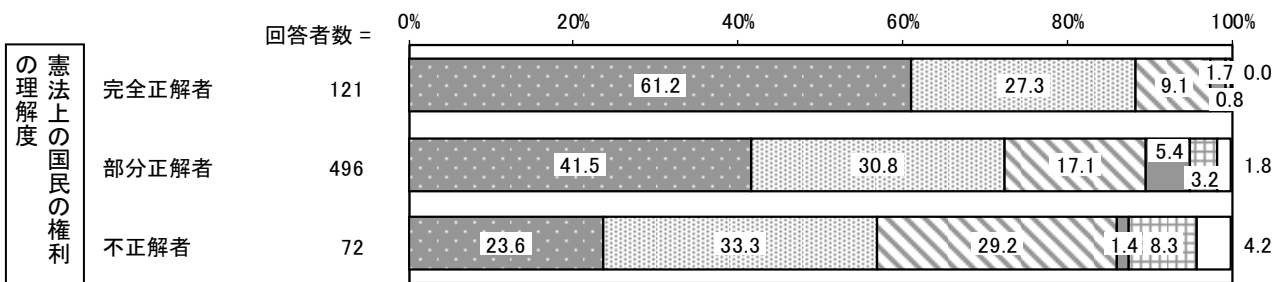
キ HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり解雇されたりすること



ク 犯罪被害者が名前や住所などを報道されること

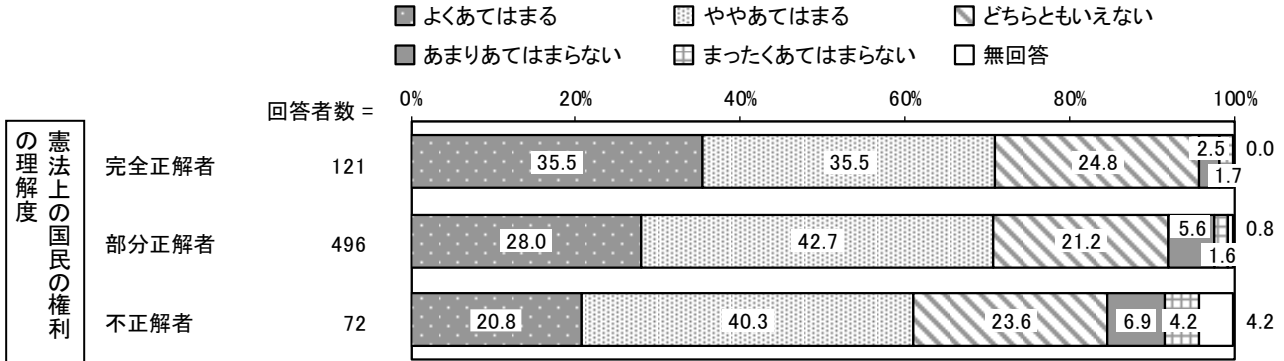


ケ 非嫡出子（法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子）が結婚に際して不利益を受けること

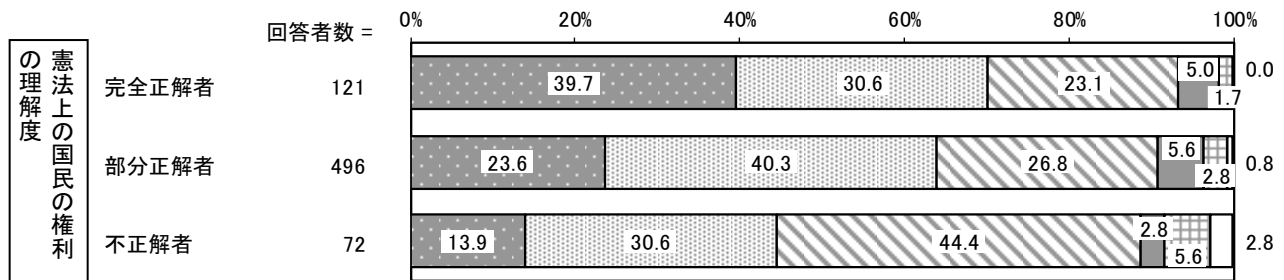


【図2-2 憲法上の国民の権利の理解度別人権侵害の認識状況】

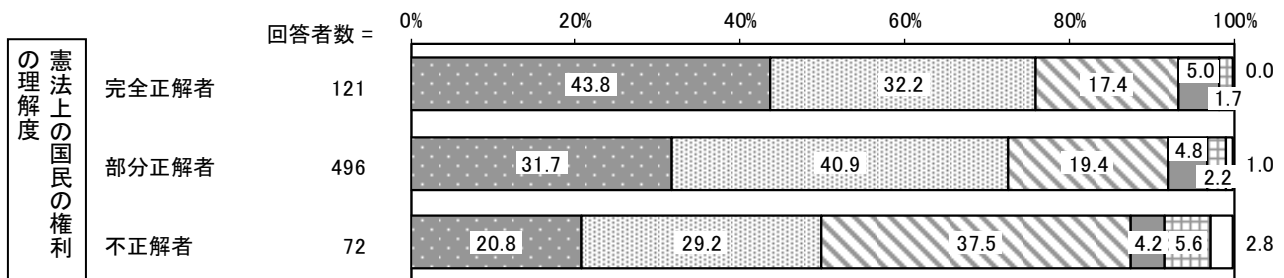
コ 知的な障がいのある人や精神に障がいのある人の雇用が進まないこと



サ 外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること



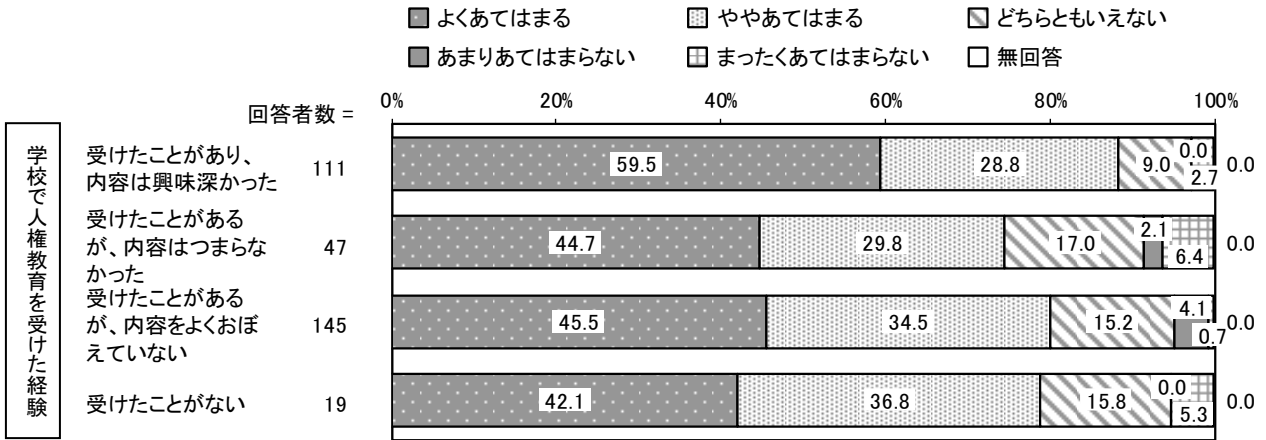
シ 災害などの緊急時に日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること



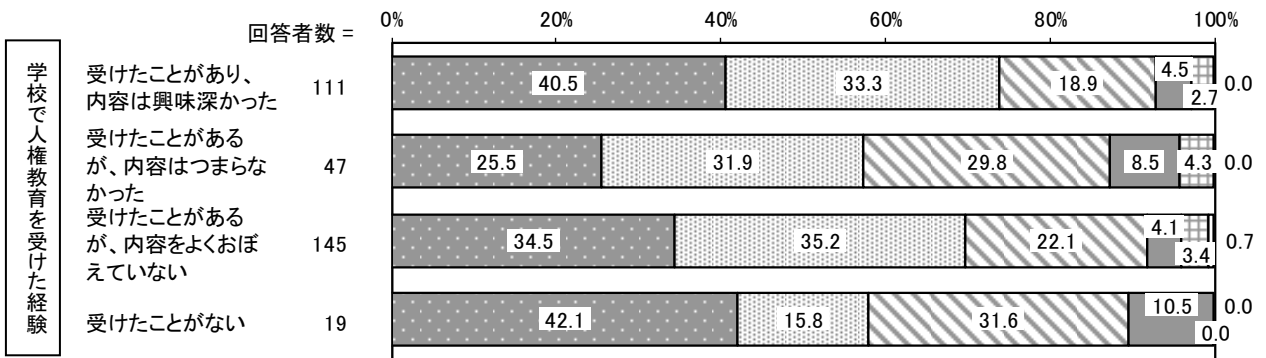
憲法上の国民の権利の理解度別でみると、“エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること” “コ 知的な障がいのある人や精神に障がいのある人の雇用が進まないこと” の項目を除いて、国民の権利の理解度が高い人ほど『あてはまる』の割合が高くなる傾向がみられます。

【図2-3 学校で人権教育を受けた経験別人権侵害の認識状況】

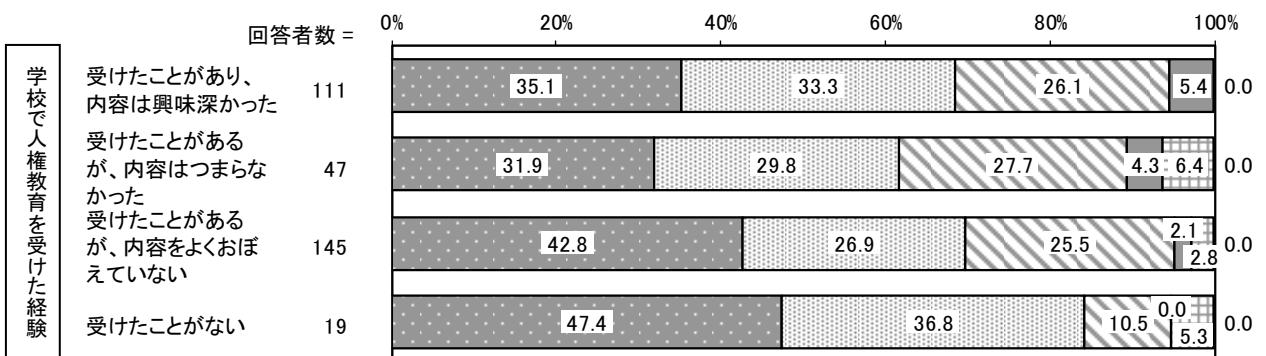
ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること



イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること

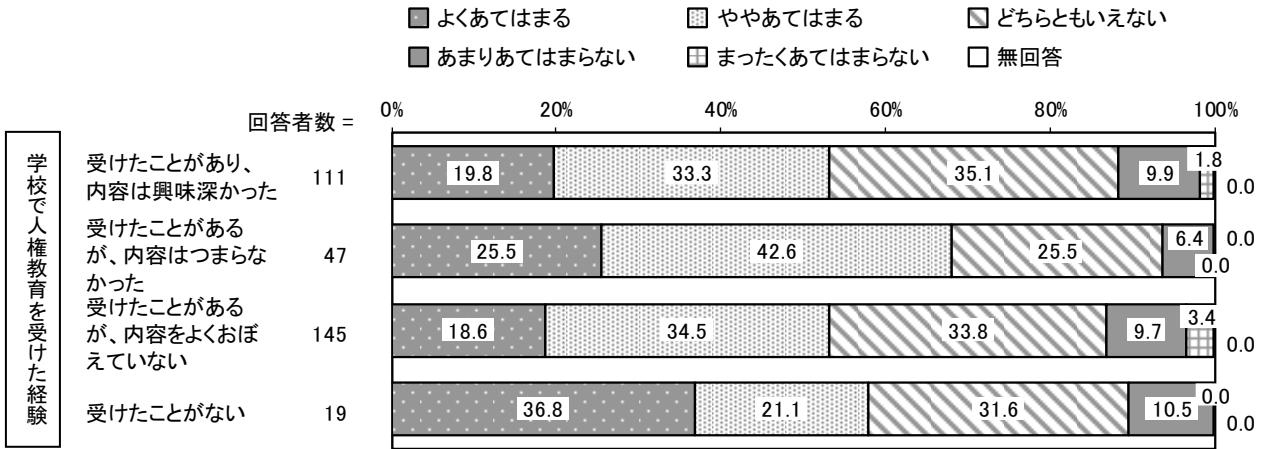


ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること

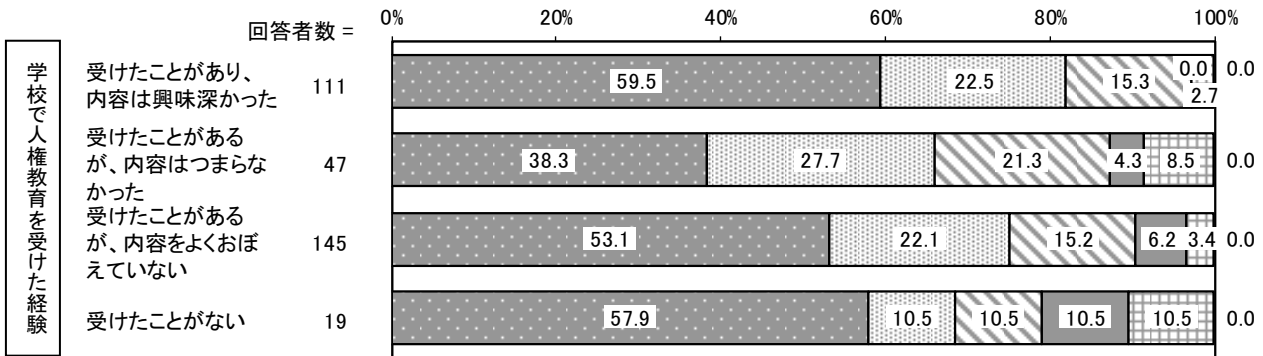


【図2-3 学校で人権教育を受けた経験別人権侵害の認識状況】

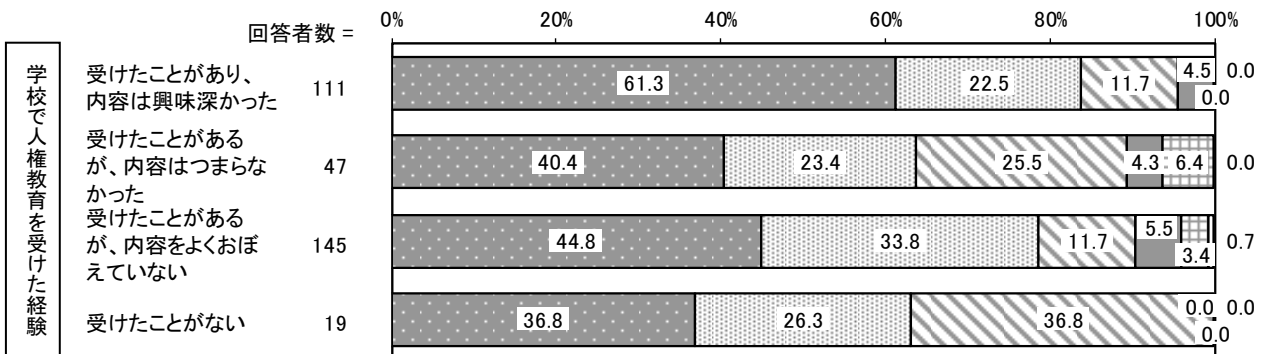
エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること



オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること

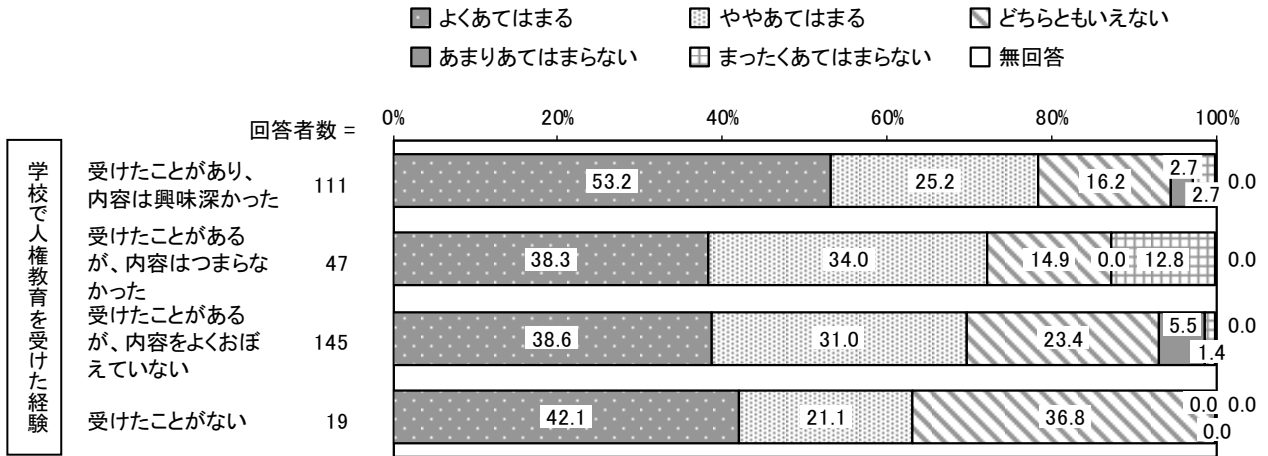


カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅くに外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること

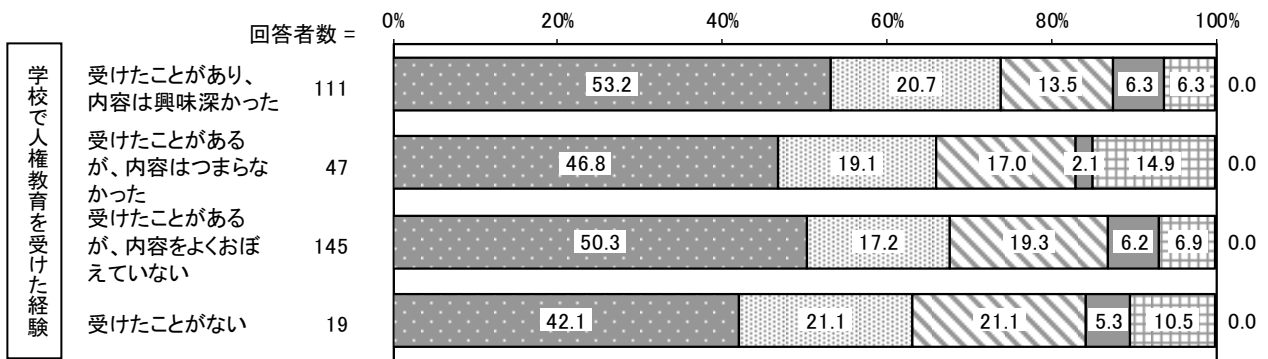


【図2-3 学校で人権教育を受けた経験別人権侵害の認識状況】

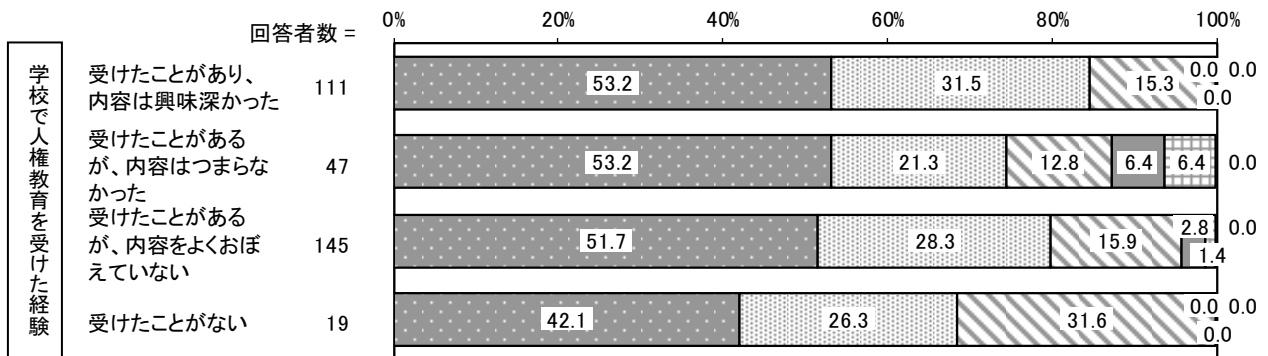
キ HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり解雇されたりすること



ク 犯罪被害者が名前や住所などを報道されること



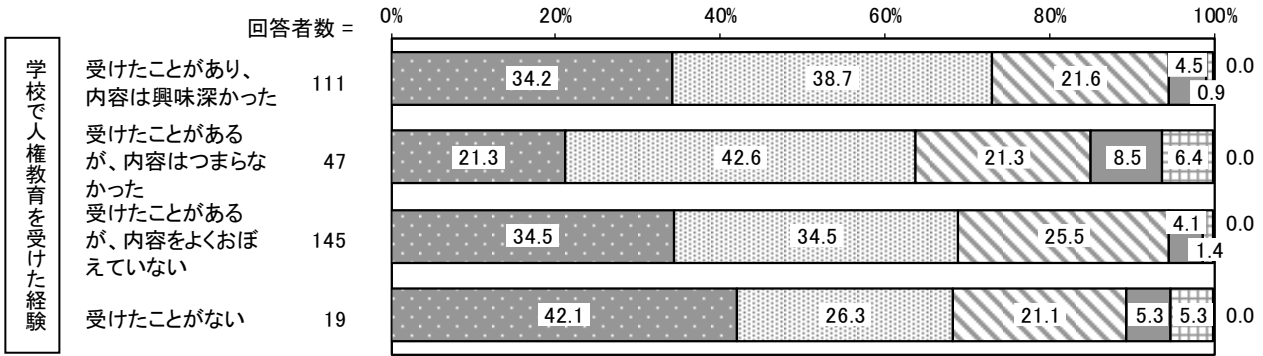
ケ 非嫡出子（法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子）が結婚に際して不利益を受けること



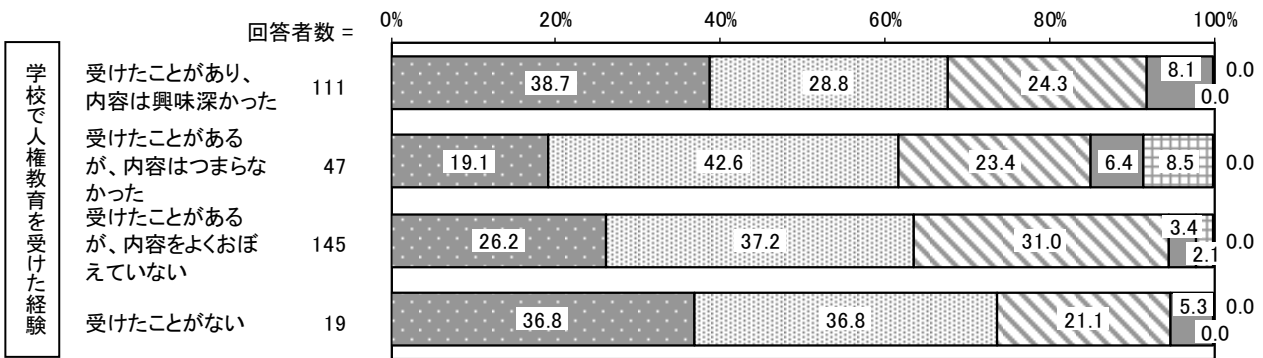
【図2-3 学校で人権教育を受けた経験別人権侵害の認識状況】

コ 知的な障がいのある人や精神に障がいのある人の雇用が進まないこと

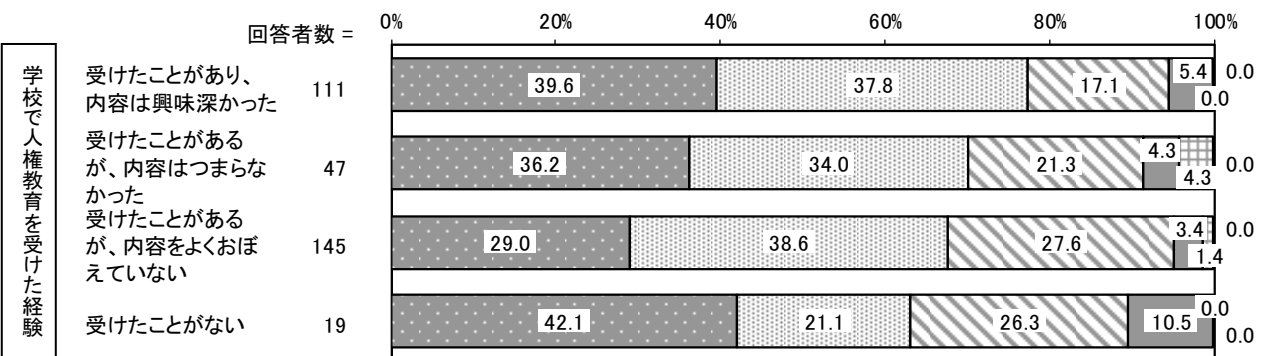
よくあてはまる
 ややあてはまる
 どちらともいえない
 あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない
 無回答



サ 外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること



シ 災害などの緊急時に日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること

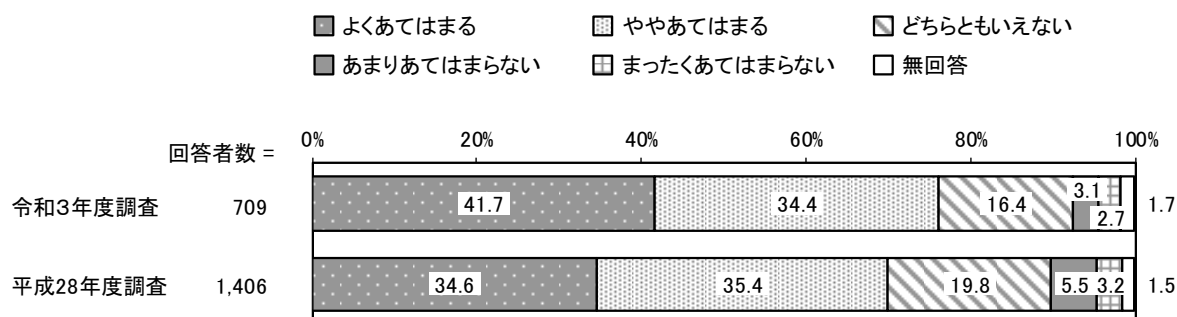


学校での人権教育を受けた経験別でみると、“ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること”“エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること”の項目を除いて、人権教育を受け、興味を持った人ほど『あてはまる』の割合が高くなる傾向がみられます。

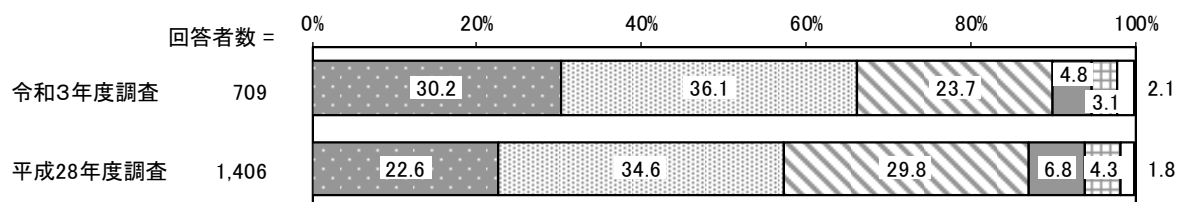
※人権教育の効果については、「受けたことがない」の回答結果を除いて考察しています。理由はp 7に記載しています。

【図2-4 前回調査との比較】

ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること



イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること

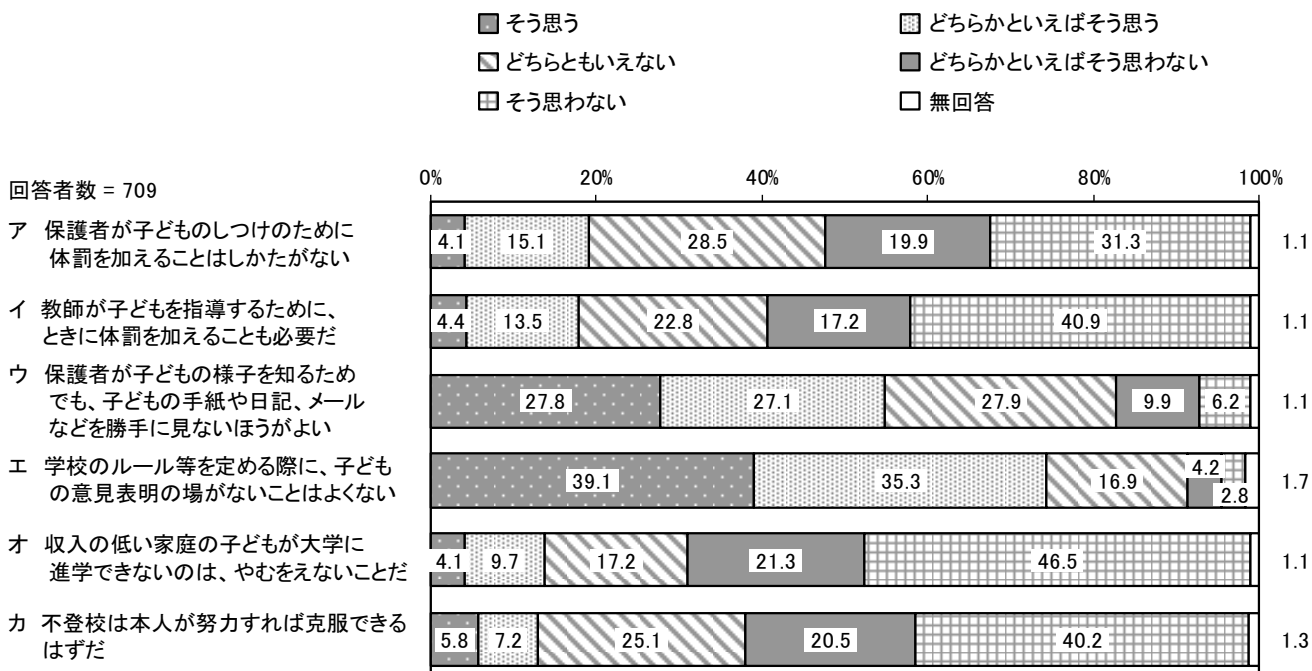


前回調査と比較すると、“ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること”“イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること”とも『あてはまる』の割合が増加しています。

3 子どもの人権に関する意見に対する考えについて [問3]

問3 子どもの人権に関する意見について、あなたはどのように思いますか。
ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図3-1 子どもの人権に関する意見に対する考え (全体)】



“オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ” “カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ” の2項目で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』の割合が6割以上となっています。一方、“ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい” “エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない” では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』の割合が、『そう思わない』を上回っています。

【表3-1 子どもの人権に関する意見に対する考え（性別・年齢別）】

ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない

イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ

単位：％

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	4.3	19.9	27.5	18.8	27.9	1.4
	女性	421	3.8	12.4	29.0	20.2	33.7	1.0
年齢別	18～19歳	60	3.3	3.3	16.7	13.3	63.3	—
	20～29歳	84	6.0	17.9	26.2	11.9	38.1	—
	30～39歳	70	—	15.7	27.1	20.0	37.1	—
	40～49歳	107	1.9	18.7	27.1	18.7	33.6	—
	50～59歳	109	3.7	18.3	29.4	20.2	28.4	—
	60～69歳	147	5.4	14.3	23.1	24.5	32.7	—
	70～79歳	158	5.7	12.0	29.1	19.0	32.3	1.9
	80歳以上	63	3.2	17.5	38.1	12.7	20.6	7.9

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	6.2	18.8	24.6	17.8	31.2	1.4
	女性	421	3.1	10.5	22.1	16.6	46.8	1.0
年齢別	18～19歳	60	3.3	5.0	16.7	8.3	66.7	—
	20～29歳	84	6.0	9.5	15.5	13.1	56.0	—
	30～39歳	70	—	10.0	24.3	14.3	51.4	—
	40～49歳	107	2.8	18.7	17.8	21.5	39.3	—
	50～59歳	109	6.4	13.8	28.4	16.5	34.9	—
	60～69歳	147	4.1	14.3	19.7	16.3	45.6	—
	70～79歳	158	5.7	12.0	23.4	19.6	37.3	1.9
	80歳以上	63	4.8	17.5	30.2	14.3	25.4	7.9

ウ 保護者が子どもの様子を知るためにも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい

エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない

単位：％

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	25.7	28.6	23.9	10.9	9.4	1.4
	女性	421	29.5	25.9	30.6	9.0	4.0	1.0
年齢別	18～19歳	60	36.7	28.3	21.7	6.7	6.7	—
	20～29歳	84	26.2	22.6	33.3	13.1	4.8	—
	30～39歳	70	22.9	28.6	31.4	11.4	5.7	—
	40～49歳	107	21.5	27.1	33.6	9.3	8.4	—
	50～59歳	109	24.8	35.8	23.9	10.1	5.5	—
	60～69歳	147	34.7	25.2	27.9	5.4	6.8	—
	70～79歳	158	31.6	24.1	25.3	12.0	5.1	1.9
	80歳以上	63	28.6	20.6	25.4	12.7	4.8	7.9

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	38.4	34.8	16.7	3.6	5.1	1.4
	女性	421	39.2	35.9	16.9	4.8	1.4	1.9
年齢別	18～19歳	60	51.7	30.0	10.0	—	8.3	—
	20～29歳	84	44.0	35.7	15.5	3.6	1.2	—
	30～39歳	70	42.9	35.7	12.9	4.3	4.3	—
	40～49歳	107	38.3	38.3	15.9	4.7	2.8	—
	50～59歳	109	40.4	29.4	23.9	4.6	1.8	—
	60～69歳	147	36.1	37.4	17.7	4.8	3.4	0.7
	70～79歳	158	35.4	36.1	15.8	5.1	3.8	3.8
	80歳以上	63	41.3	36.5	11.1	3.2	—	7.9

【表3-1 子どもの人権に関する意見に対する考え（性別・年齢別）】

オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ

カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ

単位：%

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	4.0	11.2	18.8	19.2	45.3	1.4
	女性	421	4.3	8.8	15.9	22.6	47.5	1.0
年齢別	18～19歳	60	8.3	8.3	13.3	21.7	48.3	—
	20～29歳	84	2.4	7.1	20.2	22.6	47.6	—
	30～39歳	70	2.9	8.6	20.0	20.0	48.6	—
	40～49歳	107	3.7	7.5	16.8	25.2	46.7	—
	50～59歳	109	0.9	7.3	12.8	18.3	60.6	—
	60～69歳	147	3.4	9.5	16.3	22.4	48.3	—
	70～79歳	158	7.0	13.9	18.4	17.7	40.5	2.5
80歳以上	63	4.8	12.7	15.9	22.2	38.1	6.3	

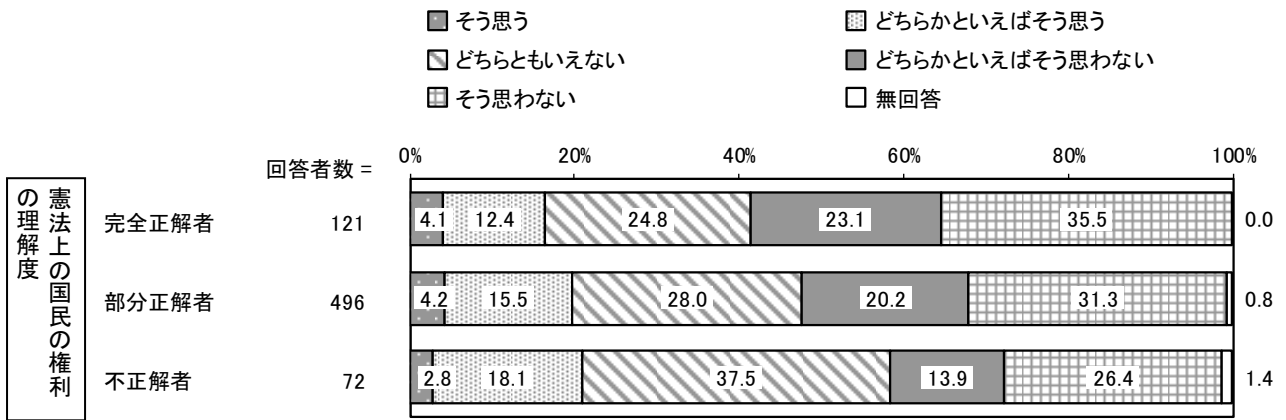
区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
		276	5.8	9.1	29.7	19.9	34.1	1.4
		421	5.9	5.9	22.3	20.9	43.7	1.2
		60	1.7	8.3	26.7	21.7	41.7	—
		84	6.0	2.4	26.2	17.9	47.6	—
		70	2.9	1.4	24.3	28.6	42.9	—
		107	1.9	3.7	28.0	25.2	40.2	0.9
		109	2.8	3.7	16.5	16.5	60.6	—
		147	4.8	6.8	24.5	22.4	41.5	—
		158	8.2	10.8	29.7	16.5	32.3	2.5
		63	19.0	19.0	22.2	11.1	22.2	6.3

性別でみると“ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい”“エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない”の項目を除いて、男性に比べ、女性で『そう思わない』の割合が高くなっています。また、“エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない”の項目においては、男性、女性ともに『そう思う』の割合が高くなっています。

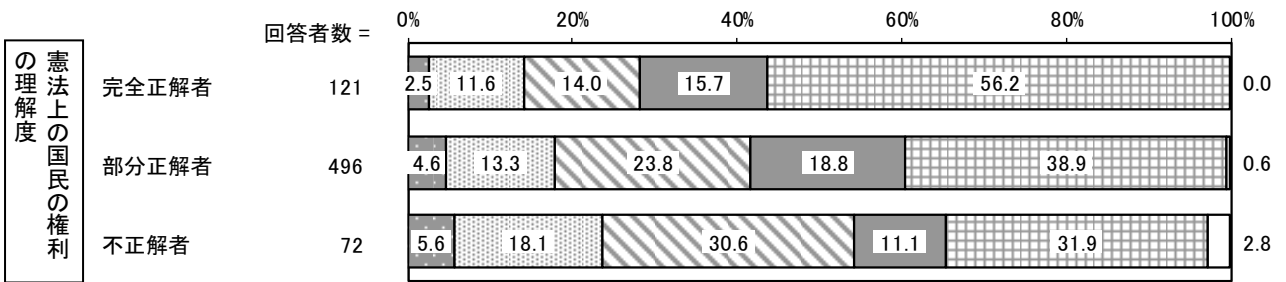
年齢別でみると、“ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない”“イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ”の項目において『そう思わない』の割合が18～19歳で高くなっています。また、“オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ”“カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ”の項目において『そう思わない』の割合が50～59歳で高くなっています。

【図3-2 憲法上の国民の権利の理解度別子どもの人権に関する意見に対する考え】

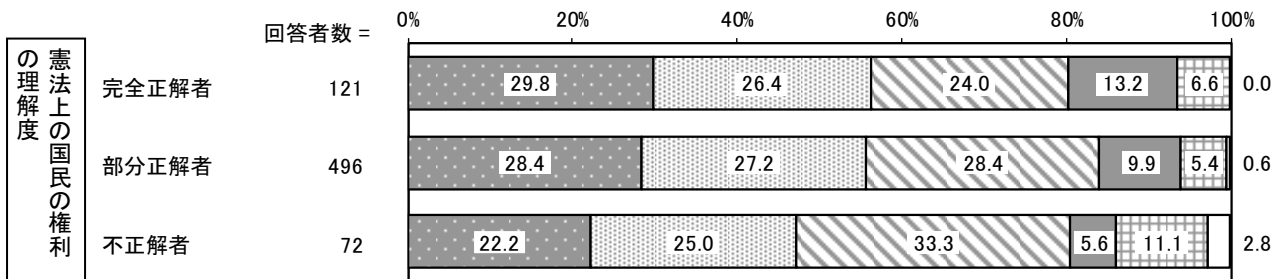
ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない



イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ

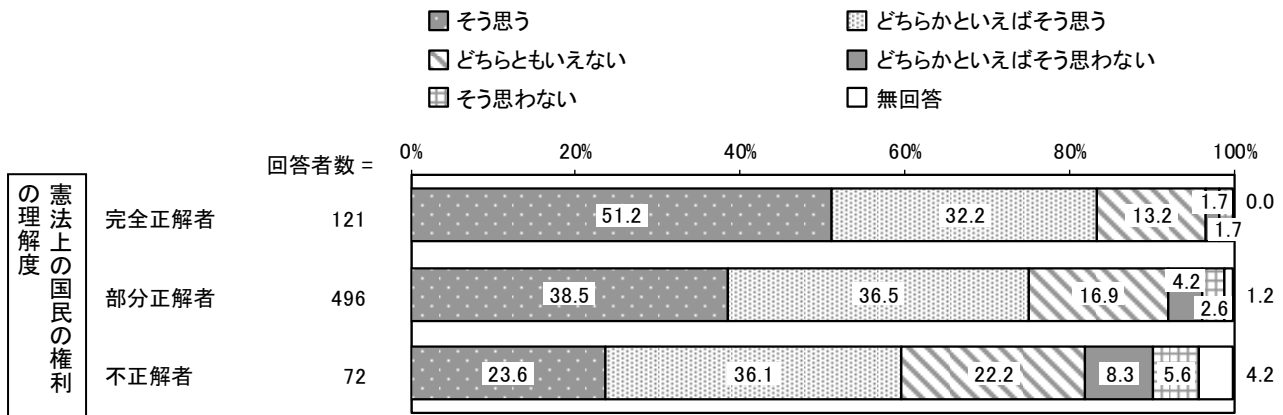


ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい

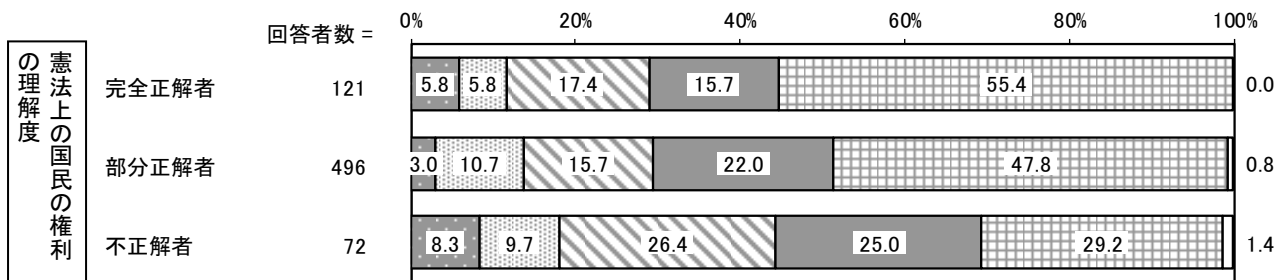


【図3-2 憲法上の国民の権利の理解度別子どもの人権に関する意見に対する考え】

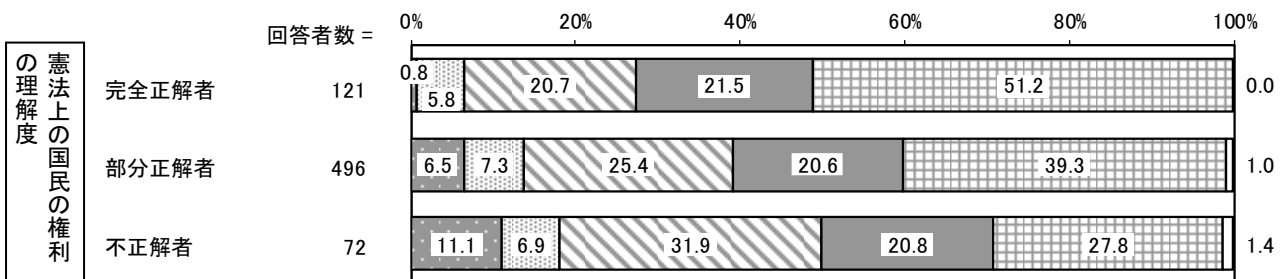
エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない



オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ



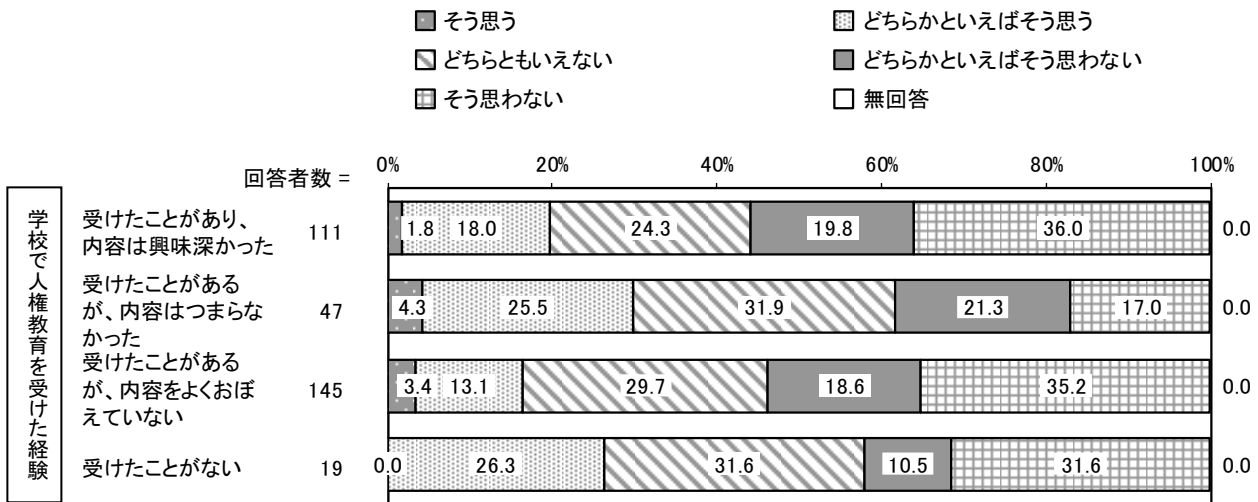
カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ



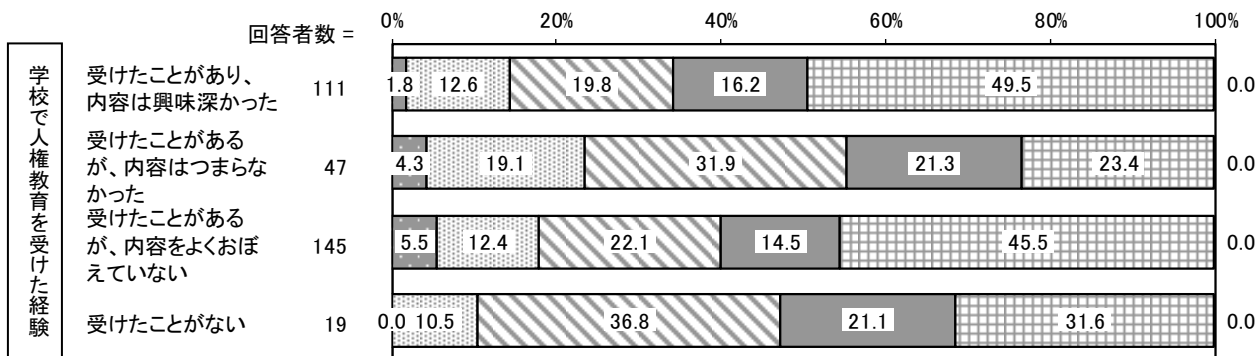
憲法上の国民の権利の理解度別でみると、“ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい”“エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない”の項目を除いて、国民の権利の理解度が高い人ほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられます。

【図3-3 学校で人権教育を受けた経験別子どもの人権に関する意見に対する考え】

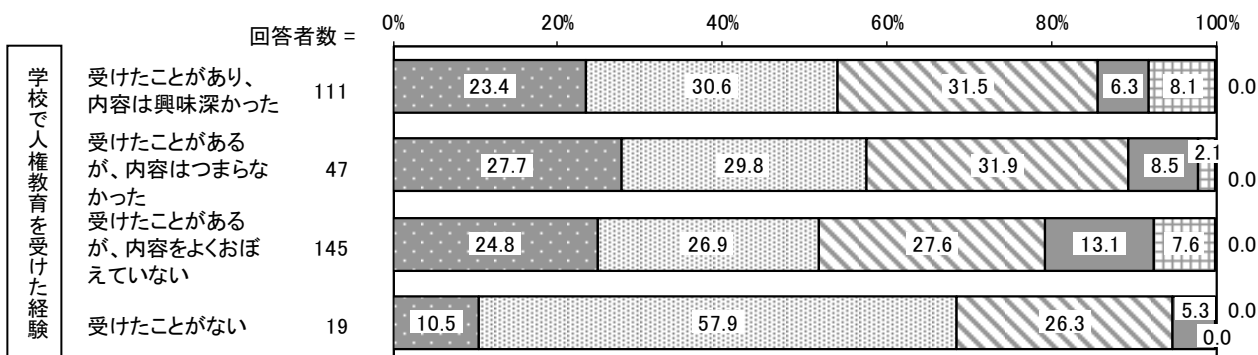
ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない



イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ

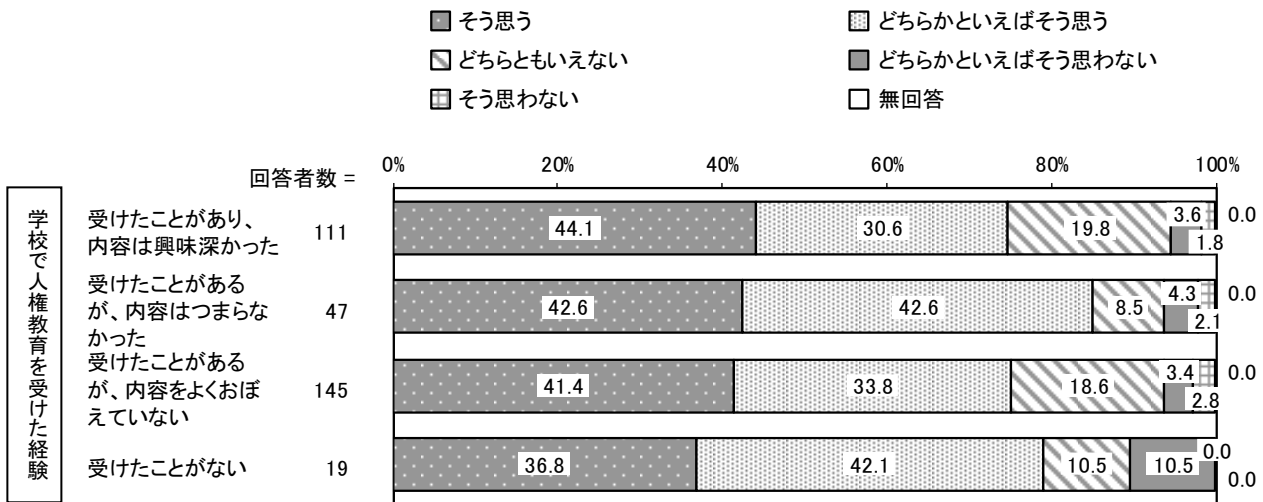


ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい

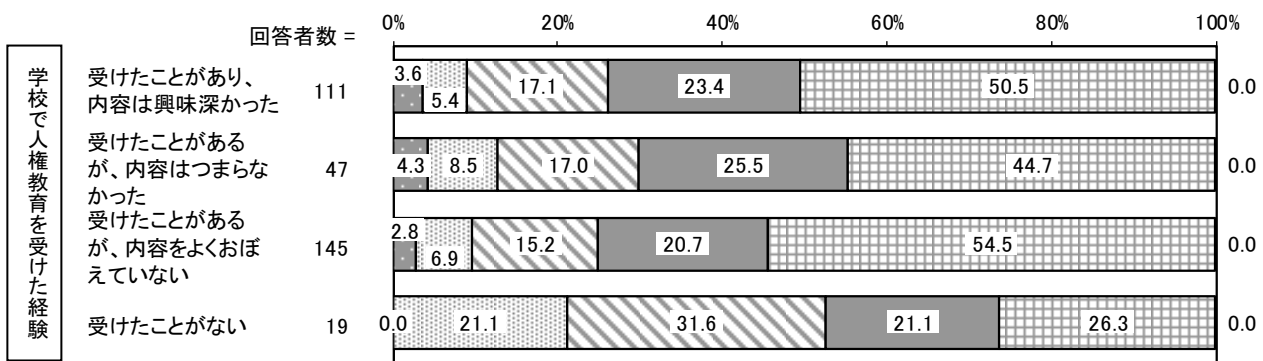


【図3-3 学校で人権教育を受けた経験別子どもの人権に関する意見に対する考え】

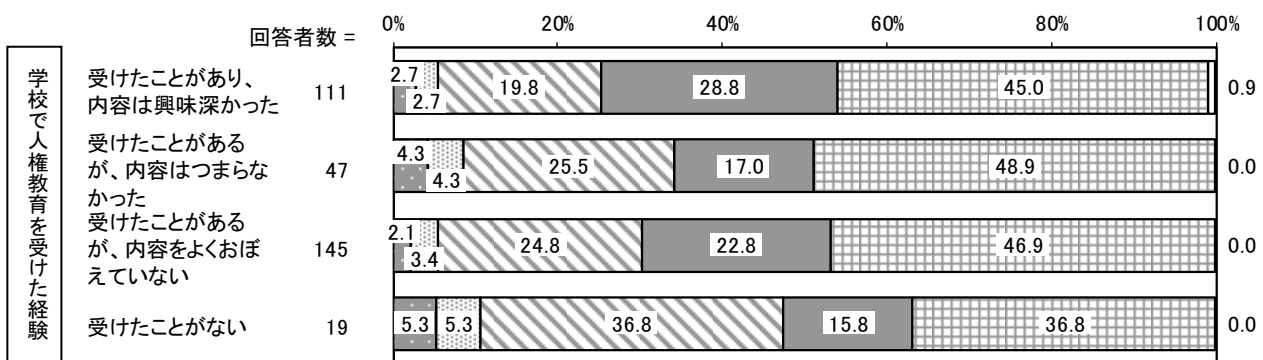
エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない



オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ



カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ

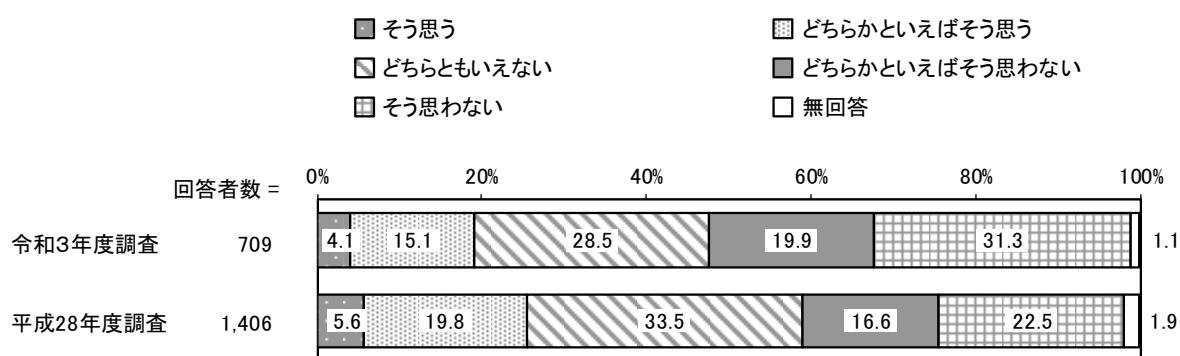


学校で人権教育を受けた経験別でみると、“ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない” “イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ” の項目において、「受けたことがあり、内容は興味深かった」「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」で『そう思わない』の割合が高くなっています。

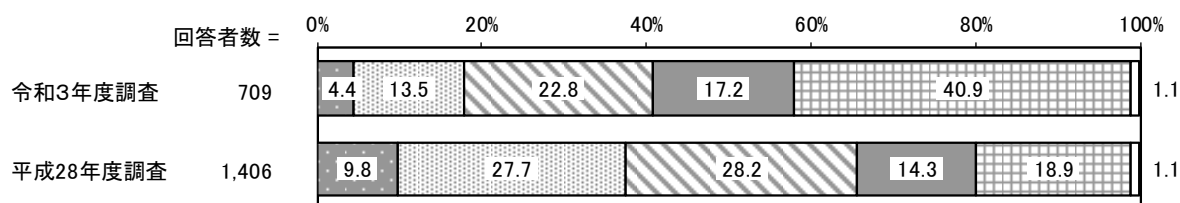
※人権教育の効果については、「受けたことがない」の回答結果を除いて考察しています。理由はp 7に記載しています。

【図3-4 前回調査との比較】

ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない



イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ



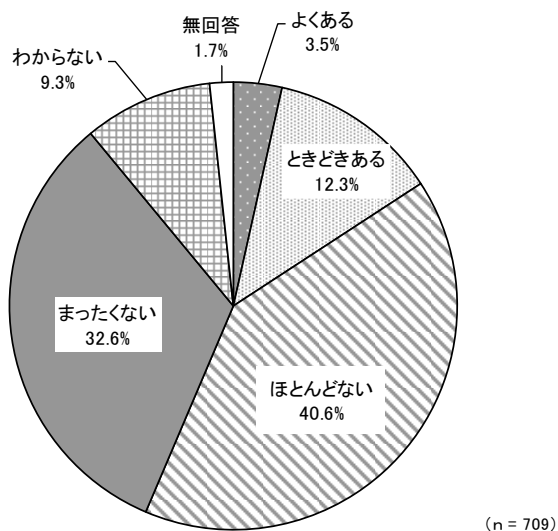
前回調査と比較すると、“ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない” “イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ” とともに『そう思う』が減少し、『そう思わない』の割合が増加しています。そして、この傾向は“イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ” のほうが顕著となっています。

4 人権侵害の経験について

(1) ここ5年間ぐらいに人権を侵害されたと思った経験の有無 [問4]

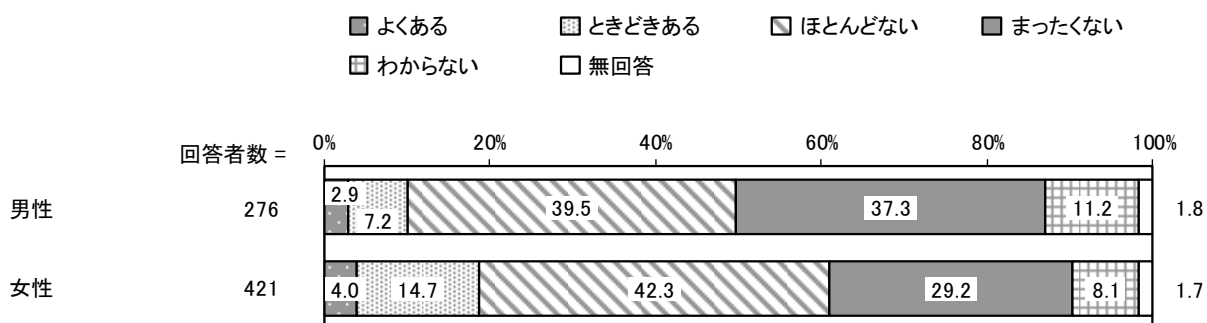
問4 あなたは、ここ5年ぐらいの間に自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(〇は1つ)

【図4-1 ここ5年間ぐらいに人権を侵害されたと思った経験 (全体)】



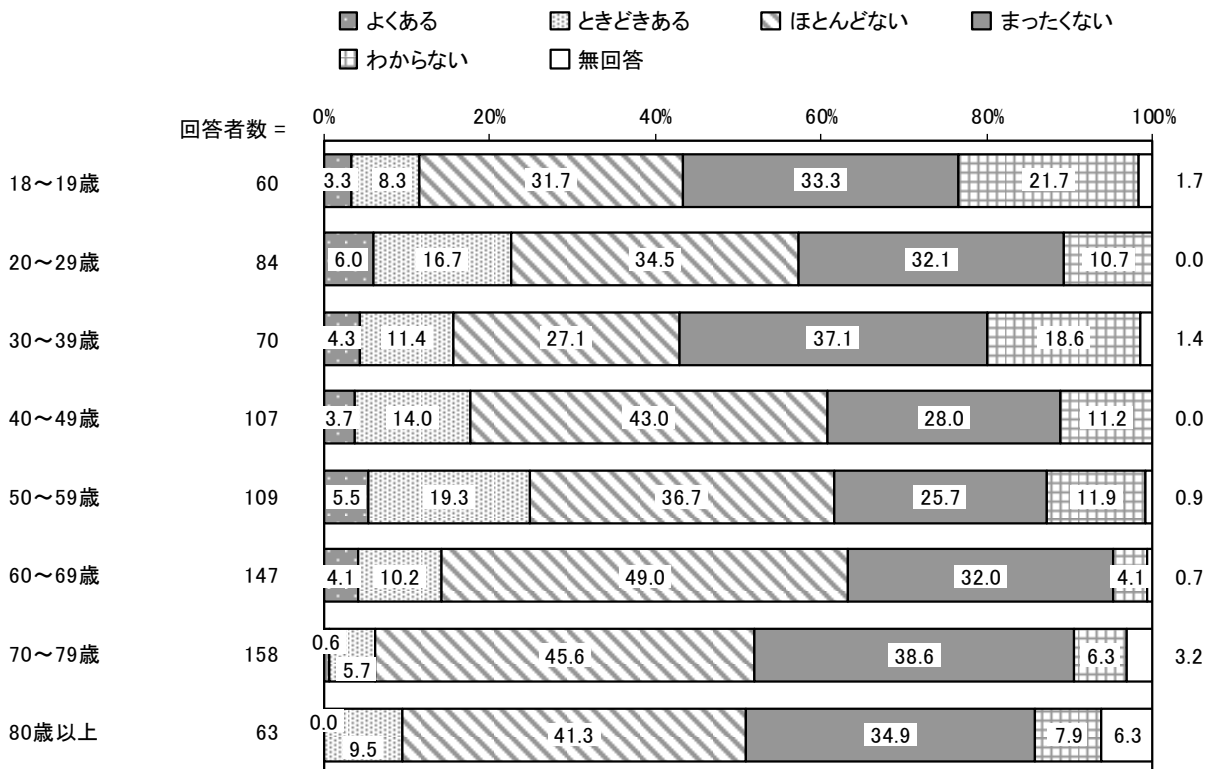
「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』の割合が15.8%、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせた『ない』の割合が73.2%、「わからない」の割合が9.3%となっています。

【図4-2 ここ5年間ぐらいに人権を侵害されたと思った経験 (性別)】



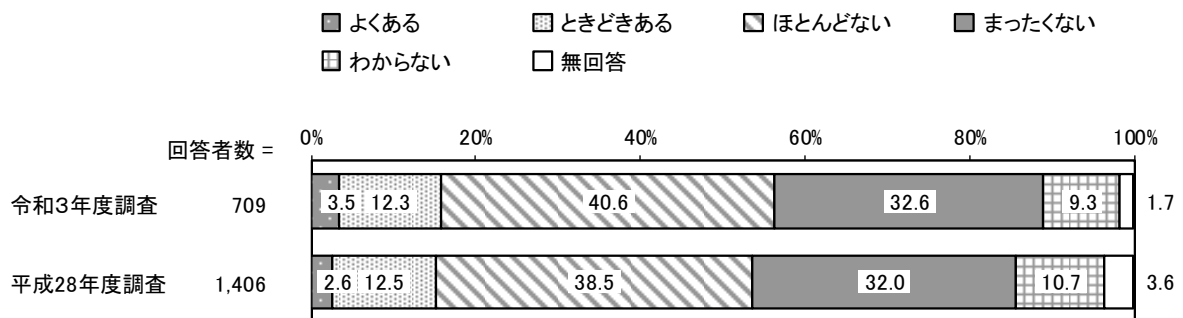
性別でみると、『ある』の割合は、男性よりも女性が8.6ポイント高くなっています。

【図4-3 ここ5年間ぐらいに人権を侵害されたと思った経験（年齢別）】



年齢別で見ると、『ある』の割合は、20～29歳、50～59歳で高くなっています。一方、『ない』の割合は、70～79歳で高く、8割半ばとなっています。

【図4-4 前回調査との比較】



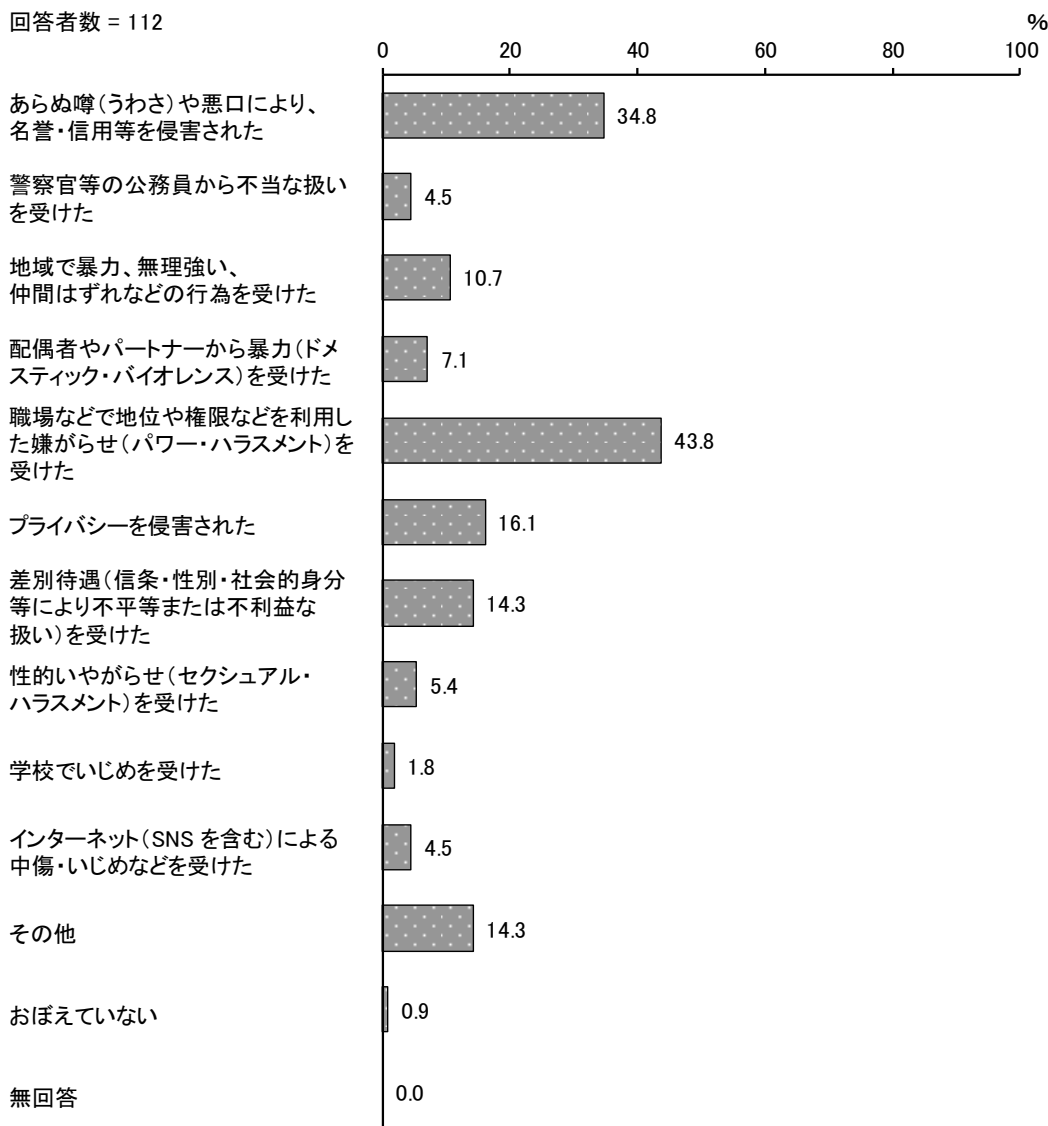
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

(2) 受けた人権侵害 [問4-1]

問4-1～問4-2は、問4で「1」、「2」を選んだ人にお聞きします。

問4-1 それはどのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

【図4-5 受けた人権侵害 (全体)】



「職場などで地位や権限などを利用した嫌がらせ(パワー・ハラスメント)を受けた」の割合が43.8%と最も高く、次いで「あらぬ噂(うわさ)や悪口により、名誉・信用等を侵害された」の割合が34.8%、「プライバシーを侵害された」の割合が16.1%となっています。

【表4-1 受けた人権侵害（性別・年齢別）】

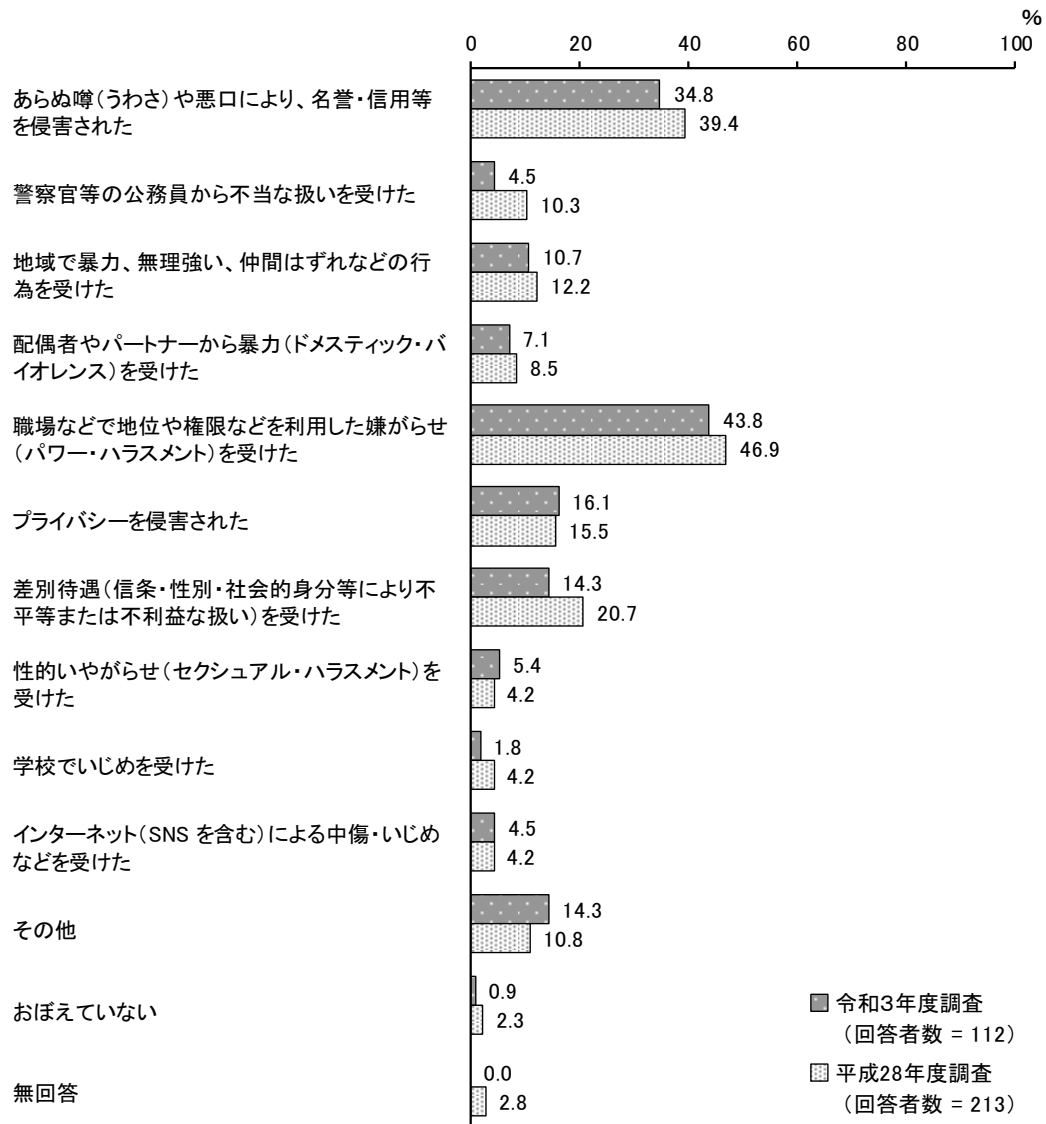
単位：％

区分		回答者数(件)	あらぬ噂(うわさ)や悪口により、名誉・信用等を侵害された	警察官等の公務員から不当な扱いを受けた	地域で暴力、無理強い、仲間はずれなどの行為を受けた	配偶者やパートナーから暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた	職場などで地位や権限などを利用した嫌がらせ(パワー・ハラスメント)を受けた	プライバシーを侵害された	差別待遇(信条・性別・社会的身分等により不平等または不利益な扱い)を受けた	性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた	学校でいじめを受けた	インターネット(SNSを含む)による中傷・いじめなどを受けた	その他	おぼえていない	無回答
性別	男性	28	35.7	3.6	10.7	—	53.6	14.3	14.3	—	3.6	7.1	10.7	—	—
	女性	79	35.4	5.1	11.4	10.1	39.2	16.5	15.2	7.6	1.3	3.8	16.5	—	—
年齢別	18～19歳	7	28.6	14.3	14.3	14.3	—	42.9	42.9	—	42.9	—	—	—	—
	20～29歳	19	36.8	5.3	10.5	5.3	52.6	15.8	5.3	10.5	—	5.3	15.8	—	—
	30～39歳	11	18.2	9.1	—	9.1	45.5	18.2	9.1	—	—	9.1	27.3	—	—
	40～49歳	19	26.3	—	—	—	52.6	15.8	10.5	10.5	—	5.3	10.5	—	—
	50～59歳	27	40.7	—	11.1	14.8	59.3	11.1	14.8	—	—	3.7	7.4	—	—
	60～69歳	21	38.1	4.8	14.3	4.8	38.1	9.5	14.3	9.5	—	4.8	23.8	—	—
	70～79歳	10	50.0	—	30.0	—	10.0	20.0	20.0	—	20.0	—	10.0	—	—
80歳以上	6	50.0	16.7	16.7	—	16.7	33.3	33.3	16.7	—	—	33.3	—	—	

性別でみると、男性、女性ともに「職場などで地位や権限などを利用した嫌がらせ（パワー・ハラスメント）を受けた」の割合が最も高く、特に男性で5割を超えています。また、「配偶者やパートナーから暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」「性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」については、男性からの回答者はありませんでした。

年齢別でみると、20歳から69歳までの年齢層で、「職場などで地位や権限などを利用した嫌がらせ（パワー・ハラスメント）を受けた」の割合が高くなっています。

【図4-6 前回調査との比較】

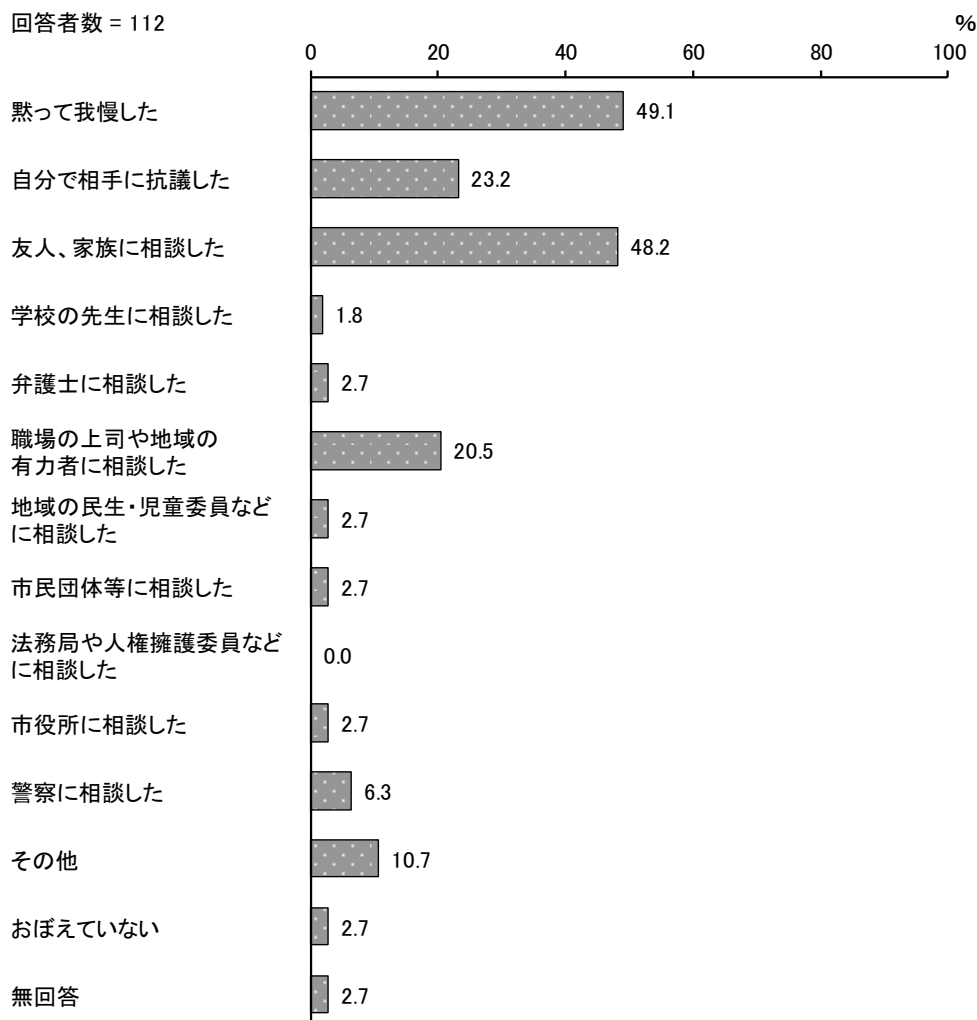


前回調査と比較すると、「警察官等の公務員から不当な扱いを受けた」「差別待遇(信条・性別・社会的身分等により不平等または不利益な扱い)を受けた」の割合が減少しています。

(3) 人権侵害を受けたときの対応 [問4-2]

問4-2 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。(〇はいくつでも)

【図4-7 人権侵害を受けたときの対応 (全体)】



「黙って我慢した」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「友人、家族に相談した」の割合が 48.2%、「自分で相手に抗議した」の割合が 23.2%となっています。また、「法務局や人権擁護委員などに相談した」と回答した人はなく、「市役所に相談した」の割合は 2.7%、「警察に相談した」の割合は 6.3%と、公的な機関への相談が少ない傾向があります。

【表 4-2 人権侵害を受けたときの対応（性別・年齢別）】

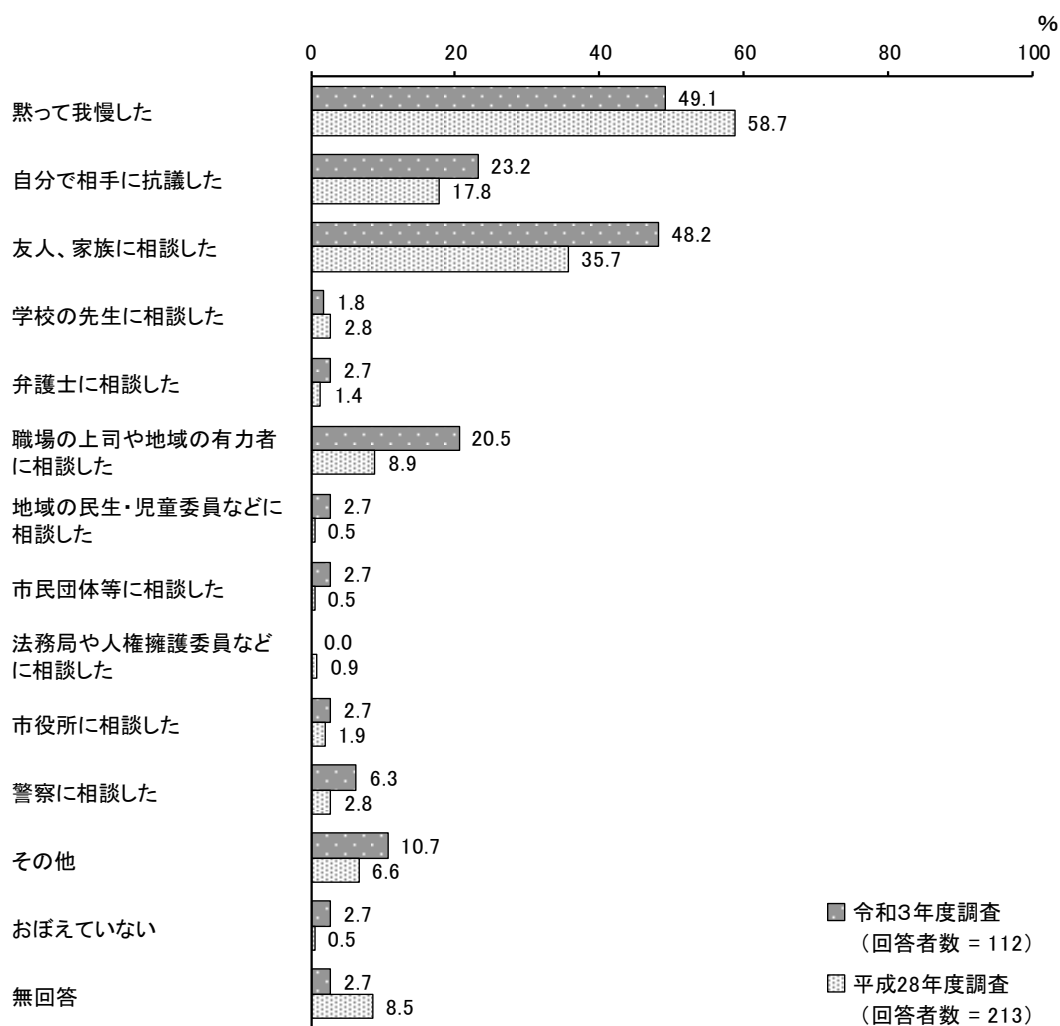
単位：%

区分		回答者数（件）	黙って我慢した	自分で相手に抗議した	友人、家族に相談した	学校の先生に相談した	弁護士に相談した	職場の上司や地域の有力者に相談した	地域の民生・児童委員などに相談した	市民団体等に相談した	法務局や人権擁護委員などに相談した	市役所に相談した	警察に相談した	その他	おぼえていない	無回答
性別	男性	28	57.1	28.6	35.7	—	—	14.3	—	—	—	—	3.6	14.3	—	3.6
	女性	79	46.8	21.5	53.2	2.5	3.8	22.8	3.8	3.8	—	3.8	7.6	10.1	2.5	2.5
年齢別	18～19歳	7	57.1	—	57.1	28.6	—	—	—	—	—	—	14.3	14.3	—	—
	20～29歳	19	42.1	26.3	57.9	—	—	31.6	5.3	—	—	5.3	10.5	10.5	—	—
	30～39歳	11	54.5	36.4	63.6	—	—	36.4	—	9.1	—	9.1	9.1	—	—	—
	40～49歳	19	26.3	26.3	47.4	—	5.3	26.3	—	—	—	—	5.3	5.3	—	5.3
	50～59歳	27	59.3	22.2	44.4	3.7	7.4	25.9	3.7	3.7	—	—	3.7	14.8	3.7	3.7
	60～69歳	21	52.4	19.0	47.6	—	—	14.3	—	—	—	—	9.5	14.3	4.8	4.8
	70～79歳	10	50.0	30.0	30.0	—	—	—	—	—	—	—	—	20.0	—	—
	80歳以上	6	66.7	—	33.3	—	—	—	16.7	16.7	—	—	16.7	—	—	—

性別でみると、女性に比べ、男性で「黙って我慢した」の割合が高く、6割近くとなっています。また、男性に比べ、女性で「友人、家族に相談した」の割合が高く、5割を超えています。

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳で「友人、家族に相談した」の割合が高く、6割を超えています。

【図4-8 前回調査との比較】

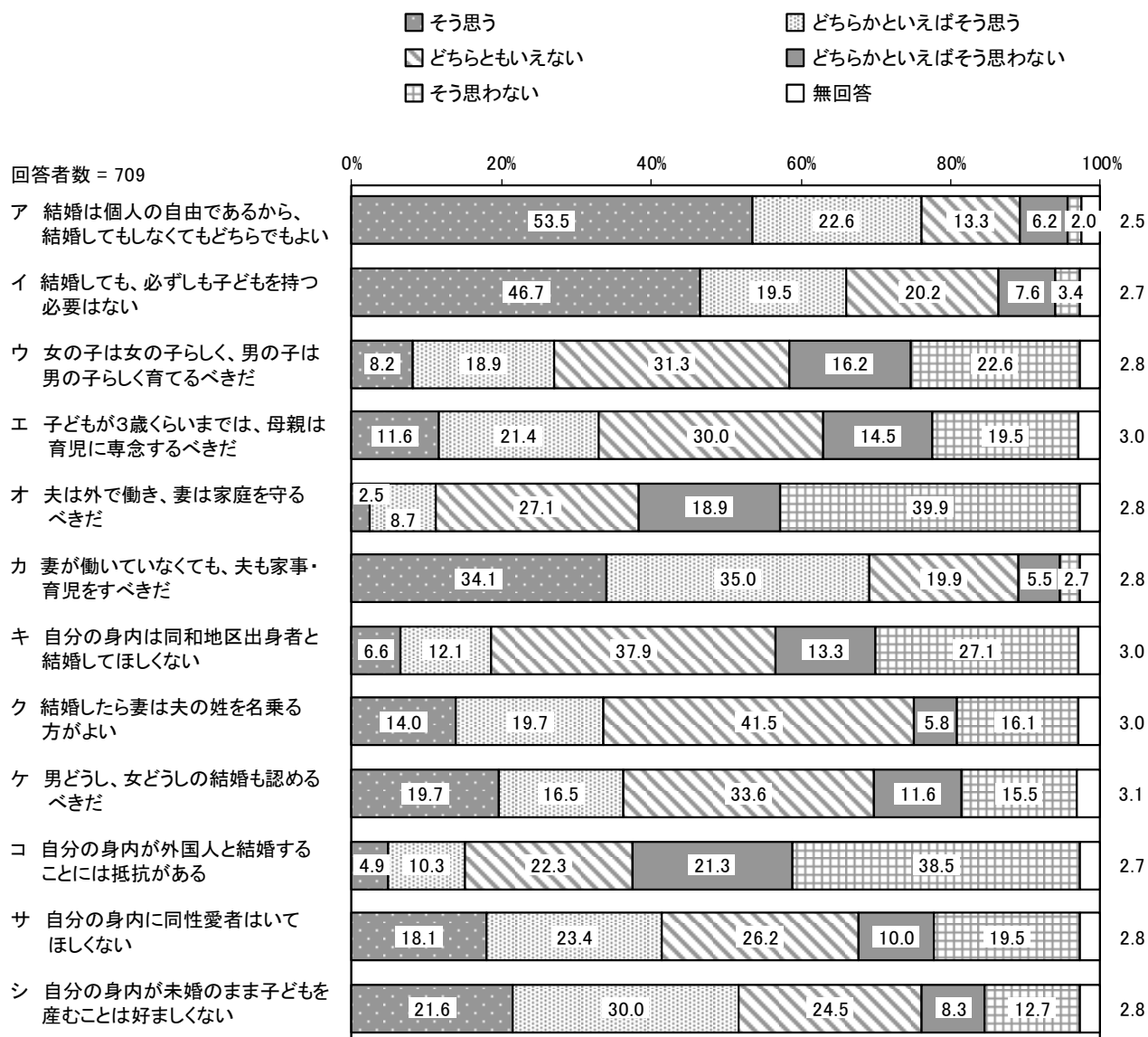


前回調査と比較すると、「自分で相手に抗議した」「友人、家族に相談した」「職場の上司や地域の有力者に相談した」の割合が増加しています。一方、「黙って我慢した」の割合が減少しています。

5 家族に関わるいろいろな見方や考え方について [問5]

問5 次のような家族に関わるいろいろな見方や考え方について、あなたはどのように思いますか。ア～シのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図5-1 家族に関わるいろいろな見方や考え方(全体)】



“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』の割合が7割半ばとなっています。一方、“オ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ” “コ 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある”で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』の割合がいずれも約6割となって『そう思う』の割合を大きく超えています。

【表5-1 家族に関わるいろいろな見方や考え方（性別・年齢別）】

ア 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい

イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

単位：％

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	48.6	21.7	17.4	8.0	1.8	2.5
	女性	421	57.0	23.0	10.7	5.0	1.9	2.4
年齢別	18～19歳	60	85.0	11.7	3.3	—	—	—
	20～29歳	84	76.2	16.7	4.8	1.2	1.2	—
	30～39歳	70	74.3	18.6	4.3	1.4	1.4	—
	40～49歳	107	67.3	22.4	5.6	3.7	—	0.9
	50～59歳	109	63.3	18.3	10.1	4.6	1.8	1.8
	60～69歳	147	43.5	25.9	19.0	7.5	1.4	2.7
	70～79歳	158	41.1	24.7	20.3	9.5	1.9	2.5
	80歳以上	63	31.7	25.4	14.3	9.5	7.9	11.1

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
		276	39.9	19.2	24.6	10.1	3.3	2.9
		421	51.1	19.7	17.3	5.9	3.6	2.4
		60	81.7	13.3	1.7	1.7	1.7	—
		84	70.2	19.0	6.0	2.4	2.4	—
		70	75.7	15.7	8.6	—	—	—
		107	65.4	16.8	11.2	4.7	0.9	0.9
		109	53.2	23.9	15.6	2.8	1.8	2.8
		147	36.7	21.1	29.3	8.8	1.4	2.7
		158	29.7	19.0	28.5	13.3	7.0	2.5
		63	19.0	17.5	27.0	14.3	11.1	11.1

ウ 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ

エ 子どもが3歳くらいまでは、母親は育児に専念するべきだ

単位：％

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	12.3	25.4	30.4	12.7	16.3	2.9
	女性	421	5.5	14.5	32.1	18.5	26.8	2.6
年齢別	18～19歳	60	1.7	16.7	30.0	21.7	30.0	—
	20～29歳	84	7.1	15.5	26.2	15.5	35.7	—
	30～39歳	70	4.3	18.6	32.9	8.6	35.7	—
	40～49歳	107	4.7	14.0	33.6	19.6	27.1	0.9
	50～59歳	109	3.7	15.6	36.7	16.5	24.8	2.8
	60～69歳	147	7.5	18.4	34.0	17.0	20.4	2.7
	70～79歳	158	12.7	22.8	28.5	17.7	15.2	3.2
	80歳以上	63	14.3	23.8	22.2	17.5	11.1	11.1

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
		276	12.7	25.4	32.6	10.5	15.6	3.3
		421	10.5	19.2	29.0	16.9	21.9	2.6
		60	8.3	18.3	35.0	23.3	15.0	—
		84	8.3	10.7	33.3	23.8	23.8	—
		70	2.9	10.0	31.4	20.0	35.7	—
		107	3.7	20.6	29.0	15.0	30.8	0.9
		109	8.3	19.3	40.4	12.8	16.5	2.8
		147	9.5	24.5	32.0	16.3	14.3	3.4
		158	20.3	30.4	25.3	7.0	13.9	3.2
		63	22.2	23.8	22.2	11.1	9.5	11.1

【表5-1 家族に関わるいろいろな見方や考え方（性別・年齢別）】

オ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

カ 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ

単位：％

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	3.3	10.9	35.1	17.0	30.8	2.9
	女性	421	2.1	7.4	21.9	20.7	45.4	2.6
年齢別	18～19歳	60	—	1.7	20.0	26.7	51.7	—
	20～29歳	84	1.2	4.8	25.0	19.0	50.0	—
	30～39歳	70	1.4	1.4	20.0	22.9	54.3	—
	40～49歳	107	0.9	11.2	18.7	16.8	50.5	1.9
	50～59歳	109	1.8	4.6	35.8	16.5	38.5	2.8
	60～69歳	147	3.4	11.6	24.5	20.4	37.4	2.7
	70～79歳	158	2.5	12.0	32.3	20.3	30.4	2.5
	80歳以上	63	6.3	7.9	25.4	20.6	28.6	11.1

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	30.4	35.9	22.8	5.1	3.3	2.5
	女性	421	36.8	34.7	17.6	5.7	2.4	2.9
年齢別	18～19歳	60	36.7	35.0	23.3	3.3	1.7	—
	20～29歳	84	34.5	42.9	14.3	4.8	3.6	—
	30～39歳	70	52.9	30.0	15.7	—	1.4	—
	40～49歳	107	51.4	29.0	16.8	0.9	0.9	0.9
	50～59歳	109	32.1	36.7	18.3	6.4	4.6	1.8
	60～69歳	147	31.3	39.5	19.0	4.8	2.7	2.7
	70～79歳	158	23.4	36.7	26.6	8.9	1.9	2.5
	80歳以上	63	20.6	30.2	17.5	12.7	4.8	14.3

キ 自分の身内は同和地区出身者と結婚してほしくない

ク 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい

単位：％

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	6.2	10.1	40.6	14.1	26.1	2.9
	女性	421	6.7	13.8	36.1	12.8	27.8	2.9
年齢別	18～19歳	60	1.7	—	25.0	11.7	61.7	—
	20～29歳	84	2.4	7.1	32.1	11.9	46.4	—
	30～39歳	70	11.4	4.3	32.9	12.9	38.6	—
	40～49歳	107	2.8	11.2	33.6	17.8	32.7	1.9
	50～59歳	109	3.7	11.9	44.0	16.5	21.1	2.8
	60～69歳	147	6.1	10.2	42.2	14.3	24.5	2.7
	70～79歳	158	8.9	16.5	41.8	8.9	21.5	2.5
	80歳以上	63	6.3	22.2	25.4	9.5	23.8	12.7

区分		回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	無 回答
性別	男性	276	15.6	24.6	37.7	4.3	14.9	2.9
	女性	421	13.3	16.6	43.9	6.7	16.6	2.9
年齢別	18～19歳	60	1.7	11.7	43.3	11.7	31.7	—
	20～29歳	84	4.8	13.1	44.0	10.7	27.4	—
	30～39歳	70	5.7	15.7	50.0	5.7	22.9	—
	40～49歳	107	10.3	15.9	43.0	3.7	26.2	0.9
	50～59歳	109	10.1	17.4	44.0	7.3	18.3	2.8
	60～69歳	147	10.2	20.4	49.0	4.8	12.2	3.4
	70～79歳	158	22.8	29.7	30.4	5.7	8.9	2.5
	80歳以上	63	31.7	7.9	30.2	6.3	11.1	12.7

【表5-1 家族に関わるいろいろな見方や考え方（性別・年齢別）】

ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ

区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	14.5	13.4	33.7	13.8	21.7	2.9
	女性	421	23.0	19.0	33.3	10.0	11.6	3.1
年齢別	18～19歳	60	43.3	21.7	25.0	3.3	6.7	—
	20～29歳	84	51.2	19.0	22.6	4.8	2.4	—
	30～39歳	70	40.0	25.7	24.3	1.4	8.6	—
	40～49歳	107	30.8	25.2	30.8	1.9	10.3	0.9
	50～59歳	109	21.1	19.3	43.1	4.6	10.1	1.8
	60～69歳	147	13.6	19.7	37.4	14.3	12.2	2.7
	70～79歳	158	7.6	5.1	35.4	22.8	25.9	3.2
	80歳以上	63	3.2	1.6	27.0	19.0	33.3	15.9

コ 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある

単位：％

区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	5.4	13.0	27.5	21.0	30.4	2.5
	女性	421	4.5	8.3	18.8	21.9	43.9	2.6
年齢別	18～19歳	60	1.7	3.3	23.3	16.7	55.0	—
	20～29歳	84	2.4	10.7	15.5	11.9	59.5	—
	30～39歳	70	5.7	4.3	15.7	18.6	55.7	—
	40～49歳	107	2.8	4.7	15.9	32.7	43.0	0.9
	50～59歳	109	5.5	7.3	24.8	18.3	42.2	1.8
	60～69歳	147	1.4	12.2	17.0	25.2	41.5	2.7
	70～79歳	158	7.6	18.4	31.6	16.5	23.4	2.5
	80歳以上	63	9.5	11.1	28.6	15.9	22.2	12.7

サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない

区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	22.5	26.8	26.1	9.4	12.3	2.9
	女性	421	15.2	21.4	26.4	10.5	24.0	2.6
年齢別	18～19歳	60	3.3	10.0	25.0	11.7	50.0	—
	20～29歳	84	6.0	13.1	31.0	10.7	39.3	—
	30～39歳	70	7.1	17.1	27.1	15.7	32.9	—
	40～49歳	107	10.3	15.9	23.4	19.6	29.9	0.9
	50～59歳	109	9.2	22.9	35.8	7.3	22.9	1.8
	60～69歳	147	16.3	29.3	32.7	6.8	12.2	2.7
	70～79歳	158	32.9	27.8	17.7	7.6	10.8	3.2
	80歳以上	63	34.9	25.4	19.0	4.8	3.2	12.7

シ 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない

単位：％

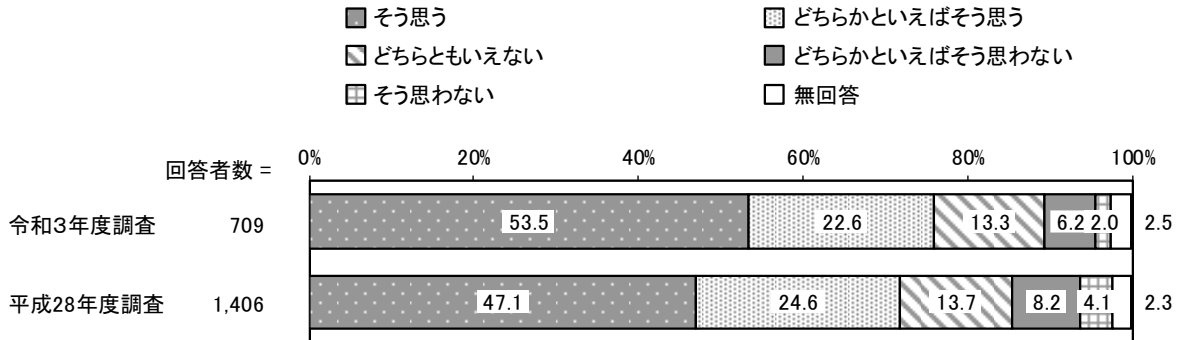
区分		回答者数(件)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	26.1	34.8	19.6	5.4	11.2	2.9
	女性	421	18.8	26.8	28.0	10.5	13.3	2.6
年齢別	18～19歳	60	15.0	26.7	30.0	16.7	11.7	—
	20～29歳	84	17.9	19.0	34.5	9.5	19.0	—
	30～39歳	70	17.1	22.9	28.6	11.4	20.0	—
	40～49歳	107	16.8	40.2	20.6	4.7	16.8	0.9
	50～59歳	109	16.5	27.5	27.5	11.9	13.8	2.8
	60～69歳	147	19.0	29.9	28.6	8.2	11.6	2.7
	70～79歳	158	28.5	33.5	24.1	3.8	7.0	3.2
	80歳以上	63	38.1	25.4	9.5	12.7	3.2	11.1

性別でみると、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい” “イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない” の項目において『そう思う』の割合が男性に比べ、女性で高くなっています。また、“オ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ” “コ 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある” の項目において『そう思わない』の割合が男性に比べ、女性で高くなっています。

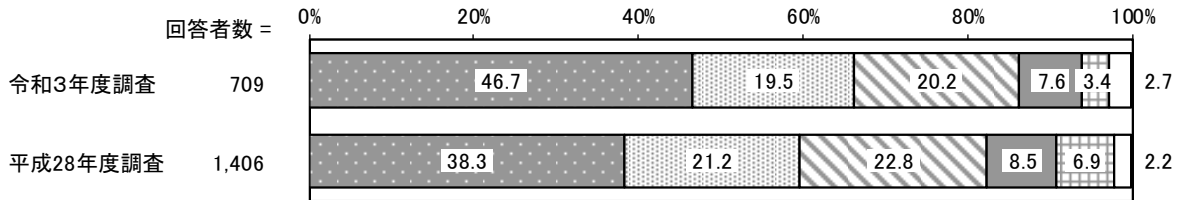
年齢別でみると、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい” “イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない” “ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ” の項目において年齢が低くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向がみられます。また、“キ 自分の身内は同和地区出身者と結婚してほしくない” “サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない” の項目において年齢が低くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられます。また、20～29歳で“ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ” の項目において『そう思わない』の割合が、70～79歳、80～89歳で“サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない” “シ 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない” の項目において『そう思う』の割合が高くなっています。

【図5-2 前回調査との比較】

ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



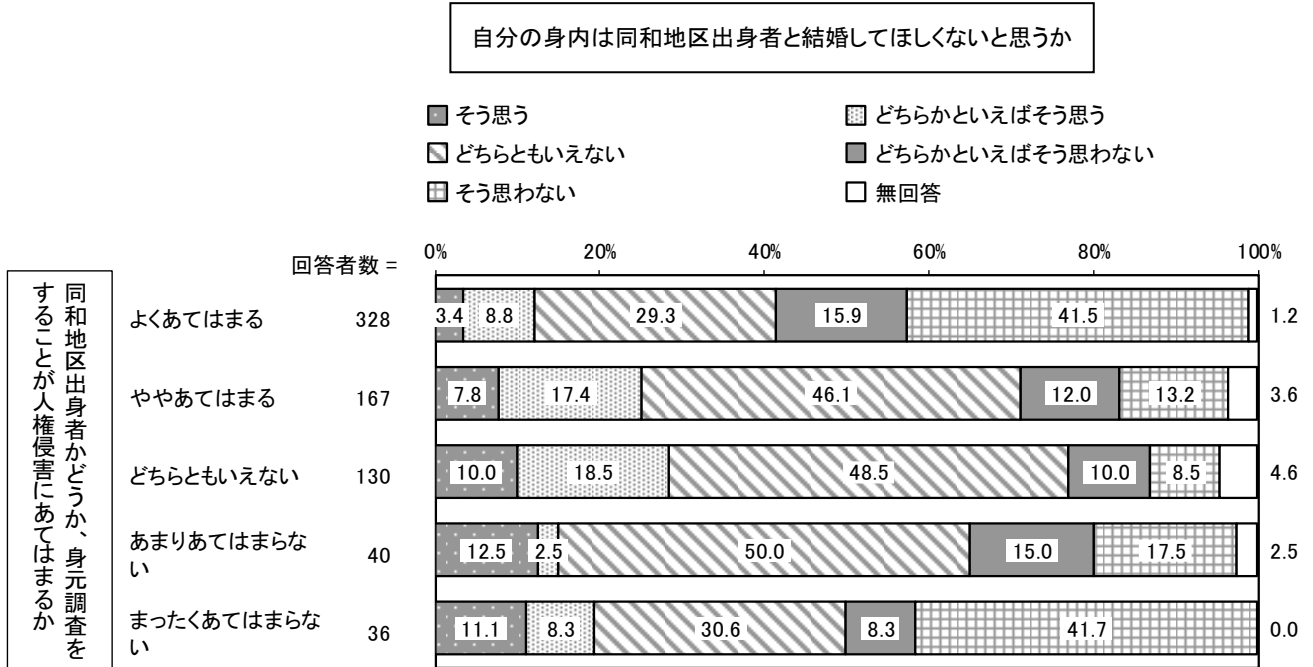
イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



前回調査と比較すると、「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では「そう思う」の割合が6ポイントほど増加しています。また、「イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」では『そう思う』の割合が増加しています。

【図5-3 同和地区出身者かどうか、身元調査をすることが人権侵害にあてはまるか】

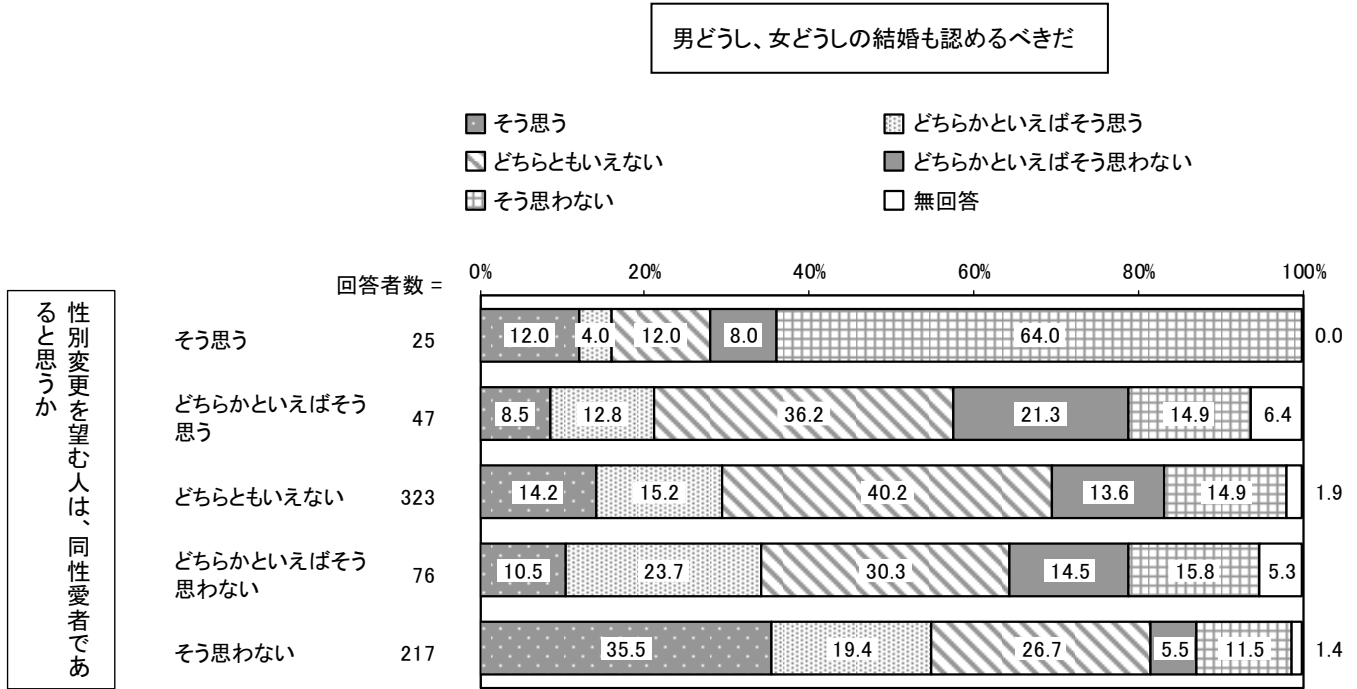
キ 自分の身内は同和地区出身者と結婚してほしくないと思うか



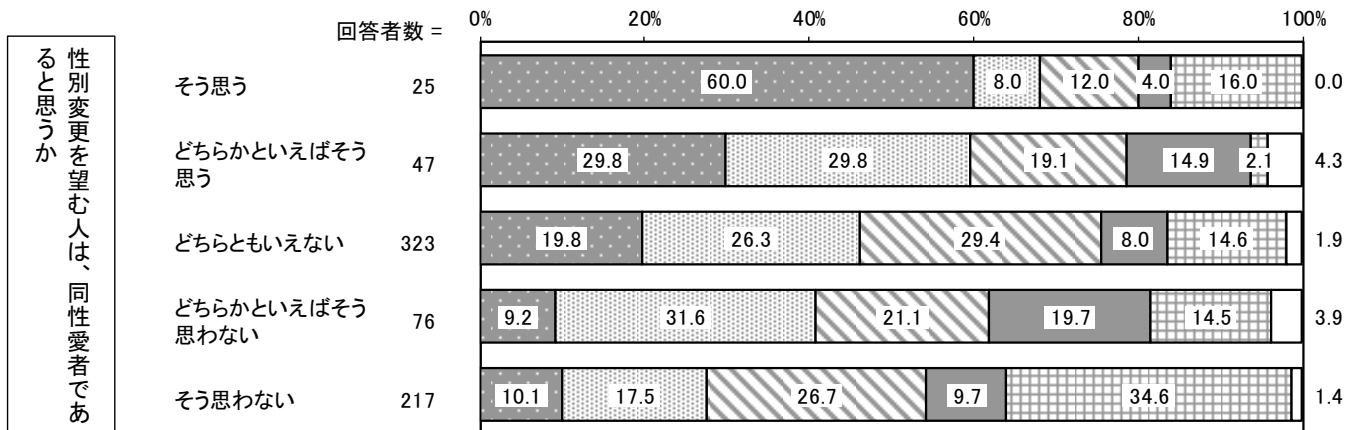
問2 “オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること” について人権侵害に「よくあてはまる」と回答した人は、「よくあてはまる」以外の回答をした人よりも、“キ 自分の身内は同和地区出身者と結婚して欲しくない”で『そう思わない』と回答する割合が高くなっています。

【図5-4 性別変更を望む人は、同性愛者であると思うか】

ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ



サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない

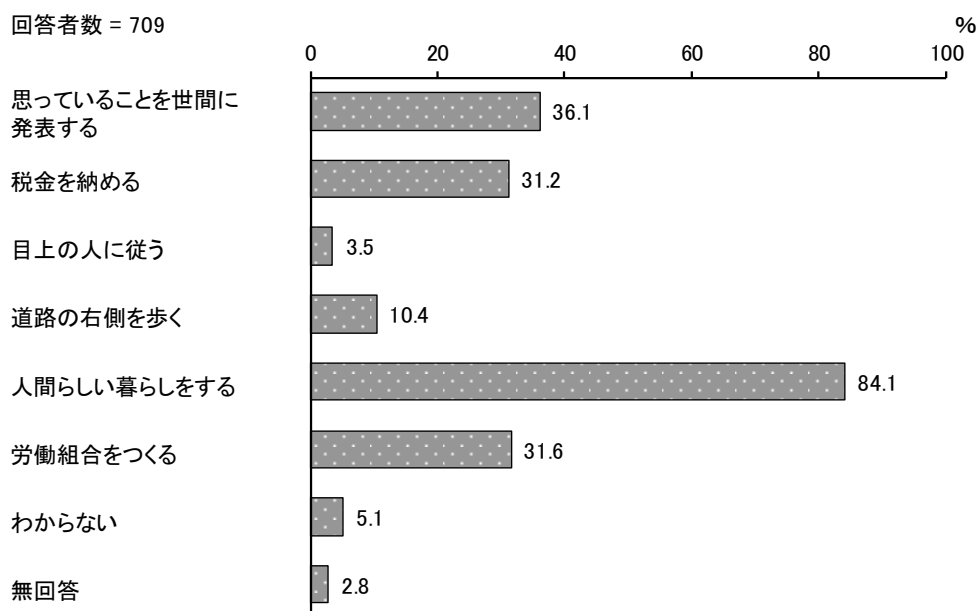


問12 “エ 性同一性障害のために、性別変更を望む人は、同性愛者である” と思うかについて「そう思う」と回答した人は、“ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ” について『そう思わない』と回答する割合が高くなっており、“サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない” については『そう思う』と回答する割合が高くなっています。

6 国民の権利として決められていると思うものについて [問6]

問6 あなたは、憲法により義務ではなく、「国民の権利」と決められているのはどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

【図6-1 国民の権利として決められていると思うもの(全体)】



「人間らしい暮らしをする」の割合が84.1%と最も高く、次いで「思っていることを世間に発表する」の割合が36.1%、「労働組合をつくる」の割合が31.6%となっています。

【表6-1 国民の権利として決められていると思うもの（性別・年齢別）】

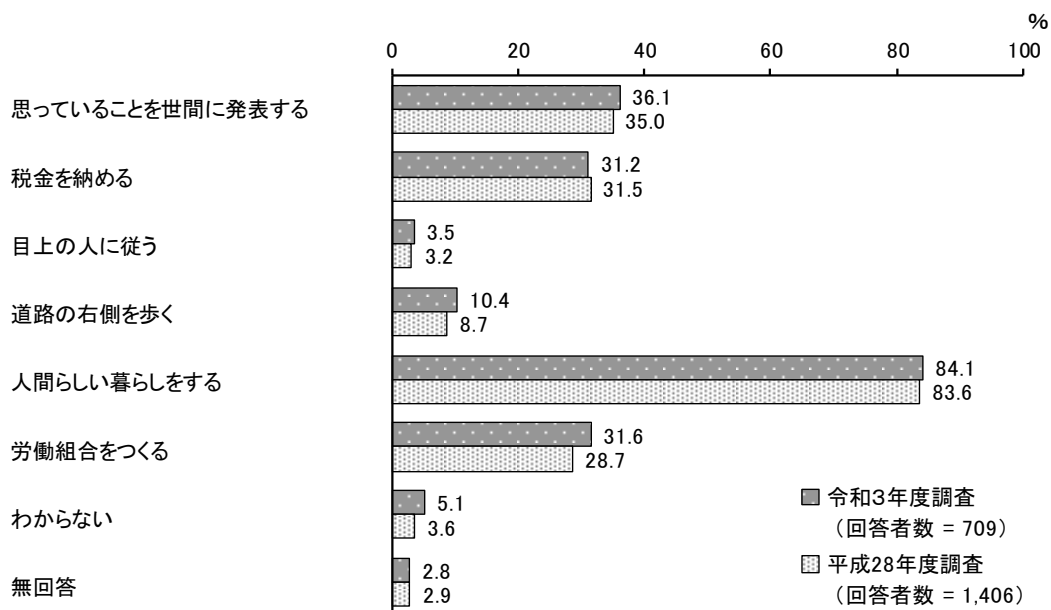
単位：%

区分		回答者数 (件)	思っていることを 世間に発表する	税金を納める	目上の人に従う	道路の右側を歩く	人間らしい暮らしを する	労働組合をつくる	わからない	無回答
性別	男性	276	42.0	27.9	3.3	9.8	84.8	35.1	5.4	2.5
	女性	421	32.1	33.7	3.8	10.9	83.6	29.0	5.0	2.6
年齢別	18～19歳	60	65.0	16.7	8.3	8.3	70.0	53.3	10.0	—
	20～29歳	84	58.3	32.1	7.1	8.3	77.4	48.8	4.8	1.2
	30～39歳	70	55.7	20.0	5.7	4.3	81.4	38.6	10.0	1.4
	40～49歳	107	40.2	17.8	4.7	3.7	87.9	28.0	4.7	0.9
	50～59歳	109	31.2	24.8	1.8	8.3	86.2	30.3	5.5	2.8
	60～69歳	147	34.0	28.6	0.7	8.8	87.8	30.6	3.4	2.0
	70～79歳	158	28.5	42.4	2.5	15.2	82.9	28.5	5.1	3.2
	80歳以上	63	30.2	55.6	4.8	28.6	81.0	22.2	—	9.5

性別でみると、女性に比べ、男性で「思っていることを世間に発表する」の割合が高く、4割を超えています。一方、男性に比べ、女性で「税金を納める」の割合が高く、3割を超えています。

年齢別でみると、80歳以上で「税金を納める」の割合が高く、5割半ばとなっています。

【図6-2 前回調査との比較】



前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【図6-3 「日本人の意識」調査との比較】



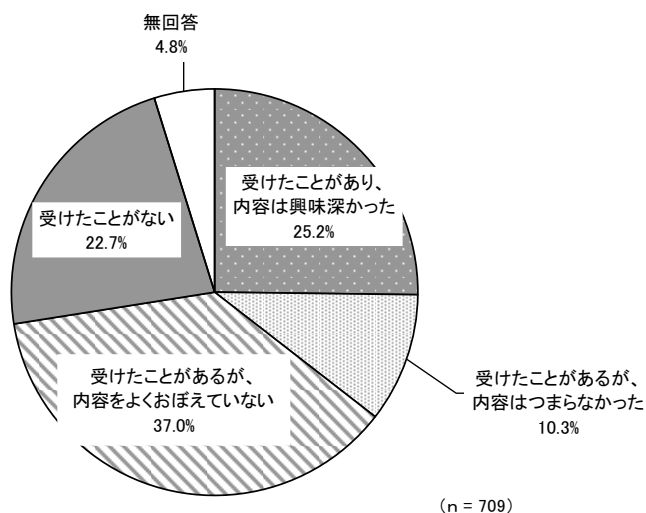
「日本人の意識」調査と比較すると、「国民の権利」と憲法に決められている「思っていることを世間に公表する」（第21条表現の自由）、「人間らしい暮らしをする」（第25条生存権）、「労働組合をつくる」（第28条団結権）のいずれもで割合が高くなっています。一方、「税金を納める」の割合が低くなっています。

7 人権教育を受けた経験について

(1) 学校で差別や人権に関し教育を受けた経験 [問7]

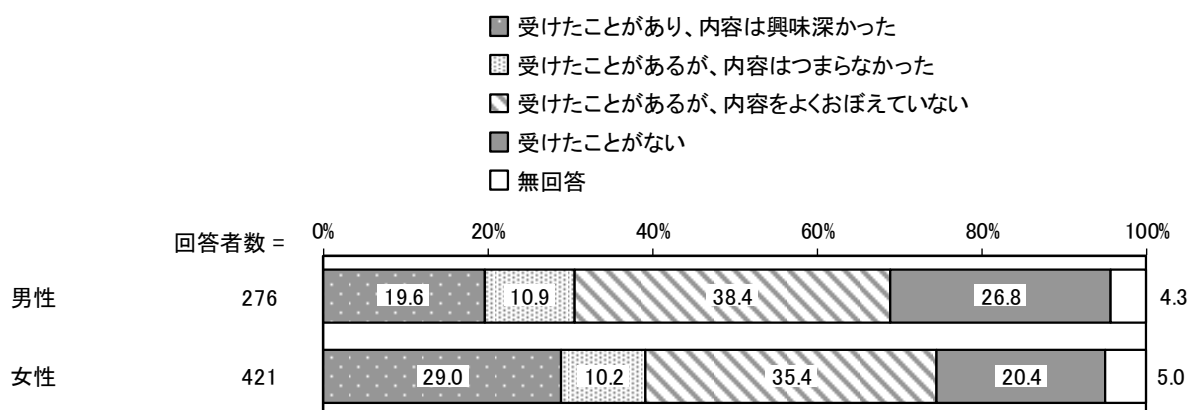
問7 あなたは小学校、中学校または高校で差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。また、その教育を受けて、内容はどうでしたか (〇は1つ)

【図7-1 学校で差別や人権に関し教育を受けた経験 (全体)】



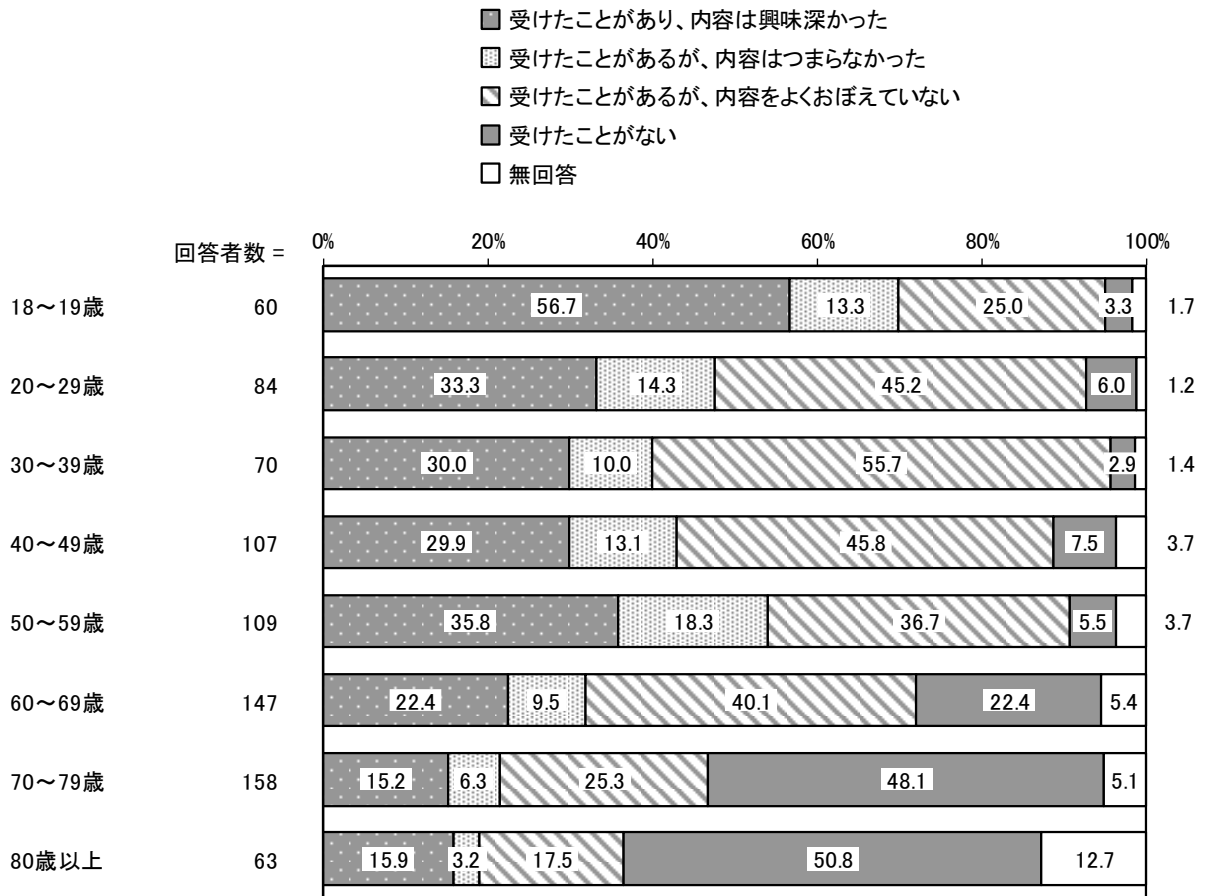
「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」の割合が37.0%と最も高く、次いで「受けたことがあり、内容は興味深かった」の割合が25.2%、「受けたことがない」の割合が22.7%となっています。

【図7-2 学校で差別や人権に関し教育を受けた経験 (性別)】



性別でみると、「受けたことがあり、内容は興味深かった」の割合は、男性よりも女性が9.4ポイント高くなっています。

【図 7 - 3 学校で差別や人権に関し教育を受けた経験（年齢別）】



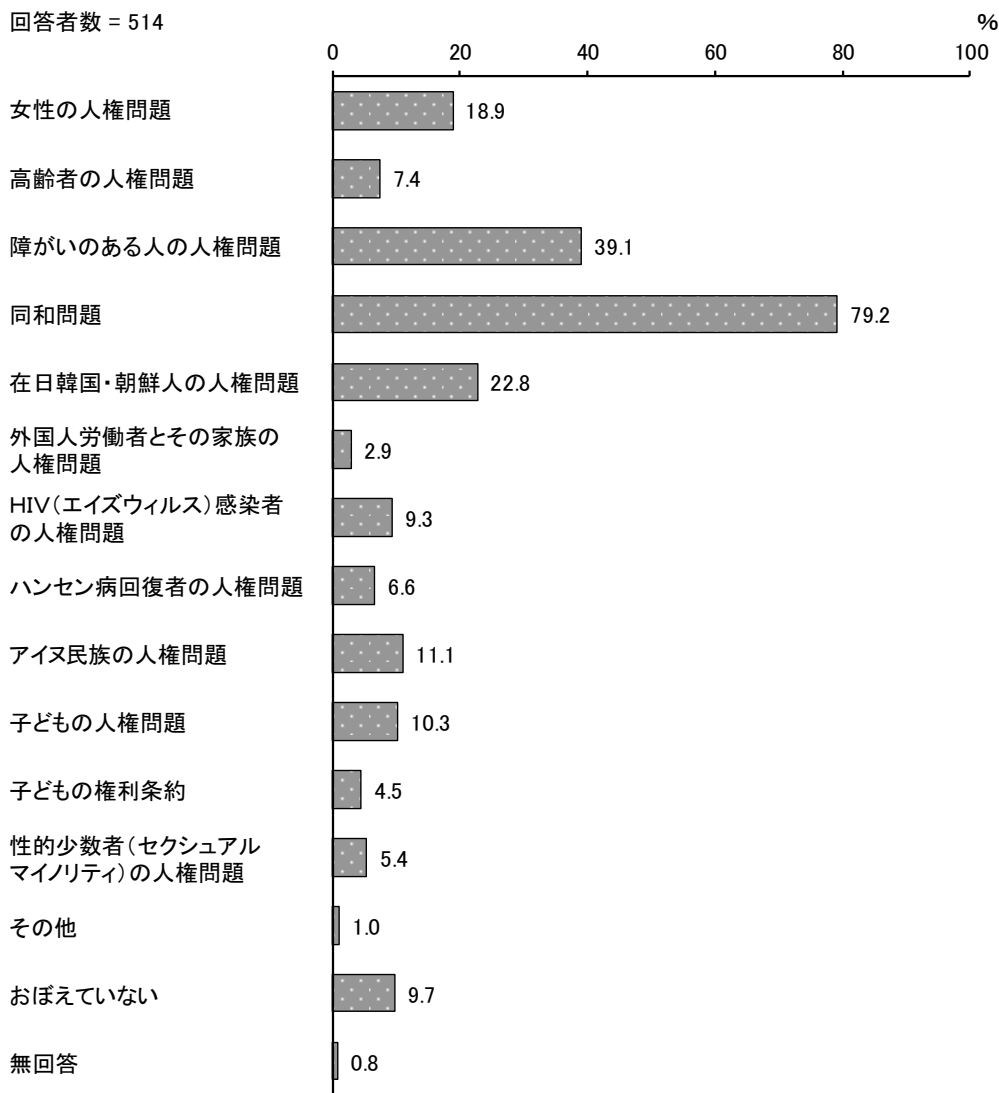
年齢別でみると、「受けたことがあり、内容は興味深かった」の割合は、18～19歳で高く、6割近くとなっています。また、70～79歳と80歳以上では、「受けたことがない」が5割前後と高い割合となっています。

(2) 学校で受けた人権教育の内容 [問7-1]

問7-1は、問7で「1」、「2」、「3」を選んだ人にお聞きします。

問7-1 どういう内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)

【図7-4 学校で受けた人権教育の内容(全体)】



「同和問題」の割合が79.2%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権問題」の割合が39.1%、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」の割合が22.8%となっています。

【表 7-1 学校で受けた人権教育の内容（性別・年齢別）】

単位：％

区分		回答者数（件）	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障がいのある人の人権問題	同和問題	在日韓国・朝鮮人の人権問題	外国人労働者とその家族の人権問題	HIV（エイズウイルス）感染者の人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	子どもの人権問題	子どもの権利条約	性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の人権問題	その他	おぼえていない	無回答
性別	男性	190	17.4	7.9	35.8	78.9	23.2	4.7	7.4	5.8	14.7	9.5	4.2	4.7	1.1	12.6	—
	女性	314	20.1	6.7	41.1	79.0	22.6	1.9	10.5	7.3	9.2	11.1	4.8	6.1	1.0	8.3	1.3
年齢別	18～19歳	57	57.9	17.5	71.9	66.7	17.5	21.1	21.1	17.5	28.1	31.6	19.3	40.4	3.5	8.8	—
	20～29歳	78	37.2	16.7	70.5	41.0	29.5	9.0	33.3	16.7	34.6	26.9	15.4	21.8	—	14.1	—
	30～39歳	67	28.4	9.0	56.7	67.2	31.3	9.0	34.3	9.0	22.4	17.9	7.5	13.4	1.5	13.4	—
	40～49歳	95	14.7	3.2	47.4	84.2	22.1	2.1	7.4	4.2	9.5	8.4	4.2	2.1	1.1	5.3	—
	50～59歳	99	13.1	6.1	35.4	91.9	29.3	1.0	1.0	3.0	8.1	6.1	1.0	—	1.0	6.1	1.0
	60～69歳	106	11.3	3.8	23.6	85.8	18.9	—	—	2.8	1.9	3.8	1.9	0.9	0.9	9.4	0.9
	70～79歳	74	21.6	6.8	23.0	77.0	12.2	2.7	—	6.8	5.4	6.8	2.7	—	1.4	13.5	2.7
	80歳以上	23	21.7	17.4	34.8	82.6	21.7	—	—	13.0	8.7	26.1	8.7	—	—	13.0	—

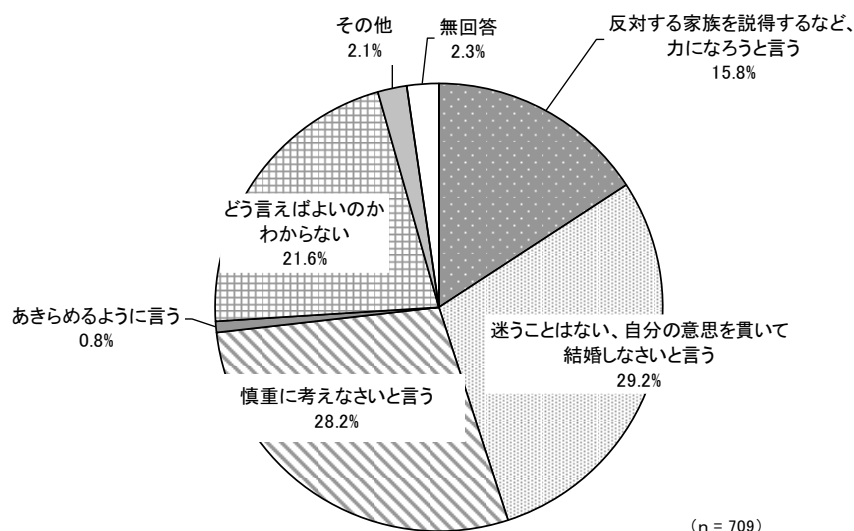
性別でみると、男性に比べ、女性で「障がいのある人の人権問題」の割合が高く、4割を超えています。一方、女性に比べ、男性で「アイヌ民族の人権問題」の割合が高く、1割半ばとなっています。

年齢別でみると、18～19歳で「女性の人権問題」の割合が高く、6割近くとなっています。また、50～59歳で「同和問題」の割合が高く、9割を超えています。

8 同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応について[問8]

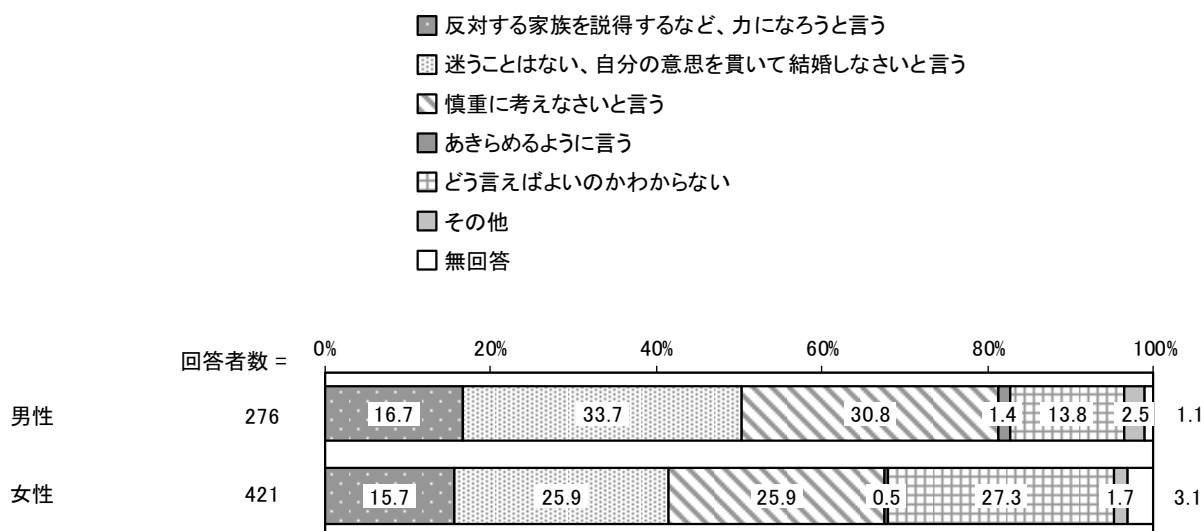
問8 結婚相手が同和地区の人であるということを理由に、家族から結婚を反対されている親戚がいるとします。あなたがその方から相談を受けた場合、どのような態度をとると思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

【図8-1 同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応（全体）】



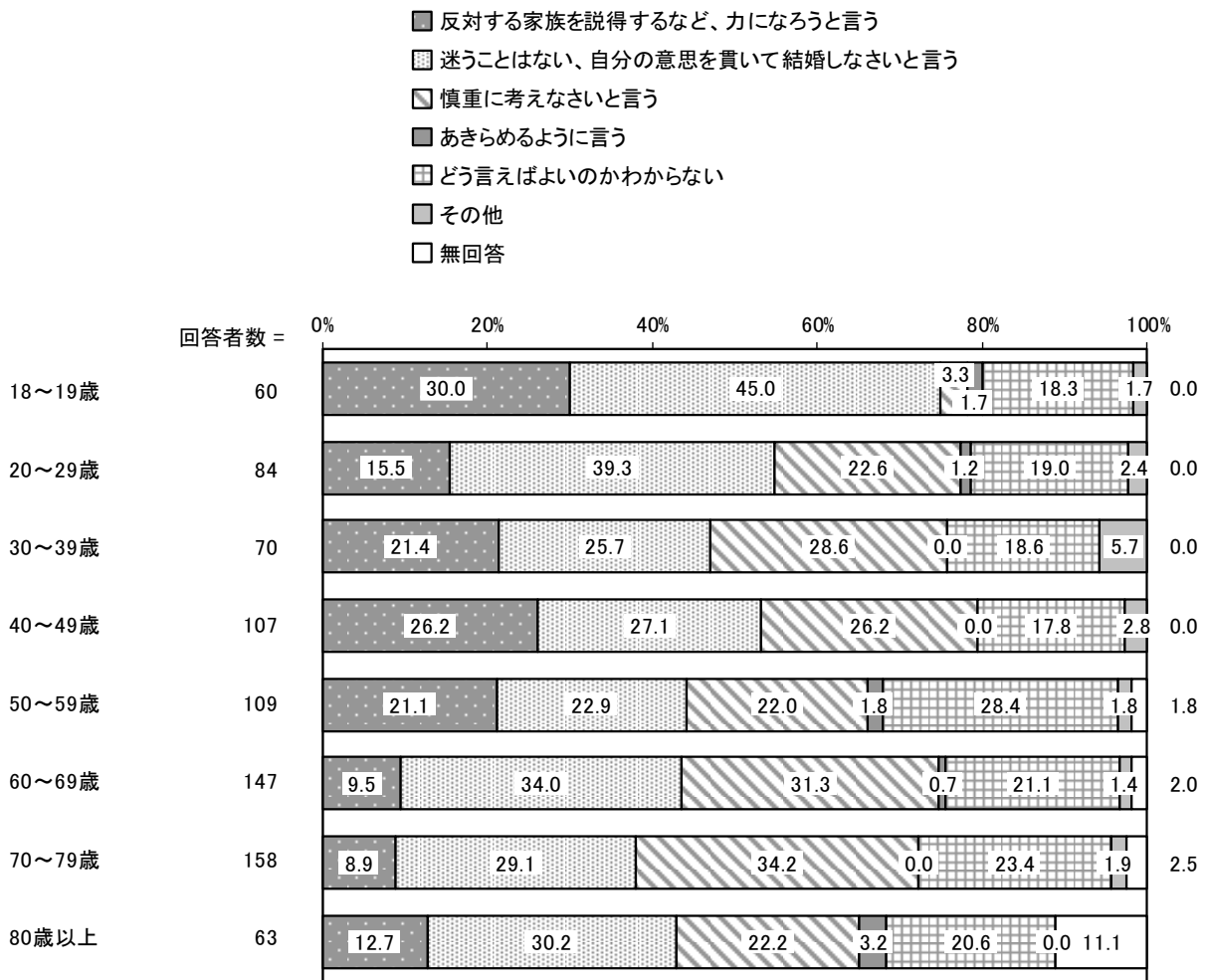
「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」の割合が29.2%と最も高く、次いで「慎重に考えなさいと言う」の割合が28.2%、「どう言えばよいかわからない」の割合が21.6%となっています。

【図8-2 同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応（性別）】



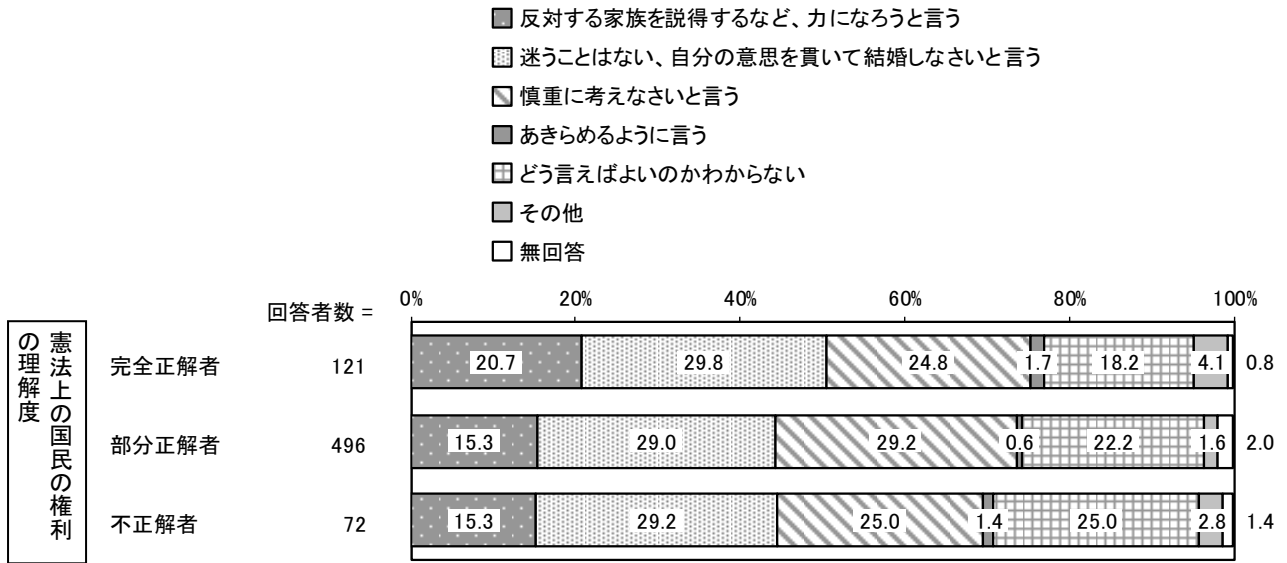
性別でみると、「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」の割合は、女性よりも男性が7.8ポイント高くなっています。一方、「どう言えばよいかわからない」の割合は、男性よりも女性が13.5ポイント高くなっています。

【図8-3 同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応（年齢別）】



年齢別でみると、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」の割合は、18～19歳、40～49歳で高くなっています。一方、「慎重に考えなさいと言う」の割合は、60～69歳、70～79歳で高くなっています。

【図 8 - 4 憲法上の国民の権利の理解度別同和地区の人との結婚について相談を受けた場合の対応】



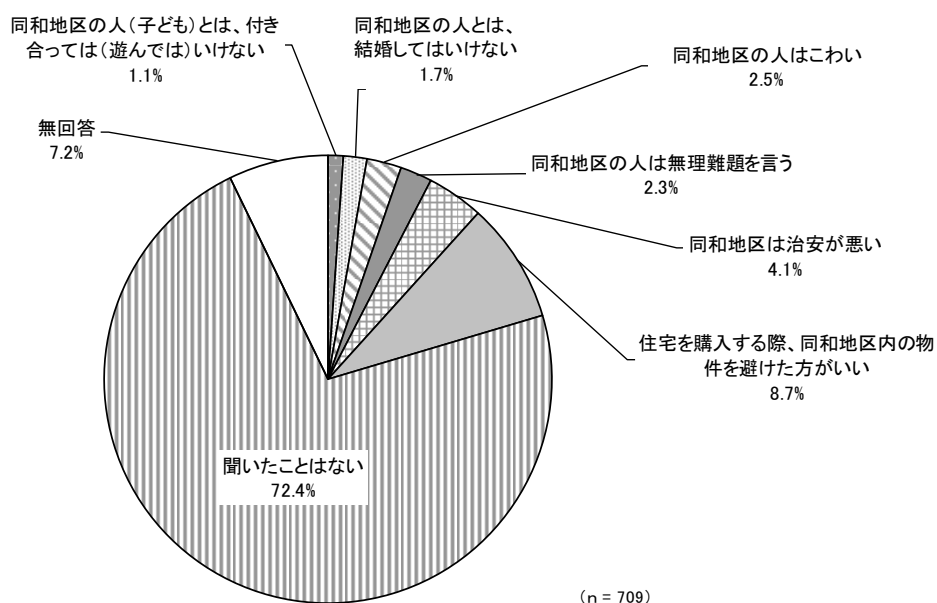
憲法上の国民の権利の理解度別でみると、完全正解者で「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」の割合が最も高くなっています。

9 同和問題に関する発言を聞いた経験について

(1) 過去5年間で聞いた同和問題に関する発言の内容 [問9]

問9 あなたは、ここ5年くらいの間に同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(○は1つ)

【図9-1 過去5年間で聞いた同和問題に関する発言の内容(全体)】



「聞いたことはない」の割合が72.4%と最も高くなっています。また、聞いたと答えた人の中では、「住宅を購入する際、同和地区の物件を避けた方がいい」の割合が最も高く、全体の8.7%となっています。

【表9-1 過去5年間で聞いた同和問題に関する発言の内容（性別・年齢別）】

単位：%

区分		回答者数（件）	同和地区の人（子ども）とは、付き合いは（遊んでは）いけない	同和地区の人とは、結婚してはいけない	同和地区の人はこわい	同和地区の人は無理難題を言う	同和地区は治安が悪い	住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けた方がいい	聞いたことはない	無回答
性別	男性	276	0.7	1.8	2.9	1.8	5.1	8.7	73.9	5.1
	女性	421	1.4	1.7	2.4	2.6	3.6	8.8	70.8	8.8
年齢別	18～19歳	60	—	—	1.7	—	3.3	3.3	88.3	3.3
	20～29歳	84	1.2	—	2.4	—	7.1	7.1	77.4	4.8
	30～39歳	70	4.3	4.3	1.4	—	7.1	11.4	64.3	7.1
	40～49歳	107	1.9	1.9	1.9	2.8	9.3	8.4	69.2	4.7
	50～59歳	109	—	0.9	3.7	1.8	4.6	3.7	77.1	8.3
	60～69歳	147	0.7	2.0	2.7	3.4	2.0	4.8	78.9	5.4
	70～79歳	158	0.6	1.3	2.5	3.8	1.9	15.2	68.4	6.3
	80歳以上	63	—	1.6	1.6	—	1.6	9.5	66.7	19.0

性別でみると、大きな差異はみられませんでした。

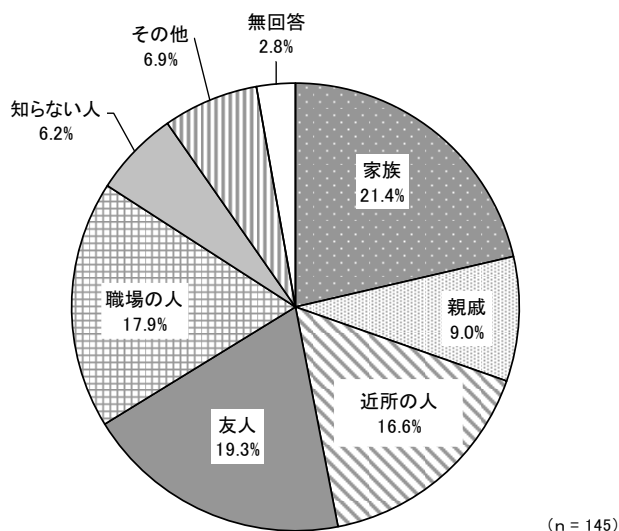
年齢別でみると、「聞いたことはない」の割合は、18～19歳で9割近くとなっています。また、「住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けた方がいい」の割合は、70～79歳で最も高く、「同和地区の人とは結婚してはいけない」「同和地区の人（子ども）とは、付き合いは（遊んでは）いけない」の割合は30～39歳で最も高くなっています。

(2) 同和問題に関する発言をした相手 [問9-1]

問9-1～問9-2は、問9で「1」～「6」を選んだ人にお聞きします。

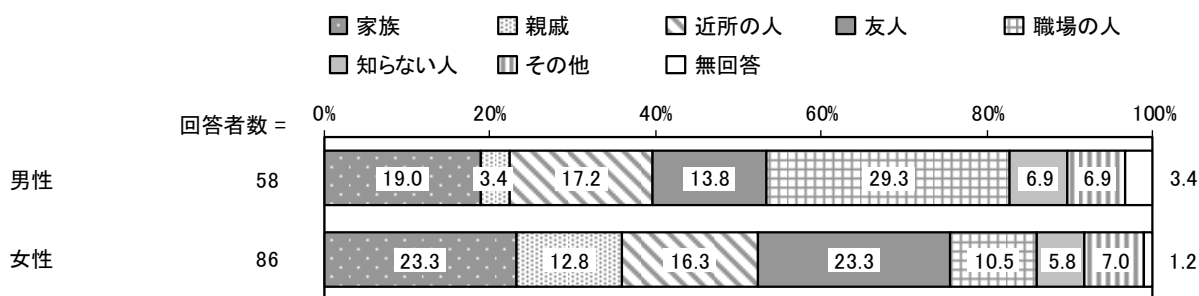
問9-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(〇は1つ)

【図9-2 同和問題に関する発言をした相手(全体)】



「家族」の割合が21.4%と最も高く、次いで「友人」の割合が19.3%、「職場の人」の割合が17.9%となっています。

【図9-3 同和問題に関する発言をした相手(性別)】



性別で見ると、「親戚」「友人」の割合は、男性よりも女性が高くなっています。一方、「職場の人」の割合は、女性よりも男性が18.8ポイント高くなっています。

【表9-2 同和問題に関する発言をした相手（年齢別）】

単位：%

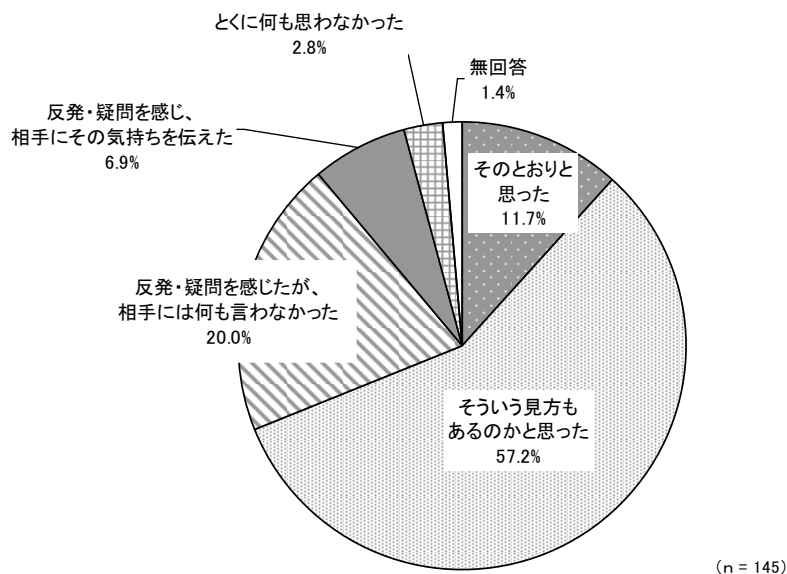
区分		回答者数 (件)	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	無回答
年齢別	18～19歳	5	20.0	—	—	20.0	—	20.0	20.0	20.0
	20～29歳	15	53.3	13.3	6.7	20.0	—	—	—	6.7
	30～39歳	20	50.0	5.0	5.0	15.0	15.0	5.0	5.0	—
	40～49歳	28	10.7	17.9	10.7	28.6	25.0	3.6	—	3.6
	50～59歳	16	31.3	6.3	—	18.8	18.8	—	25.0	—
	60～69歳	23	13.0	8.7	21.7	17.4	21.7	13.0	—	4.3
	70～79歳	40	12.5	5.0	27.5	20.0	15.0	10.0	7.5	2.5
	80歳以上	9	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	—	11.1	—

年齢別で見ると、「家族」の割合は、20～29歳、30～39歳で高くなっています。また、「友人」の割合は、40～49歳で最も高く、3割近くとなっています。

(3) 同和地区の人を差別する発言に対し抱いた意識やとった態度 [問9-2]

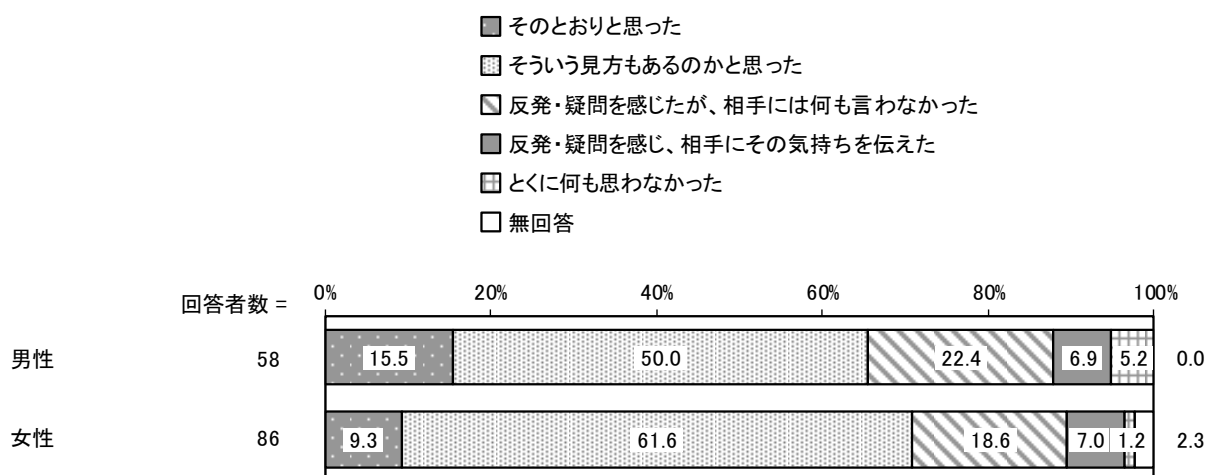
問9-2 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(〇は1つ)

【図9-4 同和地区の人を差別する発言に対し抱いた意識やとった態度 (全体)】



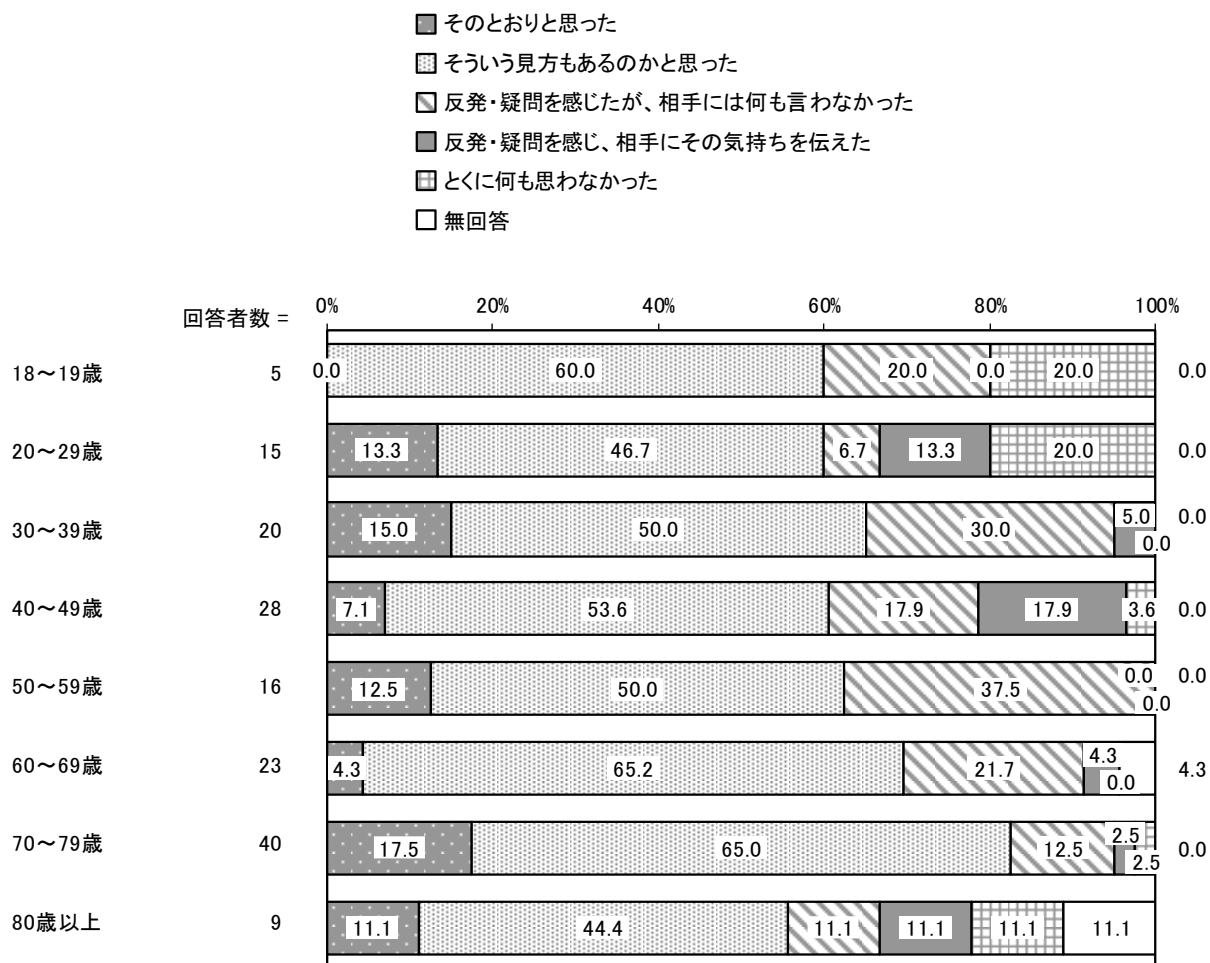
「そういう見方もあるのかと思った」の割合が57.2%と最も高く、次いで「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」の割合が20.0%、「そのとおりに思った」の割合が11.7%となっています。

【図9-5 同和地区の人を差別する発言に対し抱いた意識やとった態度 (性別)】



性別でみると、「そのとおりに思った」の割合は、女性よりも男性が6.2ポイント高くなっています。一方、「そういう見方もあるのかと思った」の割合は、男性よりも女性が11.6ポイント高くなっています。

【図9-6 同和地区の人を差別する発言に対し抱いた意識やとった態度（年齢別）】



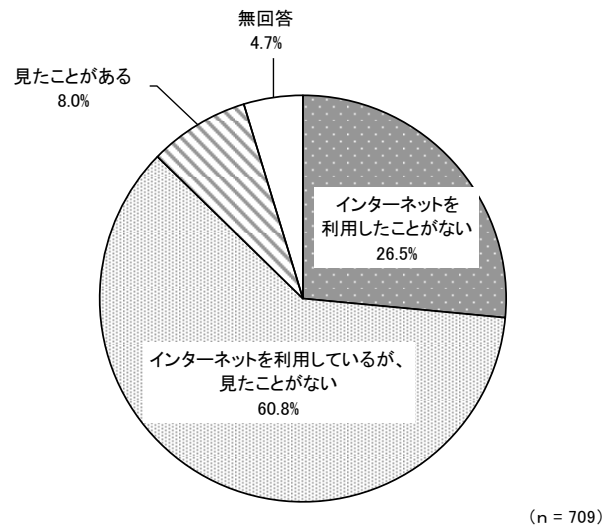
年齢別でみると、「そのとおりと思った」の割合は、70～79歳で最も高く、30～39歳がこれに続いています。また、「そういう見方もあるのかと思った」の割合は、60～69歳と70～79歳で6割半ばと、高くなっています。

10 同和問題に関するインターネット上での人権侵害事例について

(1) 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た経験 [問10]

問10 あなたは、同和問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがありますか。(〇はひとつ)

【図10-1 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た経験(全体)】



「インターネットを利用しているが、見たことがない」の割合が60.8%と最も高く、次いで「インターネットを利用したことがない」の割合が26.5%となっています。また、「見たことがある」の割合は8.0%となっています。

【表 10-1 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た経験（性別・年齢別）】

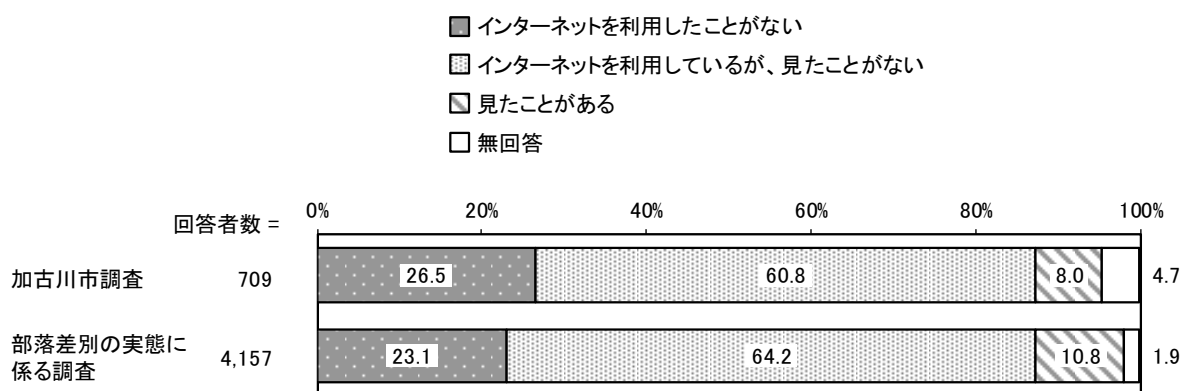
単位：%

区分		回答者数 (件)	インターネットを 利用したことがない	インターネットを 利用しているが、 見たことがない	見たことがある	無回答
性別	男性	276	24.6	62.0	12.0	1.4
	女性	421	28.3	59.6	5.5	6.7
年齢別	18～19歳	60	1.7	83.3	13.3	1.7
	20～29歳	84	4.8	79.8	15.5	—
	30～39歳	70	1.4	84.3	12.9	1.4
	40～49歳	107	5.6	83.2	11.2	—
	50～59歳	109	11.9	75.2	10.1	2.8
	60～69歳	147	29.3	63.9	4.1	2.7
	70～79歳	158	53.2	34.2	3.8	8.9
	80歳以上	63	58.7	19.0	6.3	15.9

性別でみると、女性に比べ、男性で「見たことがある」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、18～19歳、30～39歳、40～49歳で「インターネットを利用しているが、見たことがない」の割合が80%を超えています。また、「見たことがある」の割合は、20歳から59歳までの年齢層で、いずれも10%台となっています。

【図 10-2 部落差別の実態に係る調査との比較】



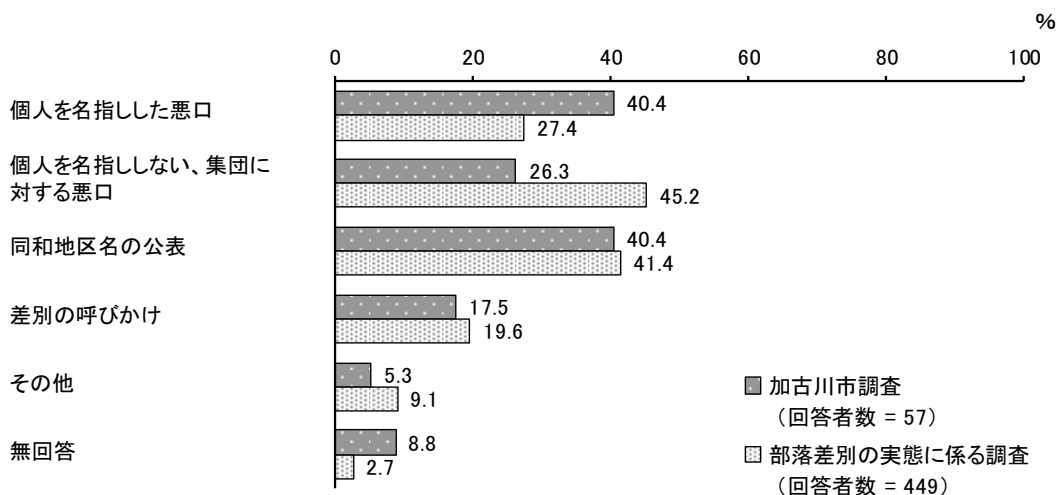
部落差別の実態に係る調査と比較すると、大きな変化はみられません。

(2) 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た内容 [問10-1]

問10-1は、問10で「3 見たことがある」と回答された人にお聞きします。

問10-1 それはどのような内容のものでしたか。(〇はいくつでも)

【図10-3 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た内容(全体)】



部落差別の実態に係る調査と比較すると、「個人を名指した悪口」の割合が高くなっています。一方、「個人を名指ししない、集団に対する悪口」の割合が19ポイント低くなっています。

【表 10-2 同和問題に関する人権侵害事例をインターネット上で見た内容（性別・年齢別）】

単位：%

区分		回答者数 (件)	個人を名指しした悪口	個人を名指ししない、 集団に対する悪口	同和地区名の公表	差別の呼びかけ	その他	無回答
性別	男性	33	36.4	21.2	45.5	24.2	3.0	9.1
	女性	23	47.8	34.8	34.8	8.7	4.3	8.7
年齢別	18～19歳	8	37.5	50.0	50.0	37.5	—	12.5
	20～29歳	13	46.2	46.2	23.1	23.1	—	7.7
	30～39歳	9	44.4	22.2	55.6	33.3	—	—
	40～49歳	12	50.0	33.3	33.3	16.7	—	16.7
	50～59歳	11	45.5	36.4	45.5	9.1	9.1	—
	60～69歳	6	16.7	33.3	33.3	33.3	16.7	—
	70～79歳	6	33.3	16.7	33.3	16.7	—	16.7
80歳以上	4	25.0	—	50.0	—	—	25.0	

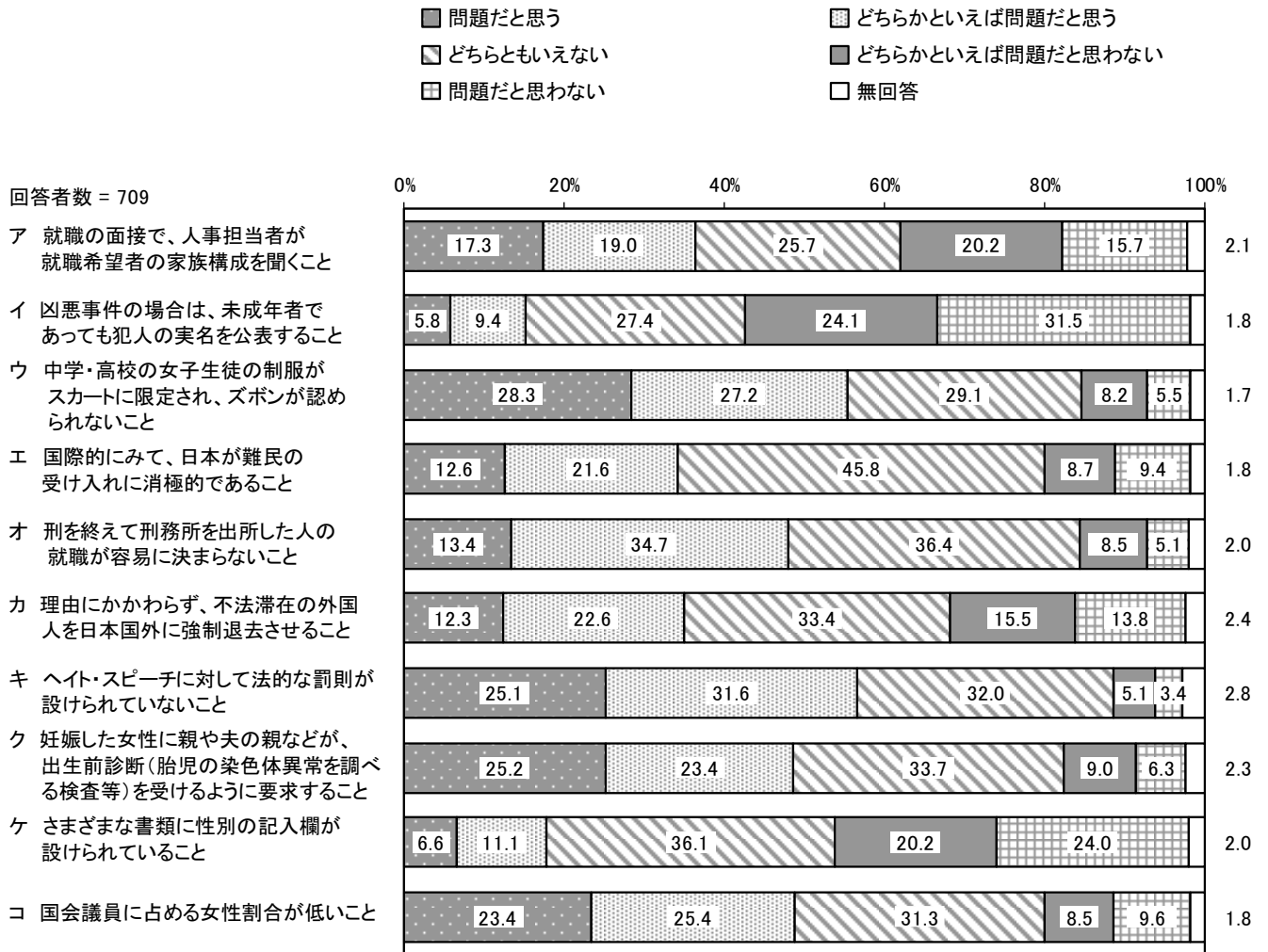
性別でみると、男性に比べ、女性で「個人を名指しした悪口」「個人を名指ししない、集団に対する悪口」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「同和地区名の公表」「差別の呼びかけ」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、30～39歳で「同和地区名の公表」の割合が高く、5割半ばとなっています。

1 1 人権の観点から問題のある行為の認識状況について [問 1 1]

問 11 あなたは、次のようなことは人権の観点から問題があると思いますか。ア～コのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図 11-1 人権の観点から問題のある行為の認識状況 (全体)】



“ウ 中学・高校の女子生徒の制服がスカートに限定され、ズボンが認められないこと” “キ ヘイト・スピーチに対して法的な罰則が設けられていないこと” の2項目で「問題だと思う」と「どちらかといえば問題だと思う」をあわせた『問題だと思う』の割合が5割半ばとなっています。一方、“イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること” “ケ さまざまな書類に性別の記入欄が設けられていること” では『問題だと思う』の割合が1割半ばとなっています。

【表 11-1 人権の観点から問題のある行為の認識状況（性別・年齢別）】

ア 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと

イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	19.9	19.6	25.4	18.5	15.9	0.7
	女性	421	15.4	18.5	26.4	21.9	14.7	3.1
年齢別	18～19歳	60	28.3	16.7	20.0	16.7	18.3	—
	20～29歳	84	11.9	27.4	26.2	22.6	11.9	—
	30～39歳	70	25.7	24.3	27.1	17.1	5.7	—
	40～49歳	107	18.7	26.2	19.6	23.4	12.1	—
	50～59歳	109	21.1	16.5	29.4	22.9	9.2	0.9
	60～69歳	147	13.6	27.2	23.8	18.4	15.6	1.4
	70～79歳	158	15.2	8.2	32.3	17.7	23.4	3.2
	80歳以上	63	12.7	7.9	19.0	22.2	27.0	11.1

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	6.2	10.1	22.1	23.2	37.7	0.7
	女性	421	5.5	9.3	31.6	24.2	26.8	2.6
年齢別	18～19歳	60	8.3	16.7	21.7	16.7	36.7	—
	20～29歳	84	7.1	1.2	19.0	21.4	51.2	—
	30～39歳	70	7.1	10.0	20.0	20.0	42.9	—
	40～49歳	107	5.6	5.6	26.2	24.3	38.3	—
	50～59歳	109	3.7	5.5	26.6	32.1	31.2	0.9
	60～69歳	147	2.7	10.9	32.7	25.2	28.6	—
	70～79歳	158	6.3	11.4	26.6	22.8	29.7	3.2
	80歳以上	63	14.3	15.9	38.1	12.7	7.9	11.1

ウ 中学・高校の女子生徒の制服がスカートに限定され、ズボンが認められないこと

エ 国際的にみて、日本が難民の受け入れに消極的であること

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	27.2	22.1	34.1	7.6	8.3	0.7
	女性	421	29.0	30.4	25.7	8.8	3.8	2.4
年齢別	18～19歳	60	46.7	21.7	25.0	5.0	1.7	—
	20～29歳	84	34.5	25.0	26.2	8.3	6.0	—
	30～39歳	70	30.0	25.7	24.3	11.4	8.6	—
	40～49歳	107	24.3	27.1	30.8	11.2	6.5	—
	50～59歳	109	30.3	23.9	33.9	5.5	5.5	0.9
	60～69歳	147	29.9	32.7	23.1	8.2	6.1	—
	70～79歳	158	28.5	25.3	34.2	6.3	3.2	2.5
	80歳以上	63	23.8	25.4	27.0	9.5	3.2	11.1

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	15.2	23.2	42.4	8.3	10.5	0.4
	女性	421	10.5	20.4	48.2	9.3	8.8	2.9
年齢別	18～19歳	60	18.3	26.7	30.0	10.0	15.0	—
	20～29歳	84	17.9	9.5	50.0	4.8	17.9	—
	30～39歳	70	10.0	17.1	50.0	7.1	15.7	—
	40～49歳	107	8.4	18.7	45.8	14.0	13.1	—
	50～59歳	109	11.9	18.3	48.6	10.1	11.0	—
	60～69歳	147	14.3	24.5	45.6	8.8	6.1	0.7
	70～79歳	158	13.3	22.8	45.6	8.9	7.0	2.5
	80歳以上	63	9.5	33.3	38.1	3.2	3.2	12.7

【表 11-1 人権の観点から問題のある行為の認識状況（性別・年齢別）】

オ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないこと

カ 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	15.2	33.0	36.2	8.3	6.9	0.4
	女性	421	11.9	35.9	36.6	8.6	4.0	3.1
年齢別	18～19歳	60	11.7	25.0	35.0	16.7	11.7	—
	20～29歳	84	4.8	25.0	32.1	22.6	15.5	—
	30～39歳	70	8.6	25.7	35.7	18.6	11.4	—
	40～49歳	107	12.1	21.5	43.0	13.1	10.3	—
	50～59歳	109	12.8	34.9	39.4	10.1	2.8	—
	60～69歳	147	10.2	43.5	37.4	5.4	2.7	0.7
	70～79歳	158	17.1	42.4	32.9	1.9	1.9	3.8
	80歳以上	63	23.8	38.1	25.4	1.6	—	11.1

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	11.6	20.7	31.9	16.7	18.8	0.4
	女性	421	12.6	23.8	34.9	14.7	10.2	3.8
年齢別	18～19歳	60	16.7	25.0	31.7	11.7	15.0	—
	20～29歳	84	10.7	19.0	33.3	16.7	20.2	—
	30～39歳	70	8.6	12.9	37.1	20.0	21.4	—
	40～49歳	107	6.5	16.8	36.4	21.5	18.7	—
	50～59歳	109	13.8	22.9	33.9	17.4	11.0	0.9
	60～69歳	147	12.9	29.9	34.7	10.9	10.9	0.7
	70～79歳	158	17.1	24.1	31.6	10.8	12.7	3.8
	80歳以上	63	6.3	27.0	27.0	17.5	7.9	14.3

キ ヘイト・スピーチに対して法的な罰則が設けられていないこと

ク 妊娠した女性に親や夫の親などが、出生前診断(胎児の染色体異常を調べる検査等)を受けるように要求すること

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	27.9	30.1	31.2	5.4	5.1	0.4
	女性	421	23.0	32.8	33.0	4.5	2.1	4.5
年齢別	18～19歳	60	30.0	26.7	28.3	8.3	6.7	—
	20～29歳	84	20.2	31.0	39.3	7.1	2.4	—
	30～39歳	70	20.0	35.7	34.3	7.1	2.9	—
	40～49歳	107	23.4	32.7	35.5	5.6	2.8	—
	50～59歳	109	26.6	28.4	33.0	9.2	2.8	—
	60～69歳	147	27.2	36.7	26.5	2.7	6.1	0.7
	70～79歳	158	31.6	28.5	29.1	3.8	2.5	4.4
	80歳以上	63	11.1	28.6	39.7	1.6	—	19.0

区分		回答者数(件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題 だと思 う	どちらともい えない	どちらかとい えば問題 だと思 わない	問題だと思 わない	無回 答
性別	男性	276	21.4	21.4	35.9	12.0	8.3	1.1
	女性	421	28.0	24.9	31.6	7.1	5.2	3.1
年齢別	18～19歳	60	21.7	20.0	33.3	11.7	11.7	1.7
	20～29歳	84	22.6	19.0	39.3	10.7	8.3	—
	30～39歳	70	17.1	22.9	38.6	15.7	5.7	—
	40～49歳	107	29.0	23.4	27.1	12.1	8.4	—
	50～59歳	109	28.4	23.9	34.9	7.3	4.6	0.9
	60～69歳	147	24.5	27.2	34.0	8.8	5.4	—
	70～79歳	158	27.2	23.4	32.9	6.3	7.0	3.2
	80歳以上	63	22.2	20.6	28.6	9.5	3.2	15.9

【表 11-1 人権の観点から問題のある行為の認識状況（性別・年齢別）】

ケ さまざまな書類に性別の記入欄が設けられていること

コ 国会議員に占める女性割合が低いこと

単位：％

区分		回答者数（件）	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	5.8	8.7	33.3	21.0	30.1	1.1
	女性	421	7.4	12.8	37.3	19.5	20.7	2.4
年齢別	18～19歳	60	15.0	10.0	33.3	20.0	21.7	—
	20～29歳	84	13.1	11.9	27.4	21.4	26.2	—
	30～39歳	70	8.6	7.1	38.6	15.7	30.0	—
	40～49歳	107	4.7	14.0	38.3	20.6	22.4	—
	50～59歳	109	4.6	7.3	39.4	26.6	21.1	0.9
	60～69歳	147	5.4	17.0	39.5	17.0	21.1	—
	70～79歳	158	6.3	6.3	32.9	21.5	30.4	2.5
	80歳以上	63	6.3	15.9	27.0	17.5	20.6	12.7

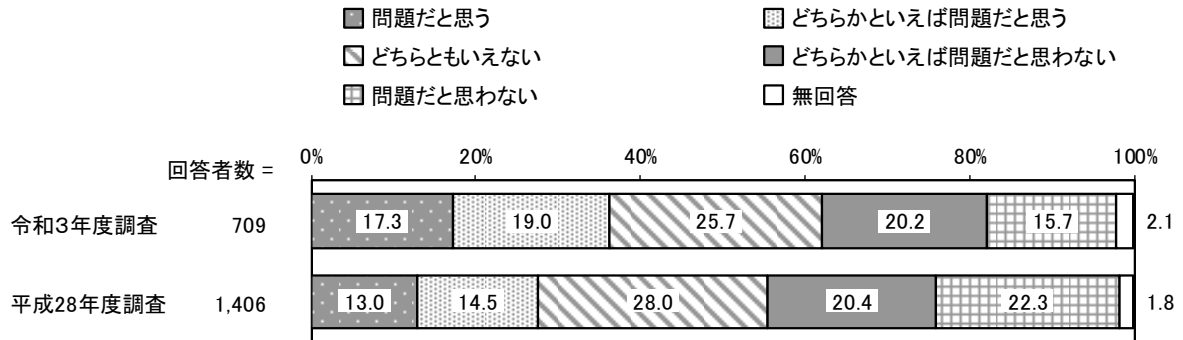
区分		回答者数（件）	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	20.7	20.7	33.7	10.5	14.1	0.4
	女性	421	24.9	28.5	29.9	7.4	6.4	2.9
年齢別	18～19歳	60	23.3	13.3	36.7	11.7	15.0	—
	20～29歳	84	27.4	26.2	28.6	7.1	10.7	—
	30～39歳	70	22.9	20.0	32.9	5.7	18.6	—
	40～49歳	107	19.6	24.3	34.6	10.3	11.2	—
	50～59歳	109	21.1	25.7	35.8	11.0	5.5	0.9
	60～69歳	147	25.2	32.7	27.9	4.1	9.5	0.7
	70～79歳	158	22.8	24.7	29.7	11.4	8.9	2.5
	80歳以上	63	28.6	20.6	27.0	7.9	4.8	11.1

性別でみると、“コ 国会議員に占める女性割合が低いこと”の項目において男性に比べ、女性で『問題だと思う』の割合が高くなっています。一方、“イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること”の項目において女性に比べ、男性で『問題だと思わない』の割合が高くなっています。

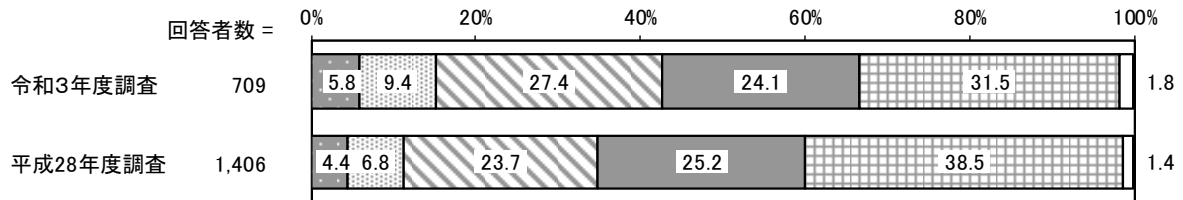
年齢別でみると、“キ ヘイト・スピーチに対して法的な罰則が設けられていないこと”“コ 国会議員に占める女性割合が低いこと”の項目において 60～69 歳で『問題だと思う』の割合が、“オ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないこと”の項目において 80 歳以上で『問題だと思う』の割合が高くなっています。また、“イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること”の項目において、20～29 歳で『問題だと思わない』の割合が高くなっています。

【図 11-2 前回調査との比較】

ア 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと



イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること



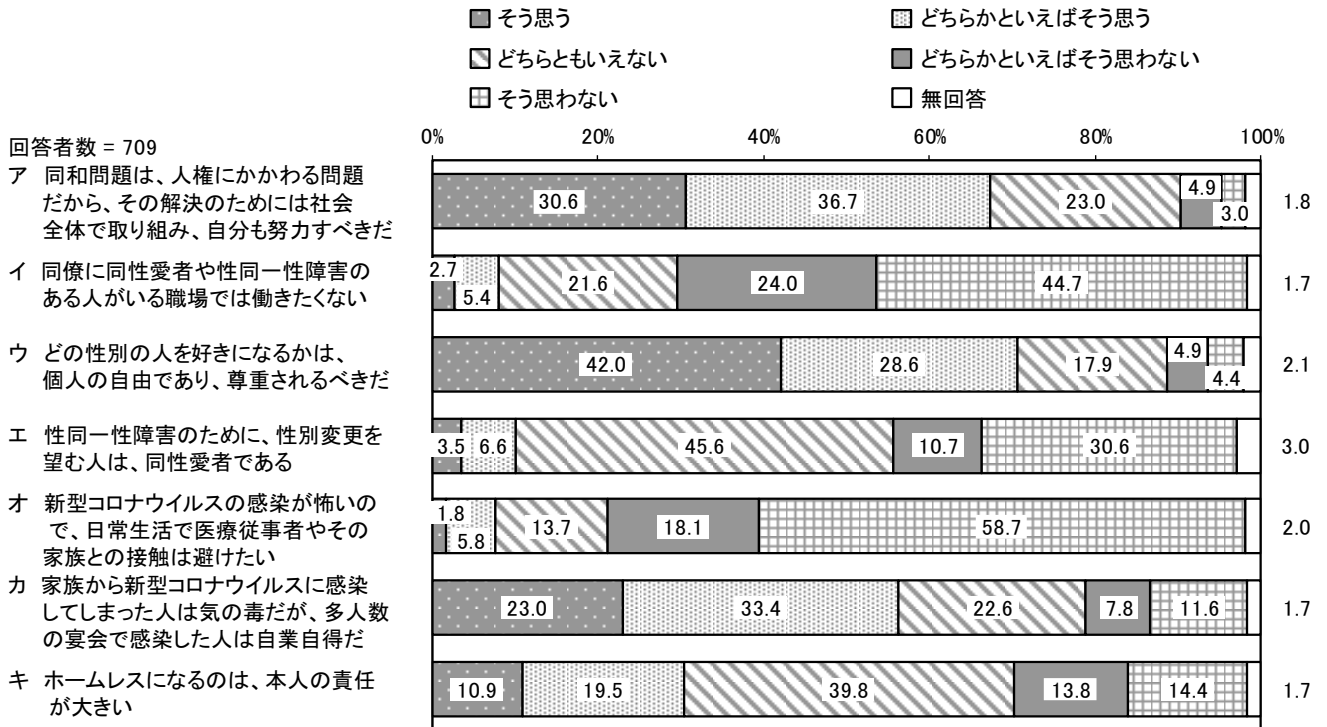
前回調査と比較すると、“ア 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと”では『問題だと思う』の割合が増加しています。また、“イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること”では『問題だと思わない』の割合が減少しています。

12 さまざまな人権に関する意見に対する考えについて [問12]

問12 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

ア～キのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

【図12-1 さまざまな人権に関する意見に対する考え（全体）】



“オ 新型コロナウイルスの感染が怖いので、日常生活で医療従事者やその家族との接触は避けたい”について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』の割合が1割未満となる一方で、“カ 家族から新型コロナウイルスに感染してしまった人は気の毒だが、多人数の宴会で感染した人は自業自得だ”については、『そう思う』の割合が5割半ばとなっています。

※なお、“エ 性同一性障害のために、性別変更を望む人は同性愛者である”の、性別変更を望む人（トランスジェンダー）は性自認（自分が認識する性別）が身体の性と一致しない人であり、同性愛者は性的指向（性的欲望の対象）が同性にある人で、前者は性自認、後者は性的指向に関わる概念です。トランスジェンダーには、異性愛者だけではなく、同性愛者や両性愛者等もいます。

【表 12-1 さまざまな人権に関する意見に対する考え（性別・年齢別）】

ア 同和問題は、人権にかかわる問題だから、その解決のためには社会全体で取り組み、自分も努力すべきだ

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	30.1	37.3	21.7	5.8	4.3	0.7
	女性	421	31.1	36.1	23.8	4.5	1.9	2.6
年齢別	18～19歳	60	48.3	20.0	23.3	3.3	5.0	—
	20～29歳	84	21.4	44.0	27.4	4.8	2.4	—
	30～39歳	70	24.3	44.3	24.3	5.7	1.4	—
	40～49歳	107	29.0	41.1	22.4	7.5	—	—
	50～59歳	109	33.0	29.4	30.3	3.7	2.8	0.9
	60～69歳	147	28.6	41.5	20.4	3.4	4.1	2.0
	70～79歳	158	32.3	29.1	25.9	5.1	4.4	3.2
	80歳以上	63	42.9	33.3	11.1	6.3	—	6.3

イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない

単位：％

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	5.1	6.9	21.7	26.8	38.8	0.7
	女性	421	1.2	4.0	21.6	22.3	48.5	2.4
年齢別	18～19歳	60	3.3	1.7	13.3	18.3	63.3	—
	20～29歳	84	2.4	1.2	13.1	20.2	63.1	—
	30～39歳	70	—	4.3	10.0	18.6	67.1	—
	40～49歳	107	0.9	—	13.1	31.8	54.2	—
	50～59歳	109	—	2.8	23.9	22.9	49.5	0.9
	60～69歳	147	3.4	6.8	22.4	27.2	38.8	1.4
	70～79歳	158	6.3	8.2	29.1	24.1	29.7	2.5
	80歳以上	63	1.6	11.1	28.6	15.9	34.9	7.9

ウ どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、尊重されるべきだ

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	36.6	27.9	22.8	5.8	5.4	1.4
	女性	421	45.1	29.5	15.0	4.3	3.6	2.6
年齢別	18～19歳	60	75.0	16.7	6.7	1.7	—	—
	20～29歳	84	69.0	23.8	6.0	1.2	—	—
	30～39歳	70	62.9	25.7	7.1	—	4.3	—
	40～49歳	107	54.2	31.8	8.4	2.8	2.8	—
	50～59歳	109	44.0	33.9	14.7	2.8	3.7	0.9
	60～69歳	147	32.0	34.7	22.4	4.8	4.8	1.4
	70～79歳	158	27.2	24.1	28.5	8.2	7.6	4.4
	80歳以上	63	31.7	23.8	23.8	11.1	1.6	7.9

エ 性同一性障害のために、性別変更を望む人は、同性愛者である

単位：％

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	3.3	10.5	44.9	10.1	29.7	1.4
	女性	421	3.8	4.3	46.3	11.2	30.6	3.8
年齢別	18～19歳	60	5.0	3.3	48.3	10.0	33.3	—
	20～29歳	84	2.4	8.3	41.7	17.9	29.8	—
	30～39歳	70	1.4	5.7	45.7	12.9	34.3	—
	40～49歳	107	—	8.4	49.5	12.1	29.9	—
	50～59歳	109	2.8	3.7	51.4	9.2	31.2	1.8
	60～69歳	147	3.4	5.4	44.2	8.8	36.7	1.4
	70～79歳	158	7.6	8.2	40.5	8.9	30.4	4.4
	80歳以上	63	4.8	12.7	41.3	12.7	14.3	14.3

【表 12-1 さまざまな人権に関する意見に対する考え（性別・年齢別）】

オ 新型コロナウイルスの感染が怖いので、日常生活で医療従事者やその家族との接触は避けたい

カ 家族から新型コロナウイルスに感染してしまった人は気の毒だが、多人数の宴会で感染した人は自業自得だ

単位：％

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	2.9	5.8	14.1	19.6	56.9	0.7
	女性	421	1.2	5.5	13.5	17.6	59.4	2.9
年齢別	18～19歳	60	3.3	6.7	16.7	25.0	48.3	—
	20～29歳	84	2.4	10.7	16.7	16.7	53.6	—
	30～39歳	70	—	4.3	14.3	21.4	60.0	—
	40～49歳	107	—	8.4	12.1	21.5	57.9	—
	50～59歳	109	2.8	0.9	14.7	13.8	67.0	0.9
	60～69歳	147	1.4	3.4	14.3	17.0	62.6	1.4
	70～79歳	158	3.8	5.7	12.0	17.7	57.0	3.8
	80歳以上	63	1.6	11.1	11.1	22.2	46.0	7.9

区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	23.9	31.5	21.0	10.1	13.0	0.4
	女性	421	22.3	34.2	23.8	6.4	10.7	2.6
年齢別	18～19歳	60	40.0	35.0	15.0	5.0	5.0	—
	20～29歳	84	41.7	38.1	13.1	4.8	2.4	—
	30～39歳	70	35.7	32.9	15.7	2.9	12.9	—
	40～49歳	107	29.9	40.2	21.5	4.7	3.7	—
	50～59歳	109	21.1	32.1	21.1	5.5	19.3	0.9
	60～69歳	147	12.9	34.0	26.5	10.9	13.6	2.0
	70～79歳	158	20.9	29.1	26.6	7.6	12.7	3.2
	80歳以上	63	14.3	31.7	22.2	15.9	11.1	4.8

キ ホームレスになるのは、本人の責任が大きい

単位：％

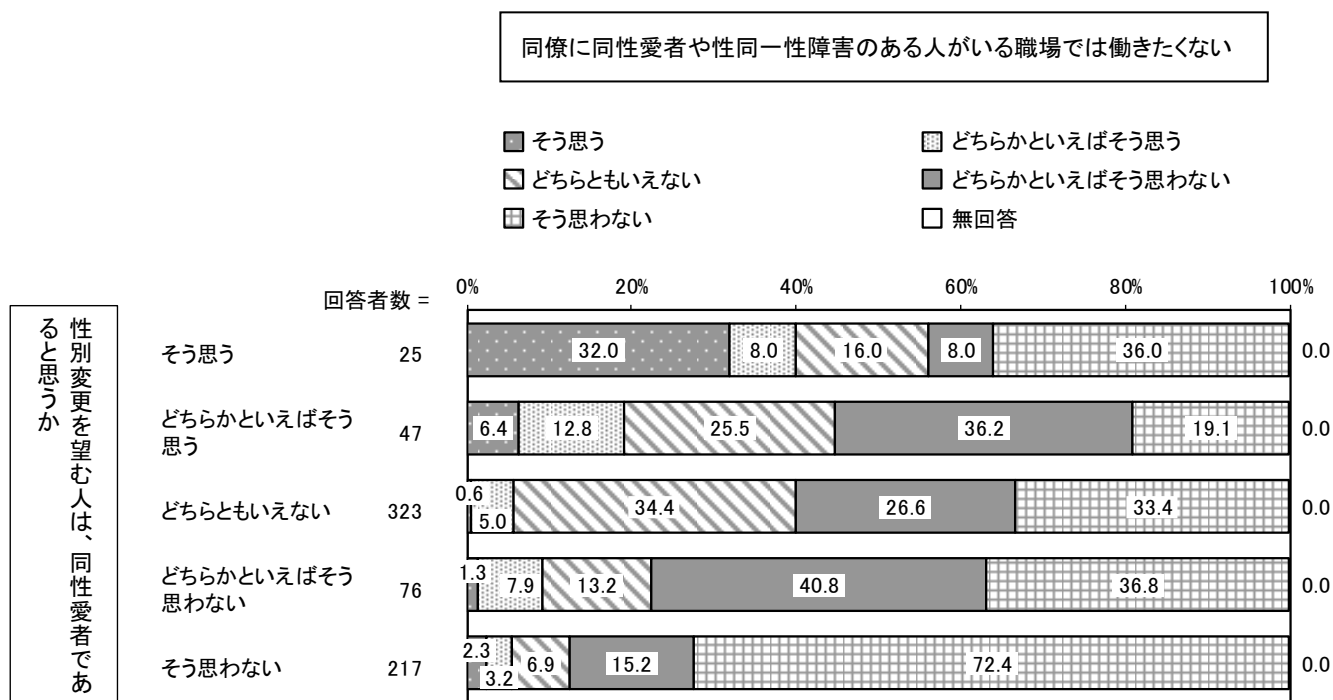
区分		回答者数（件）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
性別	男性	276	12.0	20.7	39.1	13.4	14.1	0.7
	女性	421	10.2	18.5	40.1	14.3	14.5	2.4
年齢別	18～19歳	60	5.0	11.7	45.0	23.3	15.0	—
	20～29歳	84	15.5	8.3	41.7	23.8	10.7	—
	30～39歳	70	8.6	14.3	48.6	5.7	22.9	—
	40～49歳	107	4.7	29.0	44.9	10.3	11.2	—
	50～59歳	109	8.3	11.0	34.9	22.0	22.9	0.9
	60～69歳	147	6.1	21.1	46.3	12.2	12.9	1.4
	70～79歳	158	15.8	20.3	36.7	10.8	13.3	3.2
	80歳以上	63	23.8	20.6	25.4	11.1	12.7	6.3

性別でみると、“ウ どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、尊重されるべきだ”の項目において男性に比べ、女性で『そう思う』の割合が高くなっています。

年齢別でみると、“ア 同和問題は、人権にかかわる問題だから、その解決のためには社会全体で取り組み、自分も努力すべきだ”の項目において80歳以上で『そう思う』の割合が高くなっており、“ウ どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、尊重されるべきだ”の項目において18～19歳、20～29歳で『そう思う』の割合が9割台となっています。また、“イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない”の項目において30～39歳と40～49歳で『そう思わない』の割合が、“キ ホームレスになるのは、本人の責任が大きい”の項目において50～59歳で『そう思わない』の割合が高くなっています。

【図 12-2 性別変更を望む人は、同性愛者であると思うか】

イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない

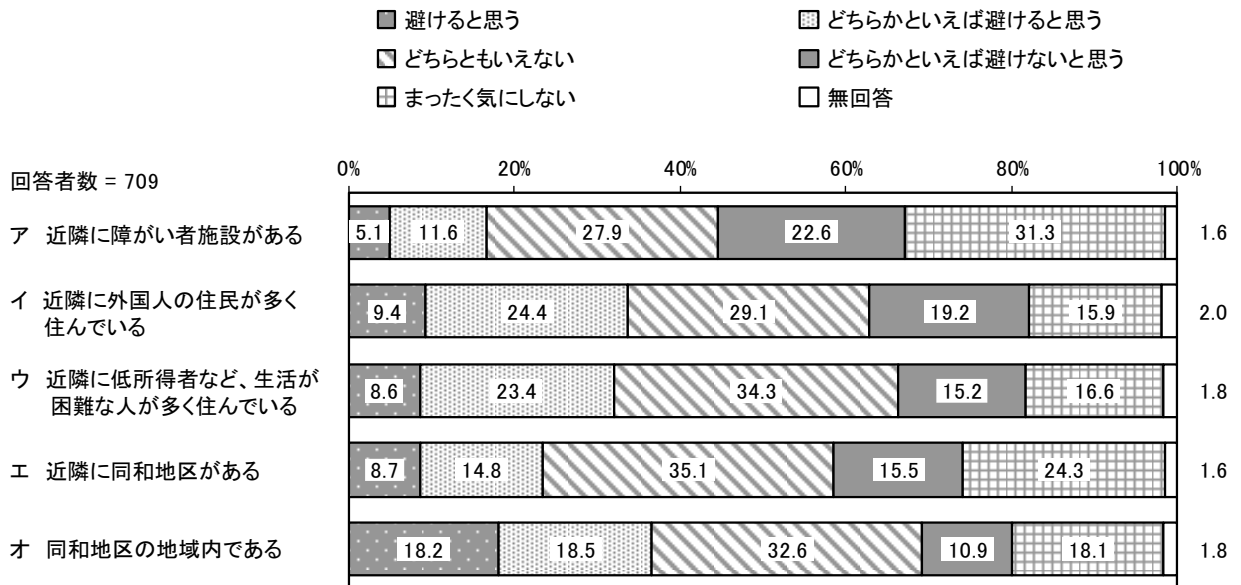


“エ 性同一性障害のために性別変更を望む人は、同性愛者である”について、「そう思う」と回答した人は、「そう思う」以外の回答をした人よりも、“イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない”について、『そう思う』と回答する割合が高くなっています。

13 住宅を選ぶ際の考え方 [問13]

問13 あなたが住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っている場合、次のような物件の場合、避けることがありますか。ア～オのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図13-1 住宅を選ぶ際の考え方 (全体)】



“ア 近隣に障がい者施設がある” “エ 近隣に同和地区がある” で、「どちらかといえば避けないと思う」と「まったく気にしない」をあわせた『避けないと思う』の割合が、「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」をあわせた『避けると思う』の割合を大きく上回っています。“オ 同和地区の地域内にある” では、『避けると思う』の割合が『避けないと思う』の割合を7.7ポイント上回っています。

【表 13-1 住宅を選ぶ際の考え方（性別・年齢別）】

ア 近隣に障がい者施設がある

イ 近隣に外国人の住民が多く住んでいる

単位：％

区分		回答者数(件)	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらともいえない	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答
性別	男性	276	6.5	9.8	29.0	20.7	33.7	0.4
	女性	421	3.8	12.6	27.8	24.2	29.2	2.4
年齢別	18～19歳	60	3.3	18.3	13.3	23.3	41.7	—
	20～29歳	84	3.6	20.2	21.4	17.9	36.9	—
	30～39歳	70	1.4	15.7	12.9	28.6	40.0	1.4
	40～49歳	107	4.7	10.3	32.7	24.3	28.0	—
	50～59歳	109	6.4	8.3	30.3	25.7	28.4	0.9
	60～69歳	147	3.4	9.5	31.3	25.2	29.9	0.7
	70～79歳	158	5.1	12.0	31.0	19.0	31.0	1.9
80歳以上	63	11.1	11.1	30.2	9.5	30.2	7.9	

区分		回答者数(件)	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらともいえない	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答
性別	男性	276	9.8	23.9	29.7	18.1	17.8	0.7
	女性	421	9.3	24.7	28.3	20.2	14.7	2.9
年齢別	18～19歳	60	6.7	23.3	18.3	20.0	31.7	—
	20～29歳	84	9.5	22.6	32.1	16.7	19.0	—
	30～39歳	70	17.1	24.3	21.4	18.6	18.6	—
	40～49歳	107	12.1	31.8	29.9	17.8	8.4	—
	50～59歳	109	8.3	26.6	32.1	17.4	14.7	0.9
	60～69歳	147	8.2	21.1	28.6	21.8	19.7	0.7
	70～79歳	158	7.0	25.3	30.4	20.3	13.3	3.8
80歳以上	63	6.3	19.0	25.4	17.5	22.2	9.5	

ウ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

エ 近隣に同和地区がある

単位：％

区分		回答者数(件)	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらともいえない	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答
性別	男性	276	9.4	21.4	34.1	15.6	18.8	0.7
	女性	421	8.1	24.9	34.4	14.7	15.2	2.6
年齢別	18～19歳	60	6.7	18.3	25.0	15.0	35.0	—
	20～29歳	84	16.7	21.4	28.6	17.9	15.5	—
	30～39歳	70	17.1	28.6	24.3	15.7	14.3	—
	40～49歳	107	13.1	28.0	36.4	11.2	11.2	—
	50～59歳	109	8.3	26.6	36.7	11.0	16.5	0.9
	60～69歳	147	6.8	25.9	32.0	17.7	16.3	1.4
	70～79歳	158	4.4	18.4	41.1	14.6	19.0	2.5
80歳以上	63	3.2	14.3	34.9	19.0	19.0	9.5	

区分		回答者数(件)	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらともいえない	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答
性別	男性	276	9.4	15.2	34.8	14.9	25.0	0.7
	女性	421	8.3	14.5	34.4	16.4	24.2	2.1
年齢別	18～19歳	60	3.3	10.0	25.0	15.0	46.7	—
	20～29歳	84	6.0	15.5	34.5	17.9	26.2	—
	30～39歳	70	14.3	15.7	25.7	18.6	25.7	—
	40～49歳	107	8.4	15.0	35.5	19.6	21.5	—
	50～59歳	109	9.2	12.8	40.4	12.8	23.9	0.9
	60～69歳	147	8.2	15.6	32.7	16.3	26.5	0.7
	70～79歳	158	7.0	16.5	38.0	14.6	22.2	1.9
80歳以上	63	9.5	9.5	31.7	12.7	27.0	9.5	

【表 13-1 住宅を選ぶ際の考え方（性別・年齢別）】

オ 同和地区の地域内である

単位：％

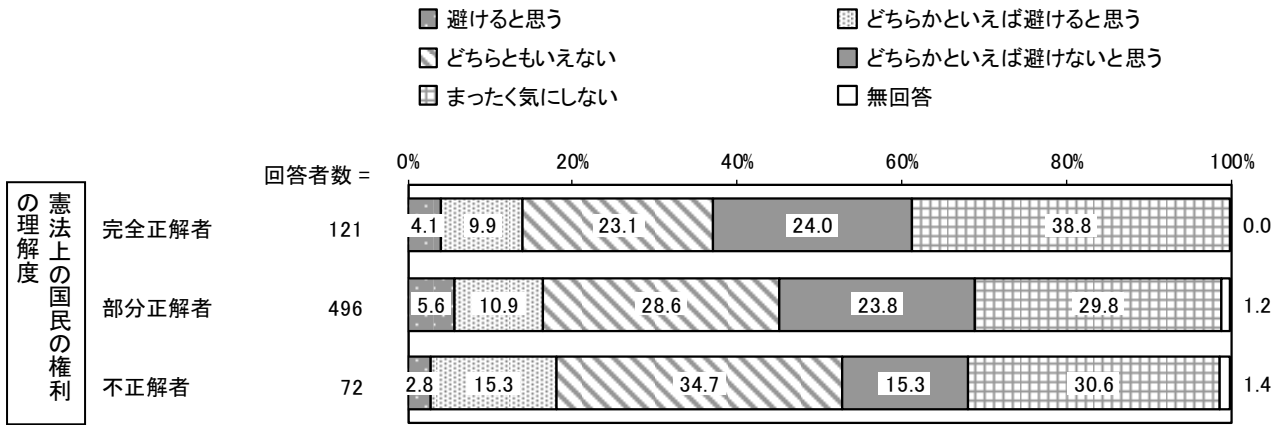
区分		回答者数 (件)	避けると思 う	避けると思 う どちらかとい えば	どちらともい えない	避けないと思 う どちらかとい えば	まったく気に しない	無 回 答
性別	男 性	276	20.7	15.9	31.9	9.4	21.4	0.7
	女 性	421	16.4	20.2	32.5	12.1	16.2	2.6
年齢別	18～19 歳	60	8.3	16.7	18.3	15.0	41.7	—
	20～29 歳	84	14.3	11.9	33.3	15.5	25.0	—
	30～39 歳	70	25.7	12.9	28.6	14.3	18.6	—
	40～49 歳	107	15.9	18.7	39.3	10.3	15.9	—
	50～59 歳	109	22.9	18.3	32.1	11.9	13.8	0.9
	60～69 歳	147	16.3	21.8	29.3	12.2	19.7	0.7
	70～79 歳	158	16.5	20.3	32.9	9.5	18.4	2.5
80 歳以上	63	17.5	15.9	28.6	9.5	17.5	11.1	

性別でみると、すべての項目において、大きな差異はみられませんでした。

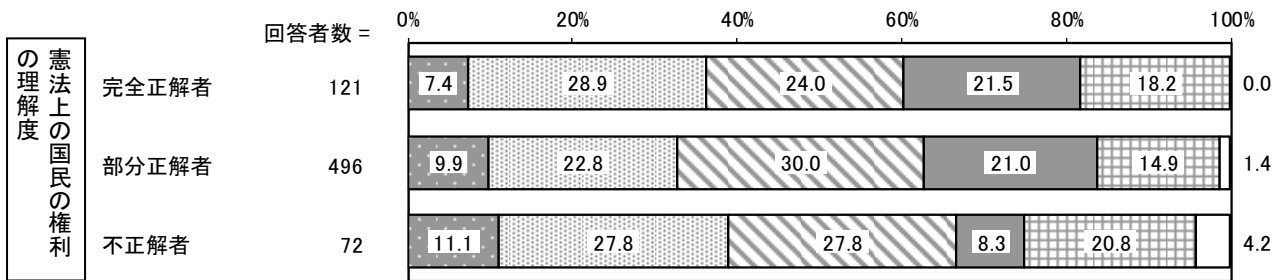
年齢別でみると、すべての項目において、18～19 歳で『避けないと思う』の割合が高くなっています。

【図 13-2 憲法上の国民の権利の理解度別住宅を選ぶ際の考え方】

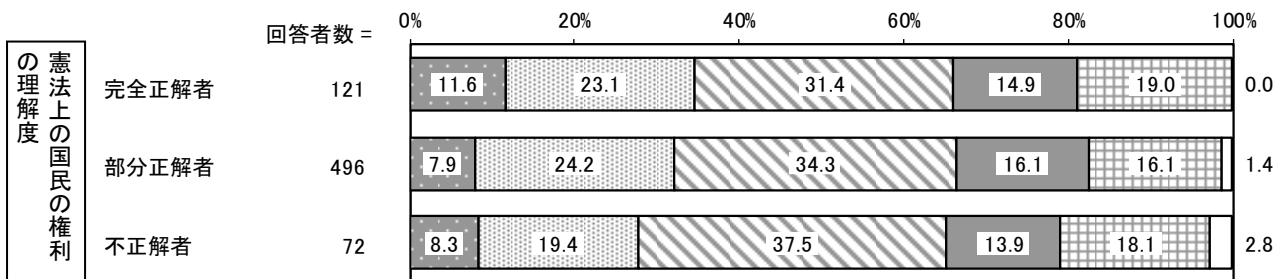
ア 近隣に障がい者施設がある



イ 近隣に外国人の住民が多く住んでいる

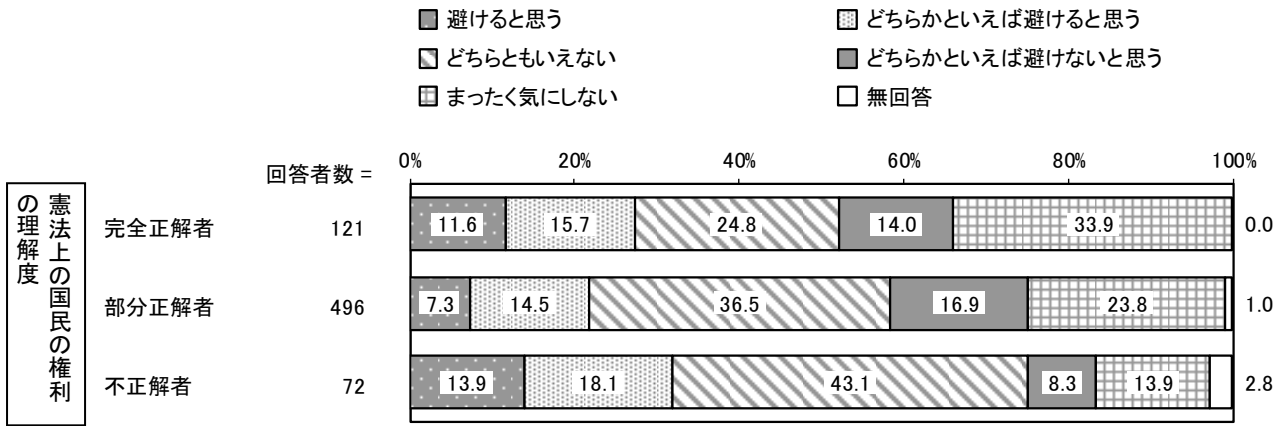


ウ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

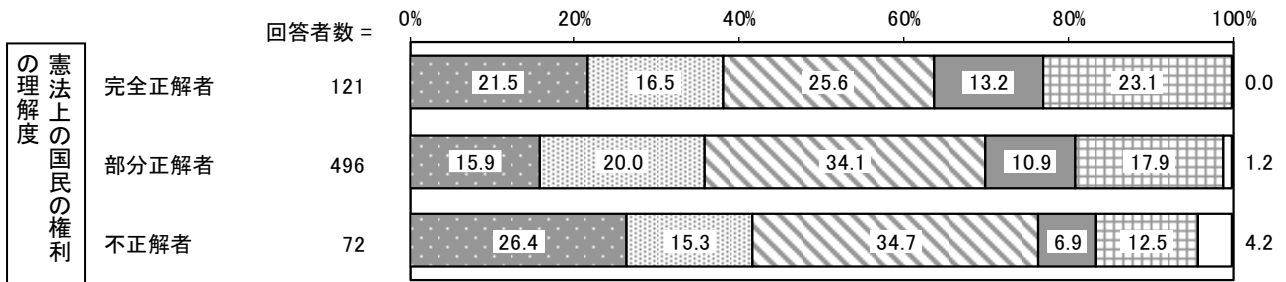


【図 13-2 憲法上の国民の権利の理解度別住宅を選ぶ際の考え方】

エ 近隣に同和地区がある



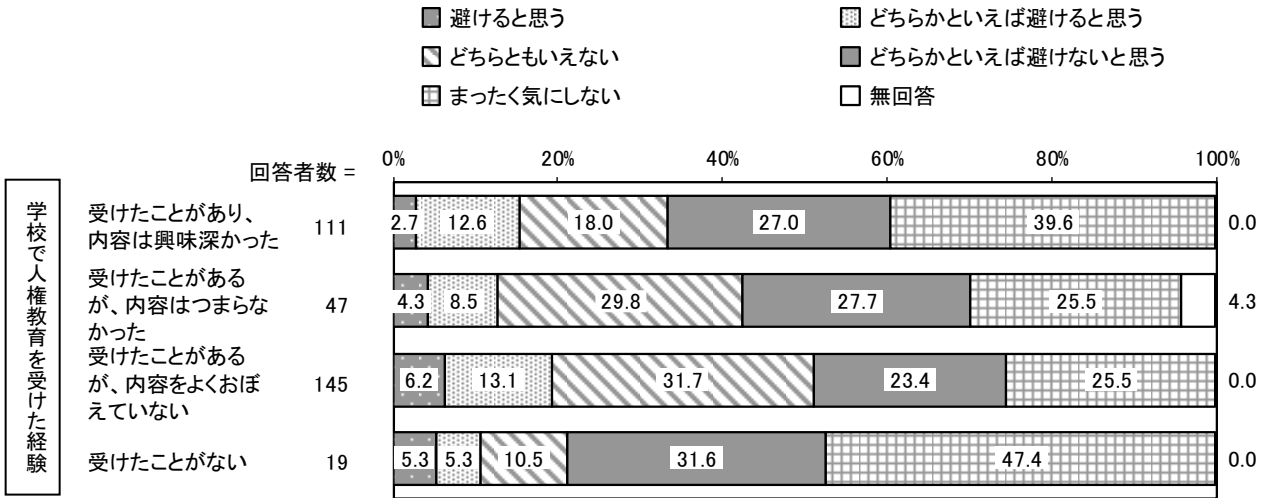
オ 同和地区の地域内である



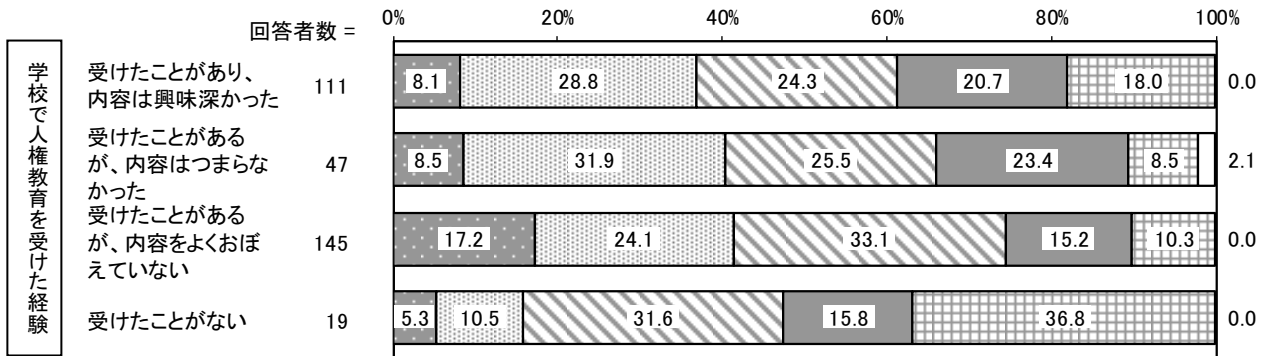
憲法上の国民の権利の理解度別でみると、すべての項目において、理解度が高い人ほど『避けないと思う』の割合が高くなる傾向がみられます。

【図 13-3 学校で人権教育を受けた経験別住宅を選ぶ際の考え方】

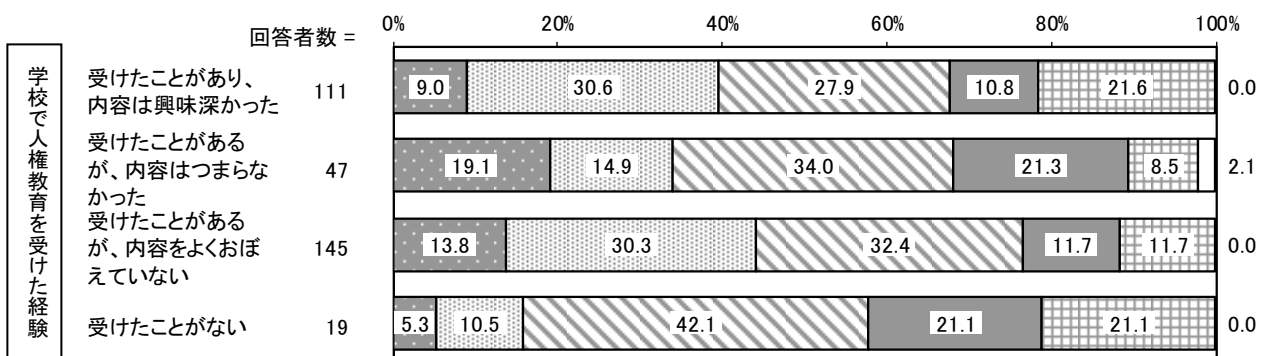
ア 近隣に障がい者施設がある



イ 近隣に外国人の住民が多く住んでいる

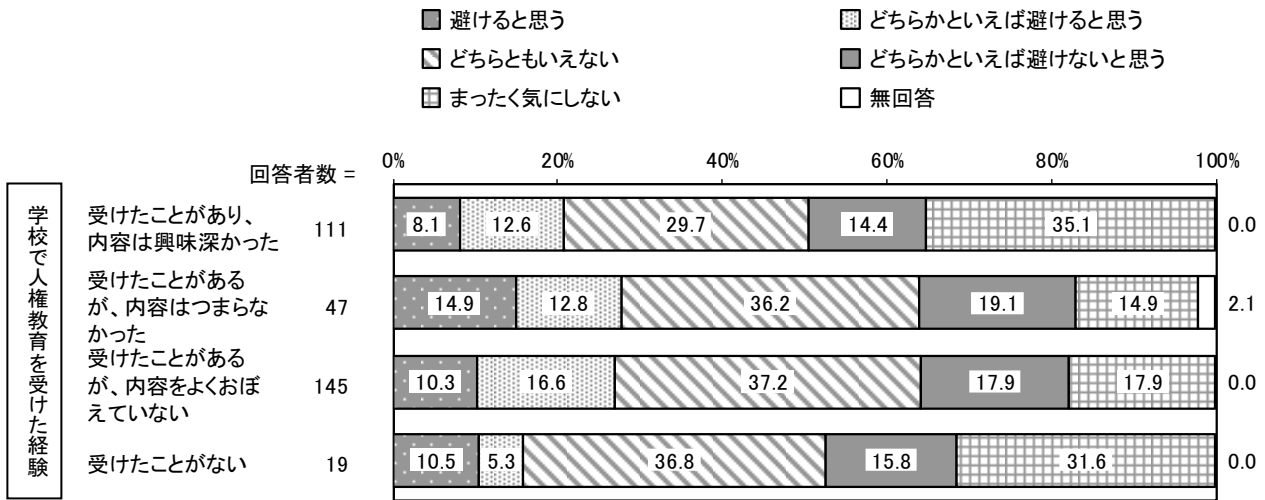


ウ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

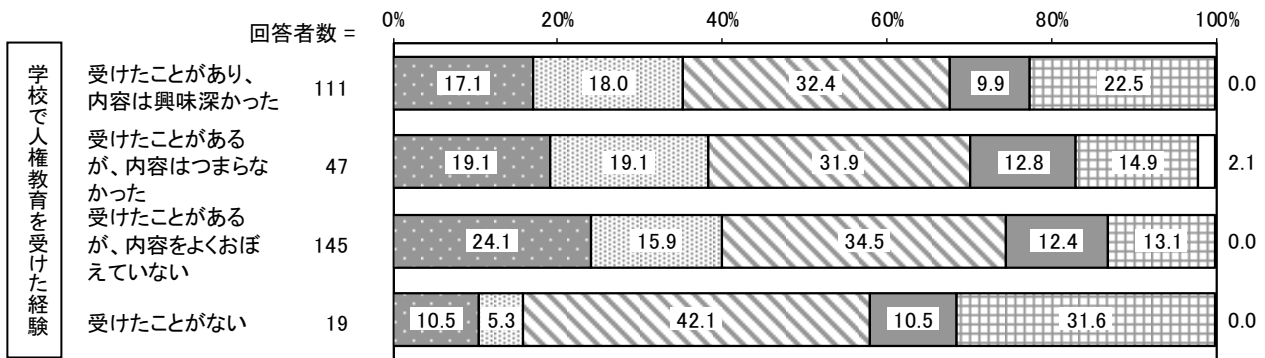


【図 13-3 学校で人権教育を受けた経験別住宅を選ぶ際の考え方】

エ 近隣に同和地区がある



オ 同和地区の地域内である

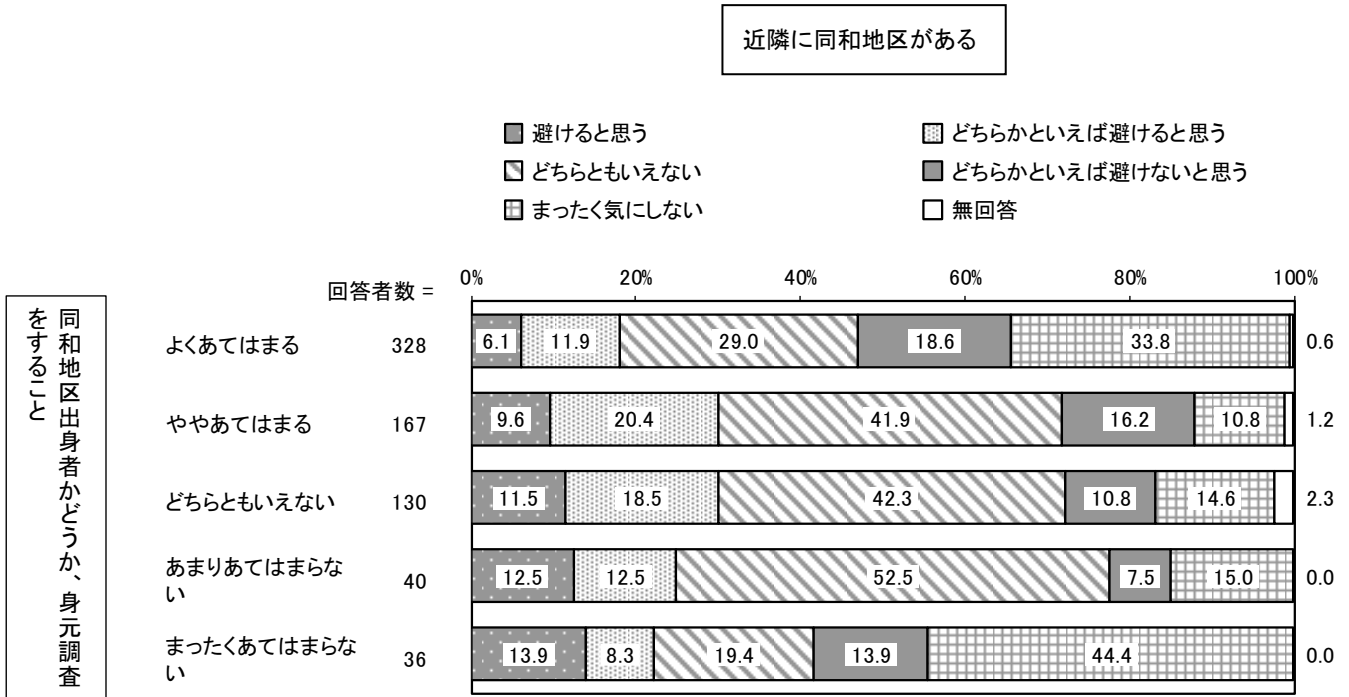


学校での人権教育を受けた経験別で見ると、すべての項目で「受けたことがあり、内容は興味深かった」での『避けないと思う』の割合が、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」での割合と「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」での割合よりも高くなっています。そして、“エ 近隣に同和地区がある”では、『避けないと思う』の割合は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」と「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」をそれぞれ10ポイント以上、上回っています。

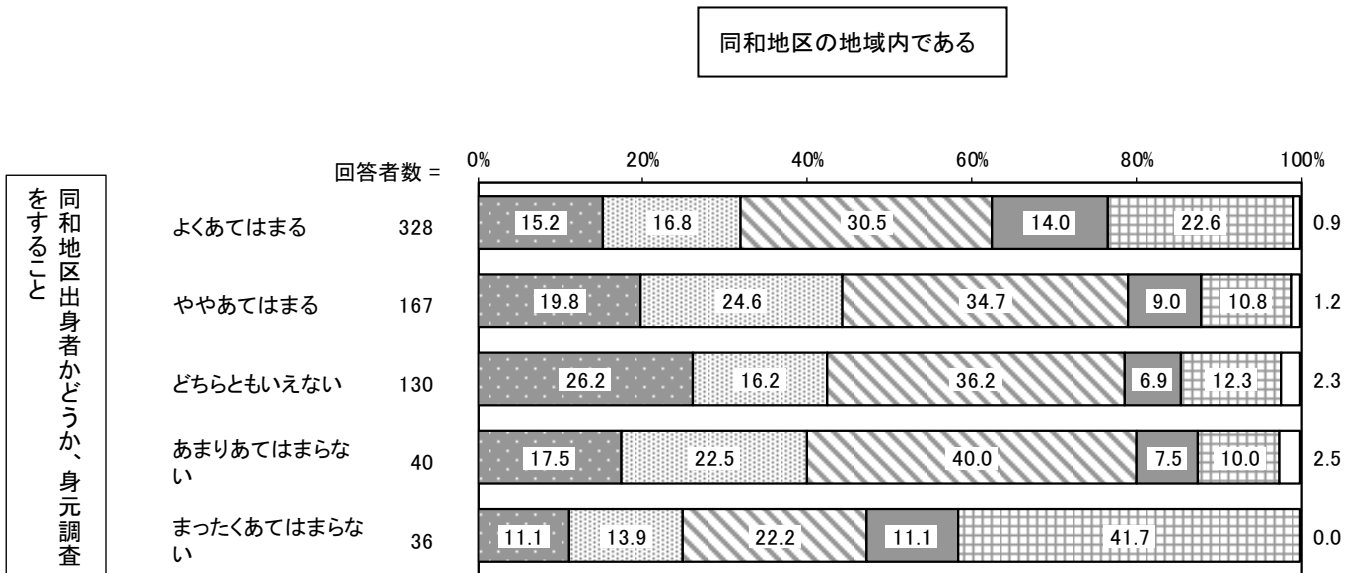
※人権教育の効果については、「受けたことがない」の回答結果を除いて考察しています。理由はp 7に記載しています。

【図 13-4 同和地区出身者かどうか、身元調査をすること】

エ 近隣に同和地区がある



オ 同和地区の地域内である

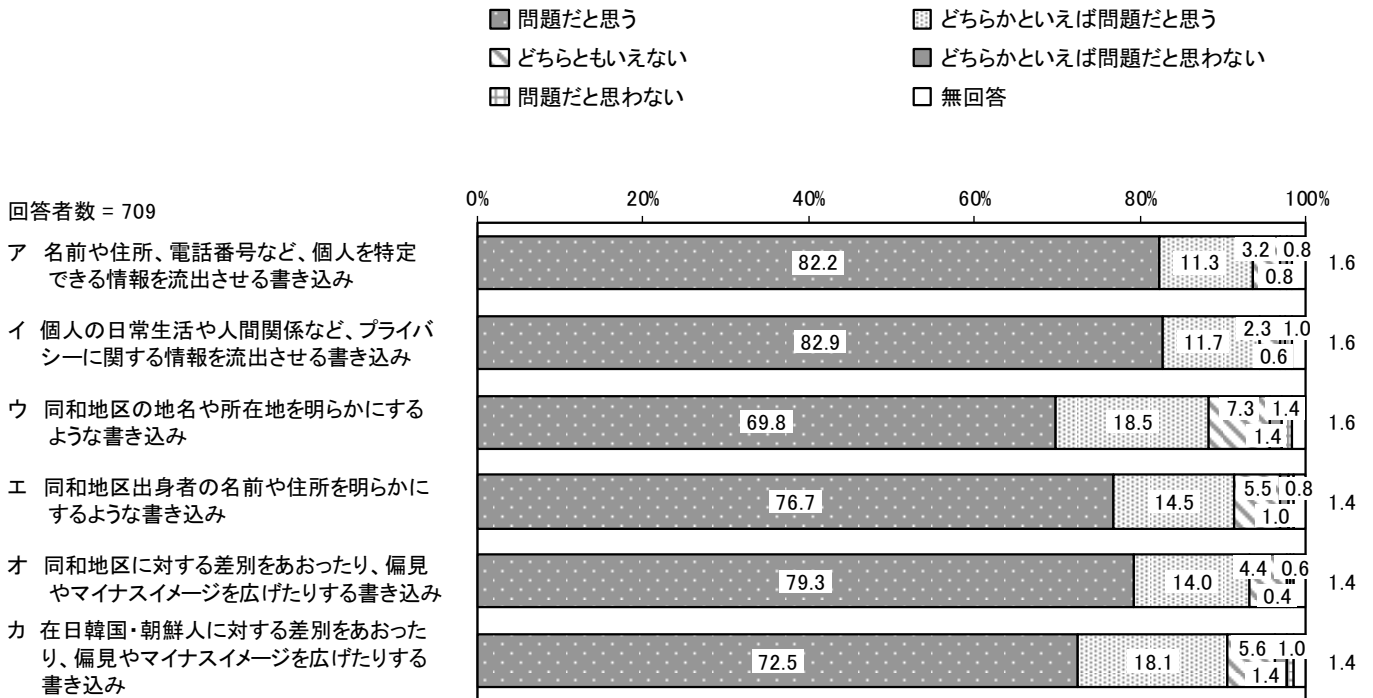


問2 “オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること” が人権侵害にあたるかについて、「よくあてはまる」「まったくあてはまらない」を選んだ人で、住宅を選ぶ際の考え方として、“エ 近隣に同和地区がある”、“オ 同和地区の地域内である”ことで『避けないと思う』と回答する割合が高くなっています。

14 インターネット上の書き込みや行為についての考えについて[問14]

問14 スマートフォンや携帯、パソコンなどのインターネット上で下記のような書き込みや行為についてどう思いますか。ア～カのそれぞれについて選んでください。
(○はそれぞれ1つ)

【図14-1 インターネット上の書き込みや行為についての考え（全体）】



すべての項目で「問題だと思う」と「どちらかといえば問題だと思う」をあわせた『問題だと思う』の割合が、「どちらかといえば問題だと思わない」と「問題だと思わない」をあわせた『問題だと思わない』の割合を大きく上回っています。特に、“ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み” “イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み” “エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み” “オ 同和地区に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み” “カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み” の5項目で『問題だと思う』の割合が9割以上となっています。

【表 14-1 インターネット上の書き込みや行為についての考え（性別・年齢別）】

ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み

イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	77.9	13.8	5.1	1.1	1.4	0.7
	女性	421	85.5	9.0	2.1	0.7	0.5	2.1
年齢別	18～19歳	60	93.3	5.0	1.7	—	—	—
	20～29歳	84	88.1	8.3	3.6	—	—	—
	30～39歳	70	91.4	7.1	1.4	—	—	—
	40～49歳	107	86.0	13.1	—	0.9	—	—
	50～59歳	109	81.7	12.8	3.7	—	0.9	0.9
	60～69歳	147	84.4	7.5	4.1	0.7	2.0	1.4
	70～79歳	158	79.1	10.8	5.1	1.9	0.6	2.5
80歳以上	63	66.7	19.0	4.8	1.6	1.6	6.3	

区分		回答者数(件)	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	79.3	14.5	3.3	0.4	1.1	1.4
	女性	421	85.3	9.7	1.7	0.7	1.0	1.7
年齢別	18～19歳	60	90.0	6.7	1.7	1.7	—	—
	20～29歳	84	82.1	14.3	3.6	—	—	—
	30～39歳	70	84.3	12.9	1.4	—	1.4	—
	40～49歳	107	85.0	11.2	1.9	0.9	—	0.9
	50～59歳	109	83.5	11.9	2.8	—	0.9	0.9
	60～69歳	147	89.1	6.1	2.7	—	1.4	0.7
	70～79歳	158	80.4	12.7	2.5	1.3	0.6	2.5
80歳以上	63	68.3	19.0	1.6	1.6	3.2	6.3	

ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み

エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み

単位：％

区分		回答者数(件)	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	66.3	19.6	9.1	1.4	2.5	1.1
	女性	421	72.2	17.8	5.9	1.4	0.7	1.9
年齢別	18～19歳	60	81.7	13.3	5.0	—	—	—
	20～29歳	84	77.4	15.5	4.8	1.2	1.2	—
	30～39歳	70	67.1	12.9	15.7	2.9	1.4	—
	40～49歳	107	72.9	21.5	3.7	0.9	0.9	—
	50～59歳	109	75.2	19.3	3.7	—	0.9	0.9
	60～69歳	147	75.5	13.6	8.2	0.7	1.4	0.7
	70～79歳	158	64.6	23.4	7.0	1.3	1.3	2.5
80歳以上	63	50.8	23.8	7.9	4.8	4.8	7.9	

区分		回答者数(件)	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらともいえない	どちらかといえば問題だと思わない	問題だと思わない	無回答
性別	男性	276	74.6	17.0	4.7	1.4	1.1	1.1
	女性	421	78.1	12.8	5.9	0.7	0.7	1.7
年齢別	18～19歳	60	86.7	10.0	3.3	—	—	—
	20～29歳	84	82.1	11.9	4.8	—	1.2	—
	30～39歳	70	78.6	14.3	7.1	—	—	—
	40～49歳	107	82.2	14.0	2.8	0.9	—	—
	50～59歳	109	80.7	15.6	2.8	—	—	0.9
	60～69歳	147	81.0	10.9	5.4	0.7	1.4	0.7
	70～79歳	158	71.5	17.1	6.3	1.9	0.6	2.5
80歳以上	63	57.1	19.0	9.5	3.2	4.8	6.3	

【表 14-1 インターネット上の書き込みや行為についての考え（性別・年齢別）】

オ 同和地区に対する差別をあおったり、
偏見やマイナスイメージを広げたり
する書き込み

カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあお
ったり、偏見やマイナスイメージを広
げたりする書き込み

単位：%

区分		回答者数 (件)	問題だ と思う	どちらか かという 問題だ と思う	どちらとも いえない	どちらか かといえ ば問題だ と思わ ない	問題だ と思わ ない	無回 答
性別	男性	276	76.4	15.9	5.1	0.7	0.7	1.1
	女性	421	81.2	12.6	3.8	0.2	0.5	1.7
年齢別	18～19歳	60	90.0	5.0	5.0	—	—	—
	20～29歳	84	82.1	11.9	4.8	—	1.2	—
	30～39歳	70	77.1	14.3	8.6	—	—	—
	40～49歳	107	80.4	15.9	3.7	—	—	—
	50～59歳	109	82.6	13.8	2.8	—	—	0.9
	60～69歳	147	85.0	8.8	3.4	0.7	1.4	0.7
	70～79歳	158	76.6	15.2	4.4	1.3	—	2.5
80歳以上	63	65.1	20.6	4.8	—	3.2	6.3	

区分		回答者数 (件)	問題だ と思う	どちらか かという 問題だ と思う	どちらとも いえない	どちらか かといえ ば問題だ と思わ ない	問題だ と思わ ない	無回 答
性別	男性	276	67.0	22.1	5.4	2.5	1.8	1.1
	女性	421	76.2	15.2	5.7	0.7	0.5	1.7
年齢別	18～19歳	60	81.7	10.0	5.0	—	3.3	—
	20～29歳	84	73.8	13.1	9.5	1.2	2.4	—
	30～39歳	70	75.7	12.9	8.6	2.9	—	—
	40～49歳	107	73.8	18.7	5.6	1.9	—	—
	50～59歳	109	71.6	22.0	3.7	0.9	0.9	0.9
	60～69歳	147	83.7	7.5	4.8	2.0	1.4	0.7
	70～79歳	158	67.1	22.8	5.7	1.3	0.6	2.5
80歳以上	63	54.0	31.7	4.8	—	3.2	6.3	

性別でみると、すべての項目において、男性、女性ともに『問題だと思う』の割合が高くなっています。

年齢別でみると、いずれの項目でも『問題だと思う』の割合は、70歳未満の各年齢層で9割を超えていることが多いですが、70歳未満の年齢層でも、“ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み”については、30～39歳と60～69歳で『問題だと思う』の割合が9割に達していません。また、“カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み”については、20～29歳と30～39歳で『問題だと思う』の割合が9割に達していません。

【図 14-2 憲法上の国民の権利の理解度別インターネット上の書き込みや行為についての考え】

ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
理解度 の 国	完全正解者	121	95.0	4.1	0.8	—	—	—
	部分正解者	496	81.0	12.9	3.6	0.8	0.8	0.8
	不正解者	72	75.0	12.5	2.8	2.8	2.8	4.2

イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
理解度 の 国	完全正解者	121	91.7	7.4	—	—	0.8	—
	部分正解者	496	83.1	12.1	2.4	0.6	0.6	1.2
	不正解者	72	73.6	16.7	2.8	1.4	2.8	2.8

ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
理解度 の 国	完全正解者	121	74.4	13.2	7.4	3.3	1.7	—
	部分正解者	496	70.6	20.6	5.8	0.6	1.4	1.0
	不正解者	72	61.1	15.3	18.1	—	1.4	4.2

【図 14-2 憲法上の国民の権利の理解度別インターネット上の書き込みや行為についての考え】

エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
憲法上の国民の権利の理解度	完全正解者	121	84.3	11.6	3.3	0.8	—	—
	部分正解者	496	76.8	15.9	4.4	1.0	0.8	1.0
	不正解者	72	68.1	11.1	15.3	1.4	1.4	2.8

オ 同和地区に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
憲法上の国民の権利の理解度	完全正解者	121	86.0	8.3	5.0	0.8	—	—
	部分正解者	496	79.6	14.9	3.8	0.2	0.4	1.0
	不正解者	72	72.2	13.9	8.3	1.4	1.4	2.8

カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と思う	どちらとも えない	どちらかとい えば問題だ と思わない	問題だと思 わない	無回 答
憲法上の国民の権利の理解度	完全正解者	121	77.7	13.2	5.8	2.5	0.8	—
	部分正解者	496	73.8	18.3	5.4	0.6	0.8	1.0
	不正解者	72	63.9	20.8	8.3	2.8	1.4	2.8

憲法上の国民の権利の理解度別でみると、“ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み” “イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み” “エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み” の項目において、理解度が高い人ほど『問題だと思う』の割合が高くなっています。

【図 14-3 学校で人権教育を受けた経験別インターネット上の書き込みや行為についての考え】

ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	え ど ち ら か と い 思 う	え ど ち ら と も い え な い	え ど ち ら か と い 思 わ な い	な い 問 題 だ と 思 わ な い	無 回 答
学校で 人権教育を 受けた経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	91.9	6.3	—	0.9	0.9	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	80.9	12.8	4.3	—	—	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	85.5	13.1	1.4	—	—	—
	受けたことがない	19	78.9	15.8	5.3	—	—	—

イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	え ど ち ら か と い 思 う	え ど ち ら と も い え な い	え ど ち ら か と い 思 わ な い	な い 問 題 だ と 思 わ な い	無 回 答
学校で 人権教育を 受けた経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	90.1	6.3	0.9	0.9	1.8	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	78.7	14.9	4.3	—	—	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	84.1	14.5	1.4	—	—	—
	受けたことがない	19	73.7	21.1	5.3	—	—	—

ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	え ど ち ら か と い 思 う	え ど ち ら と も い え な い	え ど ち ら か と い 思 わ な い	な い 問 題 だ と 思 わ な い	無 回 答
学校で 人権教育を 受けた経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	81.1	12.6	3.6	1.8	0.9	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	63.8	17.0	10.6	2.1	4.3	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	73.1	20.0	6.2	0.7	—	—
	受けたことがない	19	57.9	26.3	15.8	—	—	—

【図 14-3 学校で人権教育を受けた経験別インターネット上の書き込みや行為についての考え】

エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と	どちらともい えない	どちらかとい えば問題だ と思わ ない	問題だと思 わ ない	無回 答
学校で 人権 教育を 受けた 経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	88.3	9.0	2.7	—	—	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	70.2	17.0	8.5	2.1	—	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	80.7	16.6	2.8	—	—	—
	受けたことがない	19	73.7	15.8	10.5	—	—	—

オ 同和地区に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と	どちらともい えない	どちらかとい えば問題だ と思わ ない	問題だと思 わ ない	無回 答
学校で 人権 教育を 受けた 経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	91.0	6.3	2.7	—	—	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	70.2	17.0	10.6	—	—	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	78.6	19.3	2.1	—	—	—
	受けたことがない	19	68.4	15.8	15.8	—	—	—

カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み

単位：％

区分		回答者数 (件)	問題だと思 う	どちらかとい えば問題だ と	どちらともい えない	どちらかとい えば問題だ と思わ ない	問題だと思 わ ない	無回 答
学校で 人権 教育を 受けた 経験	受けたことがあり、 内容は興味深かった	111	82.0	12.6	3.6	1.8	—	—
	受けたことがあるが、 内容はつまらなかった	47	63.8	21.3	4.3	4.3	4.3	2.1
	受けたことがあるが、 内容をよくおぼえていない	145	72.4	20.7	6.9	—	—	—
	受けたことがない	19	68.4	15.8	15.8	—	—	—

学校での人権教育を受けた経験別でみると、すべての項目について、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」での『問題だと思う』の割合が、「受けたことがあり、内容は興味深かった」での割合と「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」での割合よりも低くなっています。

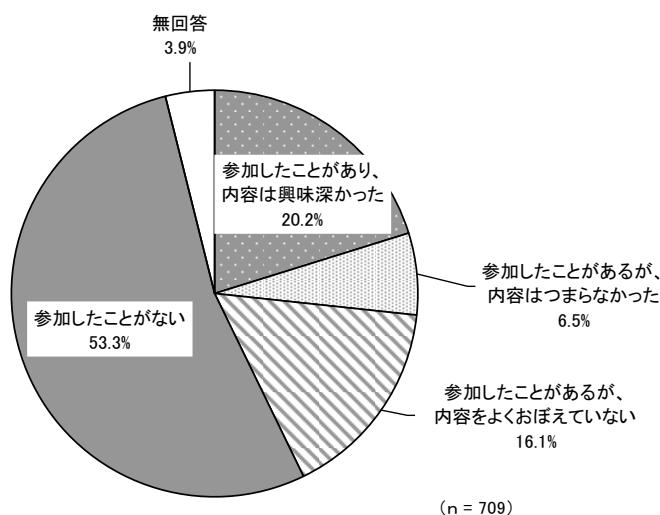
※人権教育の効果については、「受けたことがない」の回答結果を除いて考察しています。理由はp 7に記載しています。

15 人権問題に関する講演会や研修会への参加について

(1) 人権問題に関する講演会や研修会などへの参加経験 [問15]

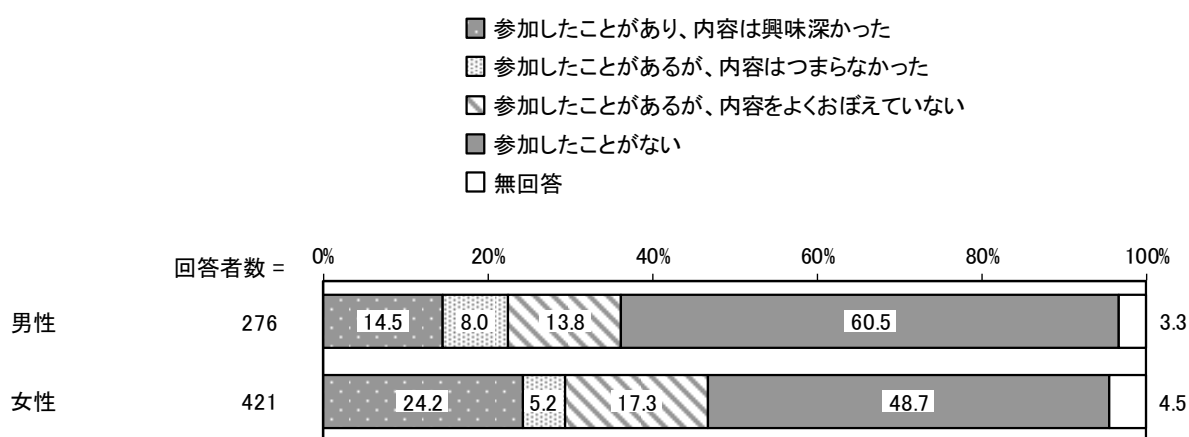
問15 さまざまな人権問題に関する市民の理解を深めるため、市（教育委員会を含む）や団体などが主催している講演会、研修会などに、あなたは参加したことがありますか。また、それらの講演会、研修会などに参加して、内容はどうでしたか。
(○は1つ)

【図15-1 人権問題に関する講演会や研修会などへの参加経験（全体）】



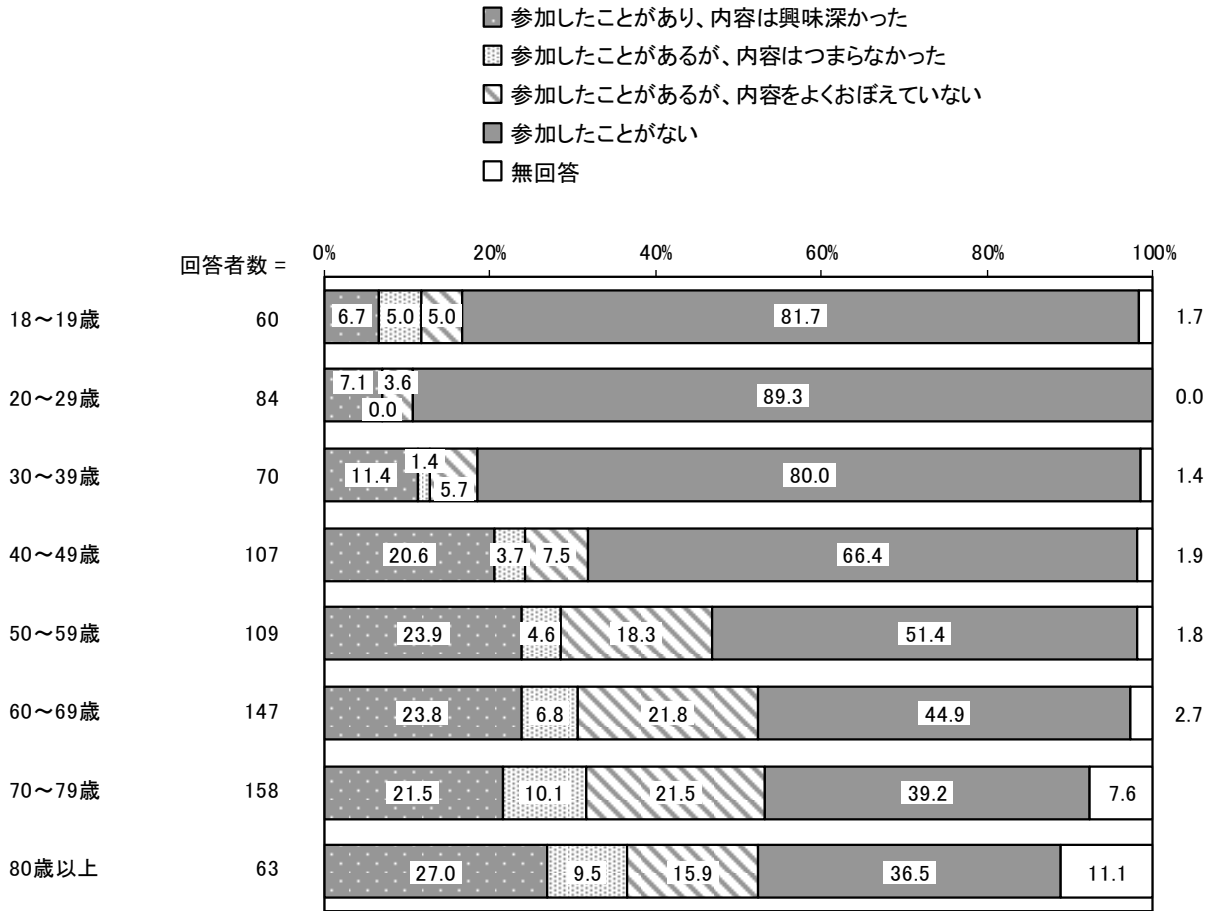
「参加したことがない」の割合が53.3%と最も高く、次いで「参加したことがあり、内容は興味深かった」の割合が20.2%、「参加したことがあるが、内容をよくおぼえていない」の割合が16.1%となっています。

【図15-2 人権問題に関する講演会や研修会などへの参加経験（性別）】



性別でみると、「参加したことがあり、内容は興味深かった」の割合は、男性よりも女性が9.7ポイント高くなっています。一方、「参加したことがない」の割合は、女性よりも男性が11.8ポイント高くなっています。

【図 15-3 人権問題に関する講演会や研修会などへの参加経験（年齢別）】



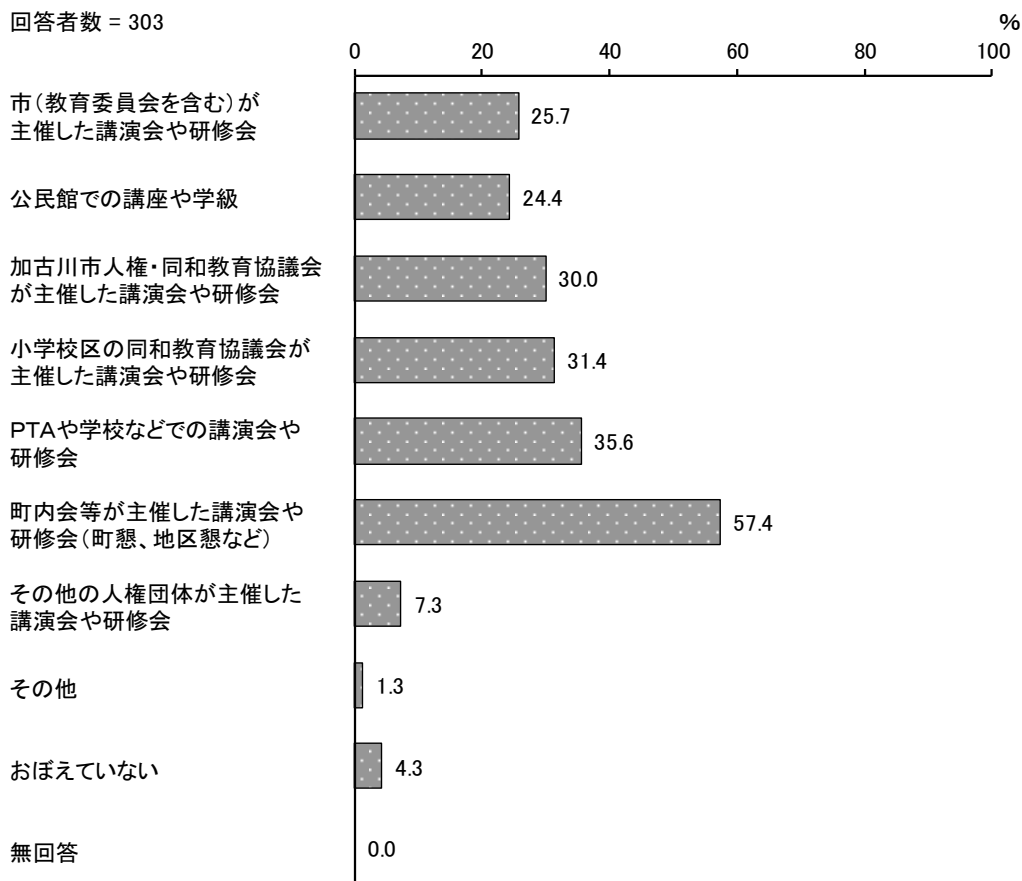
年齢別でみると、「参加したことがあり、内容は興味深かった」の割合は、80歳以上で最も高く、約3割となっています。また、「参加したことがあるが、内容をよくおぼえていない」の割合は、60～69歳、70～79歳で高く、2割を超えています。一方、「参加したことがない」の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられます。

(2) 参加経験のある講演会や研修会などの種類

問 15-1 は、問 15 で「1」、「2」、「3」を選んだ人にお聞きします。

問 15-1 参加されたのはどのような種類のものでしたか。(〇はいくつでも)

【図 15-4 参加経験のある講演会や研修会などの種類 (全体)】



「町内会等が主催した講演会や研修会(町懇、地区懇など)」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「PTAや学校などでの講演会や研修会」の割合が 35.6%、「小学校区の同和教育協議会が主催した講演会や研修会」の割合が 31.4%となっています。

【表 15-1 参加経験のある講演会や研修会などの種類（性別・年齢別）】

単位：%

区分		回答者数（件）	市（教育委員会を含む）が主催した講演会や研修会	公民館での講座や学級	加古川市人権・同和教育協議会が主催した講演会や研修会	小学校区の同和教育協議会が主催した講演会や研修会	P T Aや学校などでの講演会や研修会	町内会等が主催した講演会や研修会（町懇、地区懇など）	その他の人権団体が主催した講演会や研修会	その他	おぼえていない	無回答
性別	男性	100	27.0	21.0	30.0	24.0	23.0	63.0	12.0	2.0	4.0	—
	女性	197	25.4	26.4	31.0	35.5	43.1	54.3	4.6	1.0	4.1	—
年齢別	18～19歳	10	—	10.0	10.0	10.0	80.0	—	10.0	—	10.0	—
	20～29歳	9	33.3	33.3	22.2	11.1	66.7	—	11.1	—	22.2	—
	30～39歳	13	7.7	7.7	15.4	15.4	46.2	30.8	—	7.7	—	—
	40～49歳	34	26.5	14.7	35.3	29.4	61.8	29.4	8.8	—	5.9	—
	50～59歳	51	17.6	23.5	23.5	35.3	47.1	60.8	3.9	—	3.9	—
	60～69歳	77	27.3	24.7	29.9	33.8	36.4	57.1	10.4	2.6	3.9	—
	70～79歳	84	29.8	31.0	33.3	29.8	17.9	69.0	6.0	—	2.4	—
80歳以上	33	33.3	27.3	42.4	36.4	27.3	69.7	9.1	3.0	6.1	—	

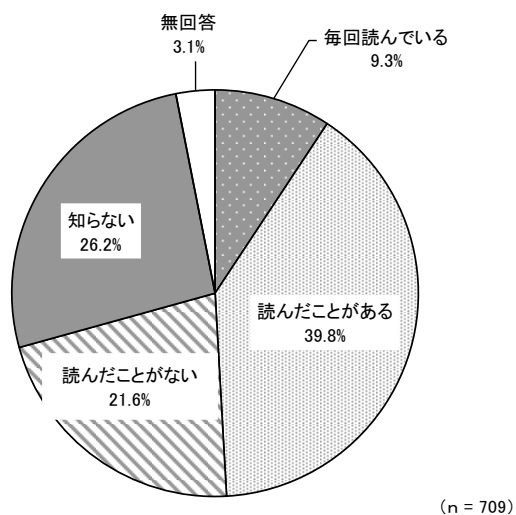
性別でみると、男性に比べ、女性で「小学校区の同和教育協議会が主催した講演会や研修会」「P T Aや学校などでの講演会や研修会」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「町内会等が主催した講演会や研修会（町懇、地区懇など）」「その他の人権団体が主催した講演会や研修会」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、18～19歳で「P T Aや学校などでの講演会や研修会」の割合が、80歳以上で「加古川市人権・同和教育協議会が主催した講演会や研修会」の割合が高くなっています。また、70～79歳、80歳以上で「町内会等が主催した講演会や研修会（町懇、地区懇など）」の割合が高くなっています。

16 「加古川市人権文化センターだより」について [問16]

問16 あなたは、加古川市で年5回発行している「加古川市人権文化センターだより」を読んでいますか。(○は1つ)

【図16-1 加古川市人権文化センターだより（全体）】



「読んだことがある」の割合が39.8%と最も高く、次いで「知らない」の割合が26.2%、「読んだことがない」の割合が21.6%となっています。

【表 16-1 加古川市人権文化センターだより（性別・年齢別）】

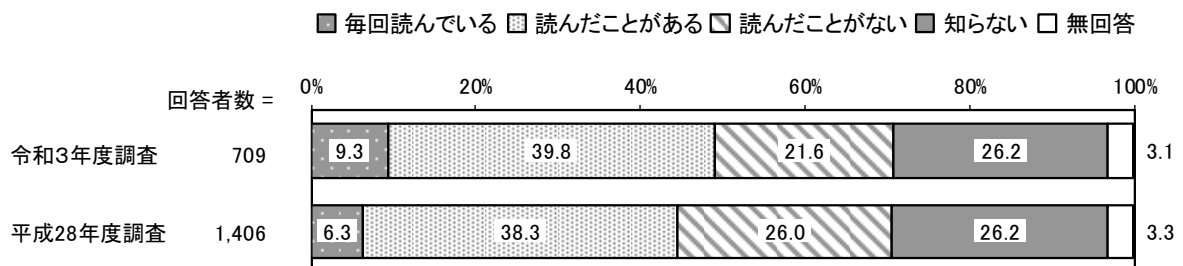
単位：％

区分		回答者数 (件)	毎回読んでいる	読んだことがある	読んだことがない	知らない	無回答
性別	男性	276	6.9	35.5	23.9	31.2	2.5
	女性	421	11.2	42.8	20.0	22.6	3.6
年齢別	18～19歳	60	1.7	21.7	23.3	53.3	—
	20～29歳	84	2.4	17.9	17.9	61.9	—
	30～39歳	70	2.9	31.4	28.6	37.1	—
	40～49歳	107	6.5	44.9	15.9	32.7	—
	50～59歳	109	11.0	45.9	21.1	20.2	1.8
	60～69歳	147	9.5	44.2	19.7	24.5	2.0
	70～79歳	158	12.0	38.6	27.8	15.8	5.7
80歳以上	63	19.0	41.3	15.9	11.1	12.7	

性別で見ると、男性に比べ、女性で「読んだことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、他に比べ、80歳以上で「毎回読んでいる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、18～19歳、20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。

【図 16-2 前回調査との比較】

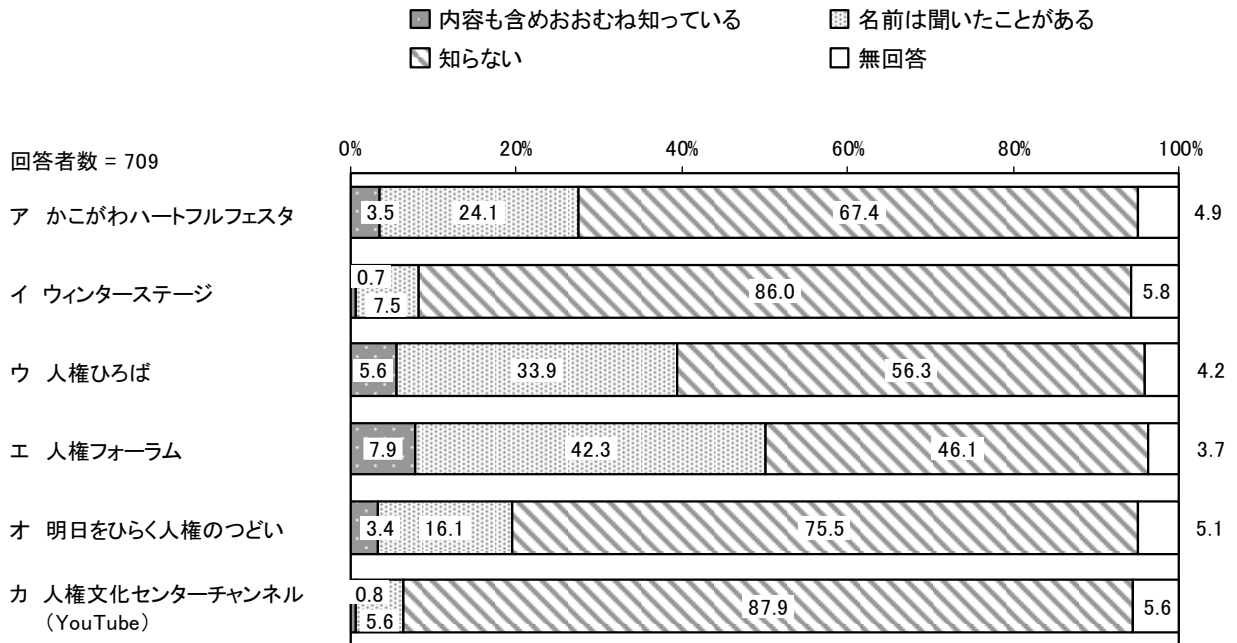


前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

17 加古川市及び各団体が実施している取り組みについて [問 17]

問 17 加古川市及び各団体が実施している取り組みについて知っていますか。ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図 17-1 加古川市及び各団体が実施している取り組み (全体)】



“ア かがわハートフルフェスタ” “ウ 人権ひろば” “エ 人権フォーラム” の3項目で「名前は聞いたことがある」の割合が高くなっています。一方、“イ ウィンターステージ” “カ 人権文化センターチャンネル (YouTube)” の2項目で「知らない」の割合が高くなっています。

【表 17-1 加古川市及び各団体が実施している取り組み（性別・年齢別）】

ア かこがわハートフルフェスタ

イ ウィンターステージ

単位：％

区分		回答者数 (件)	内容も含め おおむね 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	3.3	22.5	68.8	5.4
	女性	421	3.6	25.7	66.0	4.8
年齢別	18～19歳	60	3.3	23.3	71.7	1.7
	20～29歳	84	—	33.3	66.7	—
	30～39歳	70	—	20.0	80.0	—
	40～49歳	107	5.6	25.2	68.2	0.9
	50～59歳	109	1.8	30.3	67.0	0.9
	60～69歳	147	1.4	25.2	71.4	2.0
	70～79歳	158	7.6	22.2	60.1	10.1
	80歳以上	63	3.2	19.0	55.6	22.2

区分		回答者数 (件)	内容も含め おおむね 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	0.7	6.9	86.2	6.2
	女性	421	0.7	7.8	85.7	5.7
年齢別	18～19歳	60	1.7	8.3	88.3	1.7
	20～29歳	84	—	10.7	89.3	—
	30～39歳	70	—	1.4	98.6	—
	40～49歳	107	0.9	7.5	90.7	0.9
	50～59歳	109	—	7.3	91.7	0.9
	60～69歳	147	0.7	8.2	89.1	2.0
	70～79歳	158	1.9	7.6	78.5	12.0
	80歳以上	63	—	14.3	60.3	25.4

ウ 人権ひろば

エ 人権フォーラム

単位：％

区分		回答者数 (件)	内容も含め おおむね 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	7.6	26.8	61.2	4.3
	女性	421	4.5	39.2	52.0	4.3
年齢別	18～19歳	60	5.0	15.0	78.3	1.7
	20～29歳	84	1.2	21.4	77.4	—
	30～39歳	70	1.4	21.4	77.1	—
	40～49歳	107	5.6	35.5	57.0	1.9
	50～59歳	109	3.7	35.8	59.6	0.9
	60～69歳	147	4.1	40.1	55.1	0.7
	70～79歳	158	11.4	36.1	43.7	8.9
	80歳以上	63	6.3	38.1	36.5	19.0

区分		回答者数 (件)	内容も含め おおむね 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	9.1	37.3	49.6	4.0
	女性	421	7.1	46.3	43.0	3.6
年齢別	18～19歳	60	3.3	28.3	66.7	1.7
	20～29歳	84	4.8	31.0	64.3	—
	30～39歳	70	2.9	30.0	67.1	—
	40～49歳	107	6.5	46.7	45.8	0.9
	50～59歳	109	9.2	39.4	50.5	0.9
	60～69歳	147	6.8	46.3	46.3	0.7
	70～79歳	158	13.9	43.0	35.4	7.6
	80歳以上	63	6.3	49.2	27.0	17.5

【表 17-1 加古川市及び各団体が実施している取り組み（性別・年齢別）】

オ 明日をひらく人権のつどい

カ 人権文化センターチャンネル (YouTube)

単位：%

区分		回答者数 (件)	知っている 内容も含め おおむね	名前を聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	4.3	14.5	75.7	5.4
	女性	421	2.9	17.6	74.6	5.0
年齢別	18～19歳	60	1.7	13.3	83.3	1.7
	20～29歳	84	—	10.7	89.3	—
	30～39歳	70	1.4	5.7	92.9	—
	40～49歳	107	2.8	18.7	77.6	0.9
	50～59歳	109	2.8	11.0	85.3	0.9
	60～69歳	147	3.4	19.0	76.9	0.7
	70～79歳	158	6.3	20.3	62.7	10.8
	80歳以上	63	3.2	23.8	49.2	23.8

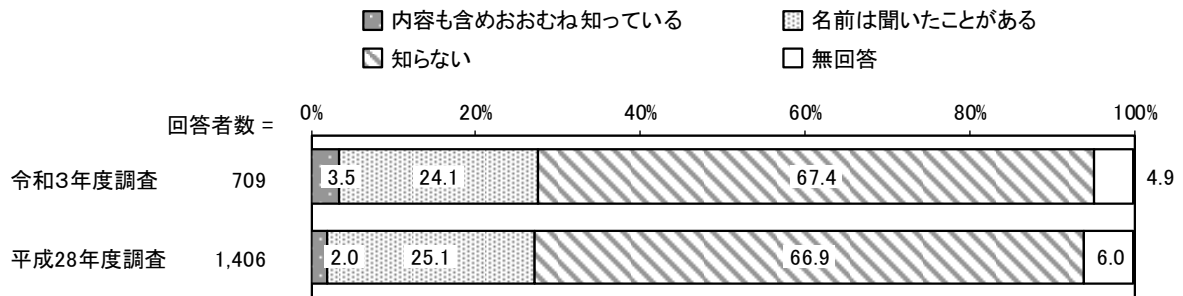
区分		回答者数 (件)	知っている 内容も含め おおむね	名前を聞いた ことがある	知らない	無回答
性別	男性	276	1.4	6.2	85.9	6.5
	女性	421	0.2	5.5	89.1	5.2
年齢別	18～19歳	60	1.7	3.3	93.3	1.7
	20～29歳	84	—	2.4	97.6	—
	30～39歳	70	—	—	100.0	—
	40～49歳	107	1.9	4.7	92.5	0.9
	50～59歳	109	—	3.7	95.4	0.9
	60～69歳	147	—	6.8	91.2	2.0
	70～79歳	158	1.3	8.2	79.1	11.4
	80歳以上	63	1.6	11.1	61.9	25.4

性別で見ると、“ウ 人権ひろば” “エ 人権フォーラム” の項目を除いて、男性、女性ともに「知らない」の割合が高くなっています。また、“ウ 人権ひろば” “エ 人権フォーラム” の項目においては、男性に比べ、女性で「名前を聞いたことがある」の割合が高くなっています。

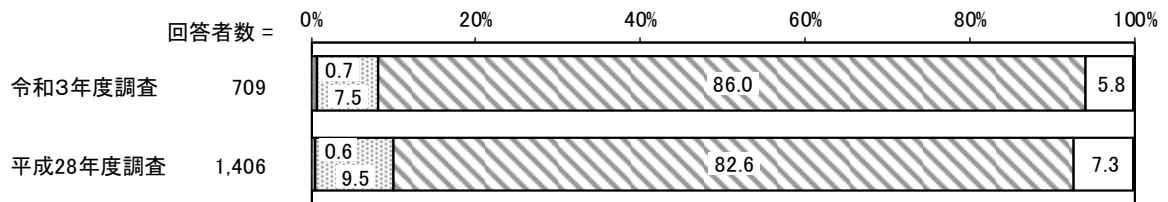
年齢別で見ると、すべての項目で「知らない」の割合が高くなっています。

【図 17-2 前回調査との比較】

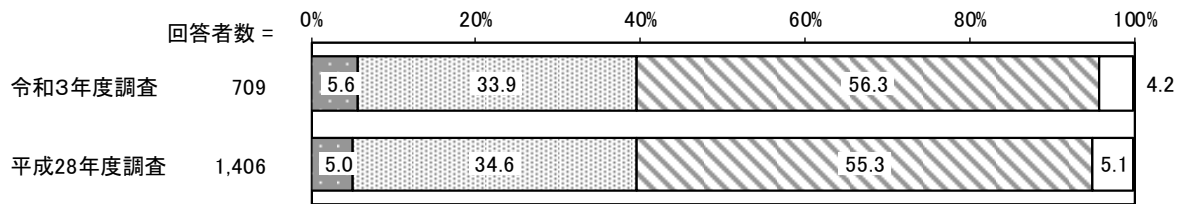
ア かこがわハートフルフェスタ



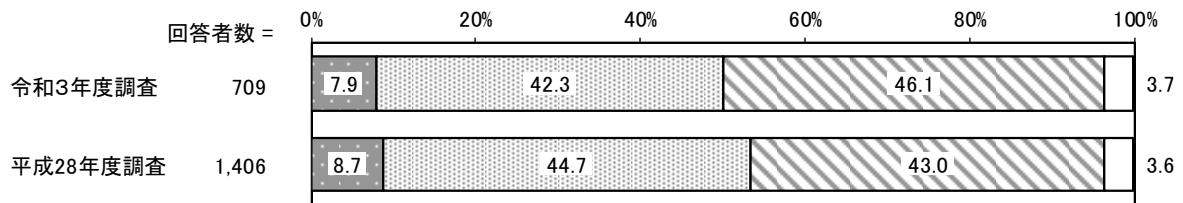
イ ウィンターステージ



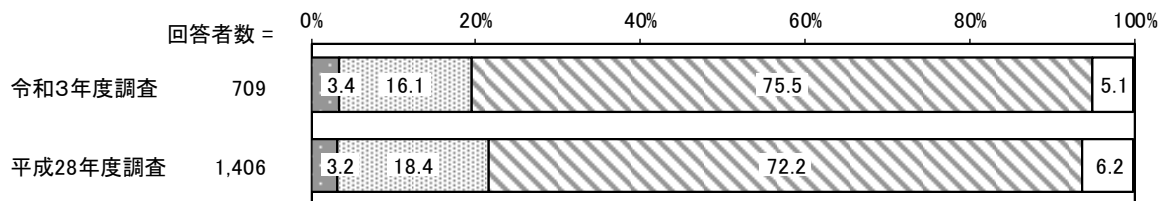
ウ 人権ひろば



エ 人権フォーラム



オ 明日をひらく人権のつどい



前回調査と比較すると、すべての項目において、大きな変化はみられません。

18 自由記述意見について [問20]

問20 人権学習や人権啓発のあり方などについてご意見などがあれば、下記にご自由にお書きください。

(1) 自由意見記述の分類

回答者 809 人中 195 人 (24.1%) の記入があり、意見件数は延べ 264 件となっています。

分類 番号	分類項目	件数
1	意識調査に関すること	25
2	女性の人権について	6
3	子どもの人権について	4
4	障がい者の人権について	10
5	同和問題について	65
6	外国人の人権について	4
7	インターネットに関する人権侵害について	4
8	労働者の人権について	3
9	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について	4
10	性的マイノリティの人権について	2
11	その他さまざまな人権について	2
12	市の人権施策について	17
13	人権教育について	44
14	人権や差別問題全般について	53
15	その他意見	21
合計		264

(2) 意見内容の概要

【1 意識調査に関すること・・・25件】

- ・設問項目に問題がある (7件)
- ・意識調査を評価する意見 (6件)
- ・性別を問う必要はない (4件)
- ・意識調査に対する批判的な意見 (4件)
- ・判断しにくい設問がある (3件)
- ・その他意見 (1件)

【2 女性の人権について・・・6件】

- ・まだまだ女性差別はある (3件)
- ・行き過ぎた男女平等は問題である (3件)

【3 子どもの人権について・・・4件】

- ・学校教育への要望（3件）
- ・子どものしつけについての意見（1件）

【4 障がい者の人権について・・・10件】

- ・障がい者施策への要望（4件）
- ・障がい者の人権に配慮した接し方がわからない（1件）
- ・身近な障がい者差別の事例（1件）
- ・障がい者への差別意識に対してもっと調査してほしい（1件）
- ・その他意見（3件）

【5 同和問題について・・・65件】

- ・わざわざ情報を伝えなければ差別は自然と解消する（寝た子を起こすな）（27件）
- ・同和地区に関して差別的な発言を聞いたことがある（7件うち結婚差別3件）
- ・もう同和問題はない、なくなりつつある（6件）
- ・同和問題に対する正しい教育・啓発をすることが必要（5件）
- ・まだまだ同和問題はある（3件）
- ・「同和地区」、「同和問題」がどういうものかよく知らない、興味がない（3件）
- ・同和地区は優遇されている（3件）
- ・未だに問題視されていることに驚いた（2件）
- ・同和地区出身者であっても気にならない（2件）
- ・同和問題の学習に関する要望（1件）
- ・その他意見（6件）

【6 外国人の人権について・・・4件】

- ・外国人の人権に対する批判的な意見（2件）
- ・外国人を身近に感じられない（1件）
- ・身近な在日外国人差別の事例（1件）

【7 インターネットに関する人権侵害について・・・4件】

- ・インターネットに関する人権問題は子どもの頃から学ぶことが大切（2件）
- ・SNS等情報が氾濫してプライバシーに関わる問題も増えている（1件）
- ・その他意見（1件）

【8 労働者の人権について・・・3件】

- ・職場で不当な扱いを受けたことがある（2件）
- ・自由な働き方ができる世の中になってほしい（1件）

【9 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について・・・4件】

- ・医療従事者等への差別に関すること（2件）
- ・ワクチン未接種者の人権に関すること（1件）
- ・その他意見（1件）

【10 性的マイノリティの人権について・・・2件】

- ・子どもの制服についての要望（1件）
- ・LGBTという言葉をよく聞くようになった。そういうことをオープンにできるよい時代が来たと思う（1件）

【11 その他さまざまな人権について・・・2件】

- ・学歴差別に関すること（1件）
- ・事実婚・内縁関係に関すること（1件）

【12 市の人権施策について・・・17件】

- ・市の人権施策への提案・要望（7件）
- ・市の人権施策に対する批判的な意見（4件）
- ・市の人権施策に対する肯定的な意見（3件）
- ・市の人権に関する取り組みをほとんど知らない（3件）

【13 人権教育について・・・44件】

- ・小さい頃からの人権教育は必要（13件）
- ・人権教育の内容に関する要望（10件）
- ・大人にも人権教育は必要（8件）
- ・人権教育は大切（4件）
- ・啓発や教育はする必要がない（2件）
- ・もっと人権学習に関心を持つようにしたい（2件）
- ・講演会や講座は、参加者が意見を言い合えるような内容にしてほしい（2件）
- ・その他意見（3件）

【14 人権や差別問題全般について・・・53件】

- ・他者を認め尊重し合うことが大切（8件）
- ・人権問題は難しい（8件）
- ・差別のない世の中になってほしい（5件）
- ・差別はなくなる（4件）
- ・当たり前のことを当たり前にできることが大切（3件）
- ・高齢になるほど、根強い差別意識があるように思う（3件）
- ・人権問題は自分のこととして考えることが大切（3件）
- ・人権に関する興味を深めていきたい（3件）
- ・人権問題に興味がない、関わりたくない（2件）
- ・その他意見（14件）

【15 その他意見・・・21件】

加古川市人権に関する市民意識調査結果に関する考察

加古川市人権教育啓発推進審議会

会長 石元 清英

1. 調査結果からみえてきたこと

今回の人権に関する市民意識調査の結果については、それぞれの設問ごとに図表で示し、コメントを加えたとおりである。ここでは3つの設問を取り上げ、その結果を詳しくみておくことにする。

まず、問4の人権侵害の経験についてである(30ページ)。問4は「あなたは、ここ5年くらいの間に自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか」と問うている。回答結果は、「よくある」3.5%、「ときどきある」12.3%で、この5年間に人権侵害を受けたという人は15.8%であった。人権侵害の内容は、32ページに示したとおりであるが、ここで取り上げたいのは、人権侵害を受けたときの対応である。

人権侵害を受けたと回答した112人に、そのときの対応を尋ねると(35ページ)、「黙って我慢した」(49.1%)と「友人、家族に相談した」(48.2%)が多く、「自分で相手に抗議した」は23.2%となっている。そして、「地域の民生委員・児童委員に相談した」と「市役所に相談した」は、ともに2.7%しかなく、「法務局や人権擁護委員に相談した」は回答がなかった。このように、公的な機関等に相談したという人は非常に少ないのである。法務局や市役所などが自分が受けた人権侵害に対してどのようなことをどこまでしてくれるのか、それがわからないので相談が少ないのであろう。公的な機関等への相談が少ないのは、加古川市だけの問題ではなく、全国的な傾向であり、それは今に始まったことではなく、過去に全国各地で実施された人権意識調査でも同様の結果が出ている。「黙って我慢した」という回答を減らし、公的な機関等への相談を増やしていくためにも、公的な機関等に関する情報発信が重要であるといえる。

つぎに、問9の同和問題に関する差別的な発言を直接聞いた経験についてである(56ページ)。問9では、具体的な発言内容を6つ示し、「あなたは、ここ5年くらいの間に同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか」と問うている。

回答結果は、「聞いたことはない」72.4%、「無回答」7.2%なので、残りの20.4%の人がここ5年間に同和問題に関する差別的な発言を聞いたことになる。そして、その発言を聞いたとき、どう感じたのかを問うと(60ページ)、「そのとおりと思った」が11.7%、「そういう見方もあるのかと思った」が57.2%で、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」20.0%、「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」6.9%であった。相手に自分の気持ちを伝えたかどうかは別にしても、差別的な発言を聞いて反発や疑問を感じたという人は、合わせて26.9%にすぎない。一見中立的であるが、差別に同調しかねない反応である「そういう見方もあるのかと思った」に「そのとおりと思った」を加えると、68.9%になり、反発や疑問を感じたという26.9%の2.5倍の大きさとなっている。

差別的な発言が出たときの状況や、それを聞いた人と発言した人との関係などにより、その発言に反発や疑問を感じたとしても、その気持ちをその場で相手に伝えにくい場合もあるだろうが、もし、反発や疑問を相手に伝えることができれば、その相手が自分の誤りに気づき、認識を改めることに

つながるかもしれない。さらにいえば、同和地区出身であることを周囲に明かしていない人が職場の同僚にいたとして、その職場で上記のような差別的な内容の発言が出て、他の同僚たちが「そのとおりに思った」と、それに同調したり、「そういう見方もあるのかと思った」と、傍観するだけだったら、職場はその同和地区出身者にとって非常に敵対的な環境となってしまうであろう。そのとき、その発言の間違いを指摘する同僚がいれば、その場の雰囲気は大きく変わるだろうし、その同和地区出身者は、救われた気持ちになるのではないだろうか。

同和問題については、若い人たちは何も知らないのだから、わざわざ同和問題を教える必要などないとする、いわゆる「寝た子を起こすな」論は、未だに根強くみられるが、問9の結果から明らかのように、現在でも同和問題に関する差別的な発言に接する機会は少なくないのである。同和問題について何の知識もなければ、そうした差別的な発言を鵜呑みにしてしまうかもしれない。だからこそ、差別的な発言に接した際に、その誤りに気づき、それを批判できる力をもつ人々を増やしていくことが差別をなくしていくことにつながるのである。このことは、これからの人権教育・啓発の大きな課題であるといえる。

3つ目には、インターネットの書き込みに関する認識があげられる。問14は、スマートフォンや携帯、パソコンなどのインターネット上の書き込みの具体例を6つあげ、それについて問題だと思うかどうかを問うた設問である(83ページ)。これによると、「問題だと思う」と回答した割合は、“ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み”と“イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”が80%を超えているのに対し、“ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み”では70%ほどしかなく、“エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み”でも76.7%となっており、同和地区や同和地区出身者を特定するような書き込みを問題であるとする回答よりも、個人を特定できる情報やプライバシーに関する情報を流出させる書き込みのほうを問題視する回答が多いのである。

そして、「問題だと思う」と回答した割合は、“オ 同和地区に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み”で79.3%、“カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み”で72.5%と、いずれも80%を下回っている。「差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる」と明記しているにもかかわらず、個人情報などが流出することを問題だと思う回答が多いのである。自分が被害者になる可能性がない部落差別や在日韓国・朝鮮人差別よりも、自分に被害が及ぶ可能性がある個人情報等の流出のほうを問題だと考えているのだろうか。

自分は被害者にはならないからといって、同和地区や在日韓国・朝鮮人への差別をあおる行為を他人事とみなし、それを軽視するなら、部落差別や在日韓国・朝鮮人差別は解消されることはないであろう。今回の問14の結果は、人権教育・啓発の課題が非常に大きいことを示すものといえる。

2. 年齢別比較からみえてきたもの

これまで各地で実施されてきた人権意識調査では、年齢が若くなるほど、人権意識が高くなるという傾向がみられることが多かった。つまり、中高年層よりも若年層のほうが人権意識が高いという傾向である。今回の調査でも、こうした傾向がみられた。たとえば(11ページ)、さまざまな事象や状態について、それが人権侵害にあてはまると思うかを問うた問2では、“サ 外国人である

ことを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること”を人権侵害に「よくあてはまる」と回答したのは、80歳以上では14.3%しかなかったが、その割合は年齢が若くなるほど上昇し、30～39歳では37.1%、18～19歳では55.0%と、若い人ほど人権侵害に「よくあてはまる」という回答が増えるという傾向がみられた。こうした傾向は、性別役割分業や多様な家族のあり方、性的マイノリティなどに関する設問や項目の回答結果に顕著にあらわれている(39ページの“ア”“イ”“ウ”、41ページの“ケ”と“サ”、67ページの“ウ”、69ページの“ケ”、72ページの“イ”と“ウ”)。

問7にみたように(50ページ)、学校で差別や人権に関する教育を受けた人は60歳未満に多く、60歳以上では少ない。そして、人権教育を受けたという人が教わった内容をみると(52ページ)、40歳以上の各年齢層では同和問題に集中しているが、30～39歳から18～19歳にかけて、教わった人権課題が多様化してきている。このように、若い年齢層で人権教育を受けた経験をもつ人が多く、年齢が若いほど、多様な人権に関する情報に接する機会が多くなるので、若い年齢層の人権意識が高くなるのである。また、人権教育だけではなく、若い人ほどインターネットなどによって家族の多様なあり方や性的マイノリティ当事者が発信する情報などにも接する機会が多いことも影響しているであろう。

しかし、今回の調査では、年齢が若くなるほど人権意識が高くなるという傾向がみられない設問や項目も目立った。たとえば、子どもの人権に関する問3では(24ページ)、“オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ”という意見に対して、「そう思わない」と回答した割合は、80歳以上で38.1%であったが、年齢が若くなるにしたがって上昇し、50～59歳では60.6%となるが、50歳未満の年齢層になると、いずれも50%を下回っており、「そう思わない」の回答割合の上昇は50～59歳で止まっている。同じく問3の(24ページ)“カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ”という意見についても「そう思わない」の回答割合は、80歳以上の22.2%から50～59歳の60.6%へと上昇しているのであるが、40～49歳になると、40.2%に低下し、30～39歳以下のいずれの年齢層でも40%台となっている。

さまざまな事象を示して、それが人権の視点から問題のある行為かを問うた問11では(67～68ページ)、“イ 凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すること”を「問題だとは思わない」と回答した割合は、80歳以上で7.9%であるが、年齢が若くなるほど上昇し、30～39歳では42.9%、20～29歳では51.2%となっている(18～19歳は36.7%)。“オ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないこと”を「問題だと思う」と回答した割合は、80歳以上で23.8%であったが、年齢が若くなるにしたがって低下し、30～39歳では8.6%、20～29歳では4.8%となっている(18～19歳は11.7%)。

このように、大学に進学できないことを家庭の責任に帰したり、不登校を本人の努力の問題とみる。そして、凶悪事件を起こした未成年者を一方的に責めたり、刑を終えた受刑者にいつまでも責めを負わせるといった見方が若い年齢層に目立つのである。

年齢が若くなるにしたがって、人権意識が高くなるという傾向が認められない設問や項目が少なからずみられたことについては、今回のデータだけではその要因を明らかにすることはむずかしい。若い年齢層のあいだで、いわゆる「自己責任論」が台頭してきていると言われて久しいが、人権侵害の責任を社会にではなく、その当事者個人に求める「自己責任論」という見方が関連しているのかもしれない。

3. 前回調査との比較

2016年に実施した前回調査の結果と比較すると、大きくは変わらない設問がある一方で、この5年間に変化が認められる設問がいくつかあった。大きくは変わらなかった設問としては、問1の「人権」を身近な問題として感じているか(7ページ)、問4の人権を侵害されたと思った経験の有無(31ページ)、問6の憲法に決められている権利(47ページ)、問16の「加古川市人権文化センターだより」の認知状況(95ページ)、問17の加古川市や各団体が実施している、人権に関わる取り組みの認知状況(99ページ)などであった。

以下、変化が認められたものについて、みていくことにする。

問2のさまざまな事象や状態が人権侵害にあてはまるかどうかという設問で(21ページ)、“ア 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること”では「よくあてはまる」が前回調査の34.6%から7.1ポイント増加して41.7%となっており、“イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること”についても、「よくあてはまる」が前回調査の22.6%から7.6ポイント増加して30.2%となっている。

問3は、子どもの人権に関するさまざまな意見に対してどう思うのかを問うた設問であるが(29ページ)、“ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない”に対して「そう思わない」という回答は、前回調査の22.5%から31.3%へと、8.8ポイント増加し、“イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ”に対して「そう思わない」と回答したのは、前回調査の18.9%から40.9%と、倍増している。このように、保護者や教師の体罰を容認しない回答が増加しているのであり、その傾向は教師の体罰についてより顕著となっている。

家族に関する見方や考え方について問うた問5でも(43ページ)、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”に対して「そう思う」と回答したのは前回調査の47.1%から53.5%に増加し、“イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない”についても「そう思う」は前回調査の38.3%から46.7%へと増加している。そして、問11では(70ページ)“ア 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと”に対して「問題だと思わない」は22.3%から15.7%、“イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること”に対して「問題だと思わない」は38.5%から31.5%へと、それぞれ減少している。

このように、女性や外国人の就業上の不利益を人権侵害にあてはまると考え、保護者や教師による子どもへの体罰を容認しないという回答が増えているのである。そして、結婚をするかしないか、結婚後、子どもを持つか持たないか、こうした点に関して、多様な家族のあり方を認める回答が増加し、就職の面接での違反質問や未成年の容疑者の実名報道を問題視しないという回答は減少している。

これらは、人権の視点からみて、いずれも評価できる変化であるといえよう。そのことは、問4の人権侵害を受けたときの対応で(37ページ)、「黙って我慢した」が減少し、「自分で相手に抗議した」「友人・家族に相談した」「職場の上司や地域の有力者に相談した」がそれぞれ増加していることについても、同様である。

4. 設問間のクロス集計からみえてきたもの

いくつかの設問について、その回答結果別に他の設問の回答結果とのクロス集計を行った。このクロス集計から明らかになった点を見ていくことにする。

まず、小学校から高校で人権教育を受けた経験別クロス集計である。すでに7ページで述べたように、このクロス集計は60歳未満に限定したため、人権教育を「受けたことがない」という回答が19件しかあがらなかった。「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」（以下、「おぼえていない」という回答は、「受けたことがない」と実質的に差がないとみてよいので、「受けたことがあり、内容は興味深かった」（以下、「興味深かった」）、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」（以下、「つまらなかった」）、「おぼえていない」の3つを比較することによって、人権教育の効果をみることにする。

当然のことではあるが、「興味深かった」と回答したほうが「つまらなかった」や「おぼえていない」よりも人権意識が高いという傾向が多く設問や項目でみられた。たとえば、さまざまな事象や状態が人権侵害にあてはまるかを問うた問2では（17～20ページ）、「ア 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること」「カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅く外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること」「キ HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり解雇されること」「サ 外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること」では、「よくあてはまる」と回答した割合は、「興味深かった」のほうが「つまらなかった」と「おぼえていない」をそれぞれ10ポイント以上、上回っている。そして、住まいを選ぶ際の近隣の条件に関する問13では（80～81ページ）、5つの項目のすべてで、「まったく気にしない」という回答割合は、「興味深かった」のほうが「つまらなかった」と「おぼえていない」よりも高くなっている。さらに、問14のインターネット上の書き込みについてみると（88～89ページ）、「問題だと思う」と回答した割合は、いずれの項目でも「興味深かった」がもっとも高くなっている。

このように、人権教育の効果がはっきりとあらわれている設問や項目がみられるのであるが、問2では、人権侵害に「よくあてはまる」の回答した割合が「興味深かった」において最も高かったわけではないという項目がいくつかみられた。たとえば、17～19ページにみられるように、人権侵害に「よくあてはまる」と回答した割合が「ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること」では「おぼえていない」が「興味深かった」よりも高かったり、「エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること」では「つまらなかった」が「興味深かった」よりも高く、「ケ 非嫡出子が結婚に際して不利益を受けること」では「興味深かった」「つまらなかった」「おぼえていない」がほぼ同じであった。

そして、子どもの人権に関する問3では（27～28ページ）、保護者や教師による子どもへの体罰を容認しないという回答の割合が「興味深かった」と「おぼえていない」との間であまり差がみられなかった（「ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない」と「イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ」の「そう思わない」の割合）。また、「エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないのはよくない」について「そう思う」の回答割合が「興味深かった」「つまらなかった」「おぼえていない」の間で大きな差がみられず、「オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ」では、「そう思わない」の回答割合が「おぼえていない」でもっとも高くなっている。さらには、「ウ 保

護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい”では、「そう思う」の割合が、“カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ”では「そう思わない」の割合が、それぞれ「つまらなかった」で「興味深かった」よりも高くなっている。

以上みてきたように、人権教育の効果があらわれているという項目がある一方で、人権教育の効果が明確には認められない項目も目立っているのである。こうした差がどうして生じているのか、さらに考察を深めていかなければならないが、今回のデータからは明らかにできなかった。人権教育の効果をより正確に測ることができるような設問の追加などを検討することが必要であろう。

なお、人権教育に関する問7では(49ページ)、「興味深かった」は25.2%にとどまり、「つまらなかった」は10.3%、「おぼえていない」は37.0%であった。「おぼえていない」の割合が「興味深かった」のそれを大きく上回り、「おぼえていない」と「つまらなかった」の割合を合わせると、5割近くになるのである(人権教育を受けた人だけでみると、「おぼえていない」と「つまらなかった」を合わせた割合は65.2%となる)。「おぼえていない」という回答が多いことについては、人権教育を学んだのがかなり以前のことになるので、おぼえていないケースも多いであろうが(50ページ)、20~29歳という若い年齢層でも「よくおぼえていない」が45.2%もある。今後、どのようにして「つまらなかった」や「おぼえていない」を減らし、「興味深かった」を増やしていくのか、人権教育の課題は大きいといえる。

憲法における国民の権利についての理解度別に回答結果をみると、さまざまな事象や状態が人権侵害にあてはまるかどうかを問うた問2(13~16ページ)、子どもの権利に関する問3(25~26ページ)、同和地区出身者との結婚について相談を受けた場合の対応に関する問8(55ページ)などのほとんどの項目について、完全正解者の人権意識が高いという結果となった。住まいを選ぶ際の近隣の条件に関する問13については(78~79ページ)、5項目のうち“イ 近隣に外国人の住民が多く住んでいる”については、完全正解者の「まったく気にしない」という回答割合が不正解者よりも低かったものの、他の4項目では完全正解者の「まったく気にしない」という回答割合がもっとも高くなっている。

このように、憲法に決められている権利についての理解が高い人ほど人権意識が高いという結果が明瞭にみられるのである。この点については、前回調査でも同様であった。憲法に決められている権利についての理解が高いほど、人権意識が高くなるのか、もともと人権意識が高い人ほど、憲法の権利についても理解が高いのか、どちらであるのかは断定できないが、憲法における基本的人権の学習が人権意識を高めることにつながるのではないだろうか。

つぎに、その他の設問間クロス集計についてみておきたい。

問2の“オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をする”の回答別に問5の“キ 自分の身内は同和地区出身者とは結婚してほしくない”の回答を示したものが図5-3である(44ページ)。これによると、身元調査が人権侵害に「よくあてはまる」と回答した人では、「自分の身内は同和地区出身者とは結婚してほしくない」という意見に対する『そう思う』の回答割合がもっとも低く、『そう思わない』の回答割合がもっとも高くなっている。このように、結婚に際しての身元調査が人権侵害にあてはまると考える人ほど、同和地区出身者に対する結婚忌避意識は低いという結果となっている。しかし、回答割合としては低いとはいえ、身元調査が人権侵害に「よくあてはまる」と回答した328人のうち12.2%が自分の身内は同和地区出身者とは結婚してほしくないと思っていることは、一般論として身元調査は人権侵害であって、よくないが、自分の身内のこととなると事情は別になると考える人が1割強いることになる。

82 ページの図 13-10 は、身元調査が人権侵害にあたるかと、住まいを選ぶ際の近隣の条件をクロス集計したものである。これによると、身元調査が人権侵害によくあてはまると考える人のほうが、近隣に同和地区があったり、同和地区の地域内にあるという物件を忌避しない傾向にあることがわかる。しかし、身元調査が人権侵害によくあてはまると回答した人でも、『避けると思う』の割合が近隣に同和地区がある物件で 18.0%、同和地区の地域内にある物件で 32.0%あることは、身内の同和地区出身者との結婚でみたように、一般論と自身に関わることは別であるという見方が関係しているといえる。

ともあれ、結婚に関わる身元調査が人権侵害にあたると思う人ほど、結婚や転居に際して、同和地区（出身者）に対する忌避意識が低いのであり、結婚相手が同和地区出身者であるかどうか、身元調査をすることが人権侵害であるということを広く啓発していく意義は大きいといえる。

なお、図 5-3 と図 13-10 では、身元調査が人権侵害に「まったくあてはまらない」と回答した人で「自分の身内は同和地区出身者とは結婚してほしくない」という意見に対して「そう思わない」という回答が多く、近隣に同和地区があったり、同和地区の地域内にあるという物件を「まったく気にしない」という回答が多かったが、どうしてこういう回答結果となったのかは、わからない（44 ページ、82 ページ）。

問 12 の“エ 性同一性障害のために、性別変更を望む人は、同性愛者である”という意見に対する回答別に問 5 の“ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ”と“サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない”の回答を示したものが図 5-4 である（45 ページ）。

「性同一性障害のために、性別変更を望む人」は、自分は男である、自分は女であるという意識である性自認と、身体の性が一致していない人で、トランスジェンダーと呼ばれる。トランスジェンダーには、外科的措置により身体をつくりを変えることを望む人もいれば、外科的措置を望まない人もいるが、いずれも性自認が身体の性と一致しないという点が特徴であり、その性的指向（どの性の人を好きになるか）は、性自認と身体の性が一致している人と同様、人それぞれで多様である。つまり、異性愛者のトランスジェンダーもいれば、同性愛者のトランスジェンダー、両性愛者のトランスジェンダー、無性愛者のトランスジェンダーもいる。したがって、トランスジェンダーと同性愛者は異なる概念である。なお、「性同一性障害」という言葉は、性自認と身体の性が一致しないことから生じる持続的な不快感、違和感を指す医学用語であったが、現在では「性別違和」という言葉が使われている。今回の調査では、意味が通じやすい言葉として、「性同一性障害」を用いた。

図 5-4 によると、トランスジェンダーと同性愛者は異なると考えている人（「そう思わない」と回答した人）ほど、同性婚を容認し、同性愛者に対する忌避意識が低いことがわかる。これは問 12 の“イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない”という意見についての回答を示した図 12-2（74 ページ）をみても同様であり、性的マイノリティについて正しく理解している人ほど、同性愛者やトランスジェンダーに対する忌避意識は低いのである。

こうした結果から、性的マイノリティに関する理解を高めることが性的マイノリティの人権を尊重する意識を育み、忌避意識を低下させることになるといえる。人権教育・啓発の課題が具体的に示されたといえよう。

5. 自由記述からみえてきたもの

今回の調査でも、調査票の最終ページに、問 20「人権学習や人権啓発のありかたなどについてご意見があれば、下記にご自由にお書きください」という自由記述欄を設けた。記述があったのは、追加サンプルを含めて 195 票で、全体の 24.1%を占める。記入者の内訳は、女性 109 人、男性 83 人、無回答 3 人で、その年齢は、18～19 歳 14 人、20～29 歳 17 人、30～39 歳 17 人、40～49 歳 27 人、50～59 歳 25 人、60～69 歳 39 人、70～79 歳 35 人、80 歳以上 19 人、無回答 2 人となっており、記入者は女性がやや多く、高齢者の記入が目立っている。

記入内容は多岐にわたっており、その内容を逐一ここで紹介することはできないが、自由記述の内容からカテゴリーに分けて集計すると、100 ページのようである。

件数が多かったのは、「同和問題について」が 65 件で、「人権や差別問題全般について」(53 件)、「人権教育について」(44 件)がこれにつづく。

以下、記述内容から指摘できる特徴的な事柄について、みていくことにする。

まず、件数が最も多かった同和問題についてである。その記述内容は、教育・啓発のあり方、行政への要望、自身が見聞きした部落差別事象など、多様である。今回の調査の調査票には同和問題だけではなく、さまざまな人権問題に関する設問があがっており、調査対象となった市民は、それらに回答したうえで、自由記述欄への記入を行っているのだが、人権問題というと、同和問題をまず思い浮かべる市民が依然として多いのであろう。それに加えて、同和問題については、何らかの要望や疑問点をもつ市民も多いといえる。

同和問題に関する記述で多くみられたのは、いわゆる「寝た子を起こすな」という意見である。たとえば、「同和問題なんて学校で学ぶまで知らなかった。知らなければ差別はおこらないのだから、わざわざ学校で授業する必要はないと思う」(18～19 歳女性)、「同和地区内での中途半端な人権問題の教育は止めた方がよい。全く関心がなく、なんとも思っていなかったのに、変に意識させられて、逆に避けるようになってしまった。普通に何もしなければそこが同和地区であることも気づかず、何も思わなかったはずである。同和問題は行政が一所懸命に取り組むから、逆に皆の記憶に残って、差別がなくならないのでは？ 何も教育しなければ、皆んな同和のことなど忘れていってしまうと思う」(50～59 歳男性)といった記述である。

これらの記述は、何も知らない人にわざわざ同和問題を教える必要はなく、そのまま放置しておけば、同和問題は自然に解消するという主張である。現在の社会で同和地区に対する偏見や誤解が一切ないのであれば、同和問題について教える積極的な意義はないかもしれないが、現実には同和地区に対する偏見や誤解は根強く存在するのである。このことは、「寝た子を起こすな」と主張する人たちも認めるところであろう。

同和問題に関する教育を一切受けなくて、同和問題に関して何の知識も情報ももたないままであれば、この社会に根強く存在する同和地区に対する偏見や誤解に接した際、その偏見や誤解を簡単に受け入れてしまうかもしれない。同和問題に関する知識も情報ももたないのであるから、偏見や誤解を批判する力がないのである。現に問 9 では (56 ページ)、この 5 年間に 20.4%の人が同和地区や同和地区出身者に関する差別的な発言を直接聞いた経験があり、それを聞いた人の 11.7%が「そのとおりに思った」、57.2%が「そういう見方もあるのかと思った」と答えているのである (60 ページ)。何も教えなければ、差別が自然となくなることなく、同和問題に関する正しい知識や情報をもたなければ、同和地区や同和地区出身者に対する偏見や誤解を受け入れ、それらをさらに広げ

てしまうのである。それゆえ、偏見や誤解を正しく批判できる力をつけるためにも、同和問題について教育し、啓発する必要がある。「寝た子を起こすな」という考え方は、同和問題に関する教育や啓発そのものを否定するものであり、こうした考え方は未だに根強く存在する。こうした考えをもっている人たちがその考えの間違いに気づくことができるような啓発をしていかなければならないであろう。

人権教育に関する記述も 44 件あったが、「寝た子を起こすな」という記述は同和問題のほうに含めたので、この 44 件には人権教育を評価する記述や人権教育の手法に関する提案などが多くみられた。たとえば、「人権学習はとても大切だと思います。子どもが理解できる内容を、興味をもてるようなやり方で、小さいころから学び、自然な形で日常の出来事などを考えられるように 1 人 1 人なれば、みんなが住みやすい世界になるのではと思います。自分からアンテナをはらなくても、さりげなく人権についてのことが（情報が）入ってくるといいなと思います」（60～69 歳女性）という記述である。また、差別問題や人権全般についての記述も 53 件あったが、人権の大切さを強調する記述や、多様化する人権課題を学んでいきたい、互いに助け合い、行動することが大事だなど、さまざまな記述がみられた。

このように、自由記述欄には、差別をなくしていくための人権教育・啓発の意義を認め、それを推進していくべきだという内容の記述がみられたが、人権や差別を言いすぎるのではないかという批判もあった。また、同和問題に関しては、いわゆる「寝た子を起こすな」という同和問題に関する教育・啓発の必要性を認めない記述や、同和地区住民が行政から優遇されているという記述などがあった。

こうした批判や意見は、同和問題やその他の人権問題に対する誤解に根ざしているものが少なくない。それゆえ、市民のなかにある人権問題に関わるさまざまな誤解を解く啓発が重要となるが、人権問題に関して誤解をもつ人たちは、これまで行政が行ってきた人権問題に関する講演会やイベント等に参加することが少ない市民であると考えられる。その意味で、これまで行政が行ってきた人権啓発の声が届きにくかった市民ともいえる。したがって、こうした市民に対する啓発を進めるためには、啓発手法の検討が大きな課題となる。

加古川市人権に関する市民意識調査

本市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる人権文化の確立に向けて、平成30年に「加古川市人権教育及び人権啓発に関する基本計画」を策定し、人権に関するさまざまな施策を推進してまいりました。

この度、新しい計画を策定するにあたり、市内に居住されている18歳以上の3,000人の方々を無作為に選んで市民意識調査を実施し、市民の皆様のご意見をお聞かせいただき、計画策定の基礎資料にしてまいりたいと考えております。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、市民意識調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和3年11月

加古川市長 岡田 康裕

ご記入にあたってのお願い

- 1 回答は、無記名でお答えいただきますので、どなたのお答えかわからないようになっています。回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはいっさいありません。お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。
- 2 回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。なお、ご本人による記入が困難な場合は、家族の方等にご本人のご回答を代筆していただいても結構です。
- 3 それぞれの問いで、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
また、「その他(具体的に:)」を選ばれた場合は、()内にその内容をご記入ください。
- 4 ご記入いただきました調査票は、11月22日(月)までに、同封の返信用封筒に入れて、ご投函ください。(切手は不要です)
なお、返信用封筒に差出人のお名前を書いていただく必要はありません。
- 5 この調査についてのご質問等は、下記までお問い合わせください。

加古川市 市民協働部 人権文化センター

〒675-0032 加古川市加古川町備後 332-1

電話番号 079-451-5030 FAX 番号 079-426-0062

問1 あなたは「人権」を身近な問題として感じていますか。(○は1つ)

1 身近に感じている	2 身近に感じていない	3 わからない
------------	-------------	---------

問2 あなたは、次のようなことは人権侵害にあてはまると思いませんか。ア～シのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
ア 女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給料や昇進で低い評価を受けること	1	2	3	4	5
イ 企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること	1	2	3	4	5
ウ 障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること	1	2	3	4	5
エ 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること	1	2	3	4	5
オ 結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること	1	2	3	4	5
カ 性的な被害を受けた女性に対して、「夜遅くに外出した」、「スキがあった」などと周囲が非難すること	1	2	3	4	5
キ HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり解雇されたりすること	1	2	3	4	5
ク 犯罪被害者が名前や住所などを報道されること	1	2	3	4	5
ケ 非嫡出子（法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子）が結婚に際して不利益を受けること	1	2	3	4	5
コ 知的な障がいのある人や精神に障がいのある人の雇用が進まないこと	1	2	3	4	5
サ 外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること	1	2	3	4	5
シ 災害などの緊急時に日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること	1	2	3	4	5

問3 子どもの人権に関する意見について、あなたはどのように思いますか。ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う	どちらかといえば いい	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
ア 保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない	1	2	3	4	5	
イ 教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ	1	2	3	4	5	
ウ 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい	1	2	3	4	5	
エ 学校のルール等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない	1	2	3	4	5	
オ 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ	1	2	3	4	5	
カ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ	1	2	3	4	5	

問4 あなたは、ここ5年くらいの間に自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○は1つ)

1 よくある 2 ときどきある

3 ほとんどない 4 まったくない 5 わからない ▶ 問5へ

▶ 問4-1～問4-2は、問4で「1」、「2」を選んだ人にお聞きします。

問4-1 それはどのような人権侵害でしたか。(○はいくつでも)

- 1 あらぬ噂(うわさ)や悪口により、名誉・信用等を侵害された
- 2 警察官等の公務員から不当な扱いを受けた
- 3 地域で暴力、無理強い、仲間はずれなどの行為を受けた
- 4 配偶者やパートナーから暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた
- 5 職場などで地位や権限などを利用した嫌がらせ(パワー・ハラスメント)を受けた
- 6 プライバシーを侵害された
- 7 差別待遇(信条・性別・社会的身分等により不平等または不利益な扱い)を受けた
- 8 性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた
- 9 学校でいじめを受けた
- 10 インターネット(SNS*を含む)による中傷・いじめなどを受けた
- 11 その他(具体的に:))
- 12 おぼえていない

※SNS: ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのことを言います。

問4-2 人権侵害を受けたとき、どうされましたか。(〇はいくつでも)

1 黙って我慢した	2 自分で相手に抗議した
3 友人、家族に相談した	4 学校の先生に相談した
5 弁護士に相談した	6 職場の上司や地域の有力者に相談した
7 地域の民生・児童委員などに相談した	8 市民団体等に相談した
9 法務局や人権擁護委員などに相談した	10 市役所に相談した
11 警察に相談した	
12 その他(具体的に:)
13 おぼえていない	

問5 次のような家族に関わるいろいろな見方や考え方について、あなたはどのように思いますか。ア～シのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う	どちらかといえば いい	どちらとも いえない	どちらかといえば 悪い	そう思わない
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5	
イ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	
ウ 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ	1	2	3	4	5	
エ 子どもが3歳くらいまでは、母親は育児に専念するべきだ	1	2	3	4	5	
オ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5	
カ 妻が働いていなくても、夫も家事・育児をすべきだ	1	2	3	4	5	
キ 自分の身内は同和地区出身者と結婚してほしくない	1	2	3	4	5	
ク 結婚したら妻は夫の姓を名乗る方がよい	1	2	3	4	5	
ケ 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ	1	2	3	4	5	
コ 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある	1	2	3	4	5	
サ 自分の身内に同性愛者はいてほしくない	1	2	3	4	5	
シ 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない	1	2	3	4	5	

問6 あなたは、憲法により義務ではなく、「国民の権利」と決められているのはどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1 思っていることを世間に発表する | 2 税金を納める |
| 3 目上の人に従う | 4 道路の右側を歩く |
| 5 人間らしい暮らしをする | 6 労働組合をつくる |
| 7 わからない | |

問7 あなたは小学校、中学校または高校で差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。また、その教育を受けて、内容はどうでしたか(〇は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 受けたことがあります、内容は興味深かった |
| 2 受けたことがあるが、内容はつまらなかった |
| 3 受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない |
| 4 受けたことがない →問8へ |

▶問7-1は、問7で「1」、「2」、「3」を選んだ人にお聞きします。

問7-1 どういう内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 女性の人権問題 |
| 2 高齢者の人権問題 |
| 3 障がいのある人の人権問題 |
| 4 同和問題 |
| 5 在日韓国・朝鮮人の人権問題 |
| 6 外国人労働者とその家族の人権問題 |
| 7 HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題 |
| 8 ハンセン病回復者*の人権問題 |
| 9 アイヌ民族の人権問題 |
| 10 子どもの人権問題 |
| 11 子どもの権利条約 |
| 12 性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の人権問題 |
| 13 その他(具体的に:.....) |
| 14 おぼえていない |

※ハンセン病回復者:ハンセン病は、「らい菌」によって引き起こされる慢性の感染症です。過去の積み重ねられた誤った認識により、ハンセン病回復者に対する偏見や宿泊拒否などの差別が今なお生じています。現在は、患者であったことを理由に差別することは法律で禁止されています。

加古川市人権文化センター
マスコットキャラクター「ライトン」
顔に人権の「人」。おでこのライトで未来を明るく照らします。



問8 結婚相手が同和地区の人であるということを理由に、家族から結婚を反対されている親戚がいるとします。あなたがその方から相談を受けた場合、どのような態度をとると思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 反対する家族を説得するなど、力になろうと言う
- 2 迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う
- 3 慎重に考えなさいと言う
- 4 あきらめるように言う
- 5 どう言えばよいのかわからない
- 6 その他(具体的に:))

問9 あなたは、ここ5年くらいの間に同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(○は1つ)

- 1 同和地区の人(子ども)とは、付き合っては(遊んでは)いけない
- 2 同和地区の人とは、結婚してはいけない
- 3 同和地区の人はこわい
- 4 同和地区の人は無理難題を言う
- 5 同和地区は治安が悪い
- 6 住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けた方がいい
- 7 聞いたことはない →問10へ

▶問9-1～問9-2は、問9で「1」～「6」を選んだ人にお聞きします。

問9-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(○は1つ)

- 1 家族
- 2 親戚
- 3 近所の人
- 4 友人
- 5 職場の人
- 6 知らない人
- 7 その他(具体的に:))

問9-2 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(○は1つ)

- 1 そのとおりと思った
- 2 そういう見方もあるのかと思った
- 3 反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった
- 4 反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた
- 5 とくに何も思わなかった

問 10 あなたは、同和問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがありますか。(○はひとつ)

1 インターネットを利用したことがない	▶ 問 11 へ
2 インターネットを利用しているが、見たことがない	
3 見たことがある →問10-1へ	

▶問10-1は、問10で「3 見たことがある」と回答された人にお聞きします。

問10-1 それはどのような内容のものでしたか。(○はいくつでも)

1 個人を名指しした悪口
2 個人を名指ししない、集団に対する悪口
3 同和地区名の公表
4 差別の呼びかけ
5 その他 ()

問 11 あなたは、次のようなことは人権の観点から問題があると思いますか。ア～コのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	問題だと思う	問題だと思う どちらかといえば	どちらとも いえない	問題だと思わない どちらかといえば	問題だと思わない
ア 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと	1	2	3	4	5
イ 凶悪事件の場合は、未成年者であっても犯人の実名を公表すること	1	2	3	4	5
ウ 中学・高校の女子生徒の制服がスカートに限定され、ズボンが認められないこと	1	2	3	4	5
エ 国際的にみて、日本が難民の受け入れに消極的であること	1	2	3	4	5
オ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないこと	1	2	3	4	5
カ 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること	1	2	3	4	5
キ ヘイト・スピーチ※に対して法的な罰則が設けられていないこと	1	2	3	4	5
ク 妊娠した女性に親や夫の親などが、出生前診断(胎児の染色体異常を調べる検査等)を受けるように要求すること	1	2	3	4	5
ケ さまざまな書類に性別の記入欄が設けられていること	1	2	3	4	5
コ 国会議員に占める女性割合が低いこと	1	2	3	4	5

※ヘイト・スピーチ：在日韓国・朝鮮人などに対して、民族的な差別や憎悪を表明する街宣活動。

問12 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。ア～キのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	いえない どちらとも	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
ア 同和問題は、人権にかかわる問題だから、その解決のためには社会全体で取り組み、自分も努力すべきだ	1	2	3	4	5
イ 同僚に同性愛者や性同一性障害のある人がいる職場では働きたくない	1	2	3	4	5
ウ どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、尊重されるべきだ	1	2	3	4	5
エ 性同一性障害のために、性別変更を望む人は、同性愛者である	1	2	3	4	5
オ 新型コロナウイルスの感染が怖いので、日常生活で医療従事者やその家族との接触は避けたい	1	2	3	4	5
カ 家族から新型コロナウイルスに感染してしまった人は気の毒だが、多人数の宴会で感染した人は自業自得だ	1	2	3	4	5
キ ホームレスになるのは、本人の責任が大きい	1	2	3	4	5

問13 あなたが住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っても、次のような物件の場合、避けることがありますか。ア～オのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	避けると思う	避けると思う どちらかといえば	いえない どちらとも	避けないと思う どちらかといえば	まったく気にしない
ア 近隣に障がい者施設がある	1	2	3	4	5
イ 近隣に外国人の住民が多く住んでいる	1	2	3	4	5
ウ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	1	2	3	4	5
エ 近隣に同和地区がある	1	2	3	4	5
オ 同和地区の地域内である	1	2	3	4	5

問14 スマートフォンや携帯、パソコンなどのインターネット上での下記のような書き込みや行為についてどう思いますか。ア～カのそれぞれについて選んでください。
(○はそれぞれ1つ)

	問題だと思 う	問題だと思 う	ど ち ら か と い え ば ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば 問 題 だ と 思 わ な い	問 題 だ と 思 わ な い
ア 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み	1	2	3	4	5
イ 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み	1	2	3	4	5
ウ 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み	1	2	3	4	5
エ 同和地区出身者の名前や住所を明らかにするような書き込み	1	2	3	4	5
オ 同和地区に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み	1	2	3	4	5
カ 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げたりする書き込み	1	2	3	4	5



問15 さまざまな人権問題に関する市民の理解を深めるため、市（教育委員会を含む）や団体などが主催している講演会、研修会などに、あなたは参加したことがありますか。また、それらの講演会、研修会などに参加して、内容はどうでしたか。（○は1つ）

- 1 参加したことがあり、内容は興味深かった
- 2 参加したことがあるが、内容はつまらなかった
- 3 参加したことがあるが、内容をよくおぼえていない
- 4 参加したことがない →問16へ

▶ 問 15-1 は、問 15 で「1」、「2」、「3」を選んだ人にお聞きします。

問 15-1 参加されたのはどういう種類のものでしたか。（○はいくつでも）

- 1 市（教育委員会を含む）が主催した講演会や研修会
- 2 公民館での講座や学級
- 3 加古川市人権・同和教育協議会が主催した講演会や研修会
- 4 小学校区の同和教育協議会が主催した講演会や研修会
- 5 P T Aや学校などでの講演会や研修会
- 6 町内会等が主催した講演会や研修会（町懇、地区懇など）
- 7 その他の人権団体が主催した講演会や研修会
- 8 その他（具体的に：.....）
- 9 おぼえていない

問16 あなたは、加古川市で年5回発行している「加古川市人権文化センターだより」を読んでいますか。（○は1つ）

- 1 毎回読んでいる
- 2 読んだことがある
- 3 読んだことがない
- 4 知らない



問17 加古川市及び各団体が実施している取り組みについて知っていますか。ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	内容もきめ おおむね知っている	名前は聞いたことがある	知らない
ア かこがわハートフルフェスタ	1	2	3
イ ウィンターステージ	1	2	3
ウ 人権ひろば	1	2	3
エ 人権フォーラム	1	2	3
オ 明日をひらく人権のつどい	1	2	3
カ 人権文化センターチャンネル (YouTube)	1	2	3



加古川市人権に関する市民意識調査結果報告書

令和4年（2022年）3月

発行 加古川市 市民協働部 人権文化センター
〒675-0032 加古川市加古川町備後 332-1
電話番号 079-451-5030 FAX 番号 079-426-0062